

令和元年度

埼玉県政世論調査結果の概要

県政世論調査は、県政の重要課題に対する県民の関心、意識、要望などを把握し、施策の立案及び推進の資料として活用するため、昭和43年度から毎年度実施しています。

今年度は、課題調査として「大地震に備えた取組」「生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等」の2つのテーマと、定期調査（時系列項目）として「生活意識」「日常生活」「県政への要望」について調査を行いました。

【目 次】

○ 調査のあらまし	3
I 調査結果のポイント	5
II 調査結果（単純集計結果）	15
1 生活意識	16
2 日常生活	27
3 県政への要望	58
4 大地震に備えた取組	64
5 生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等	76
（参考資料）世論調査実施状況	85

＜本調査の内容及び結果についてのお問い合わせ先＞

埼玉県県民生活部広聴広報課 広聴・知事への提案担当

電話 048-830-2850（直通）

○ 調査のあらまし

1 調査の目的

県民の県政に対する要望、意見及び県民の生活意識などを把握し、県政推進のための資料とする。

2 調査の項目

この調査の項目は次のとおりである。

- ア 生活意識（昨年と比べた暮らし向き、生活程度、生活全体の満足度、各生活面に対する満足度、埼玉県に魅力を感じるかを感じるか）
- イ 日常生活
- ウ 県政への要望
- エ 大地震に備えた取組について
- オ 生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等について

3 調査の設計

この調査は次のように設計した。

- ア 調査地域 埼玉県全域
- イ 調査対象 満18歳以上の男女個人
- ウ 標本数 3,000
- エ 抽出方法 住民基本台帳による層化2段無作為抽出法
- オ 調査方法 調査員による個別面接聴取法
- カ 調査時期 令和元年7月5日～7月31日
- キ 調査実施委託機関 株式会社 サーベイリサーチセンター

4 回収結果

（ア）有効回収数（率）1,995（66.5%）

（イ）調査不能数（率）1,005（33.5%）

〔調査不能の内訳〕	転居	62（6.2%）	長期不在	44（4.4%）
	一時不在	361（35.9%）	住所不明	44（4.4%）
	拒否	436（43.4%）	病気・入院	30（3.0%）
	その他	28（2.8%）		

5 回答者の属性

（1）性別

総数	男性	女性
1,995	962	1,033
100.0	48.2	51.8

（2）年代別

総数	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1,995	28	151	255	393	349	392	427
100.0	1.4	7.6	12.8	19.7	17.5	19.6	21.4

6 調査結果の見方

- （1）結果は、百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- （2）一人の対象者に2つ以上の回答を認めた質問では、回答の合計を回答者（n）で割った比率を算出しており、通常その百分率の合計は、100%を超える。また、この回答の合計数をM.T.として表示した。
- （3）年代別、性別・年代別の集計に当たっては、18・19歳の標本数が少ないため、20歳代と合わせて10歳代・20歳代として集計したうえで、他の年代と比較している。

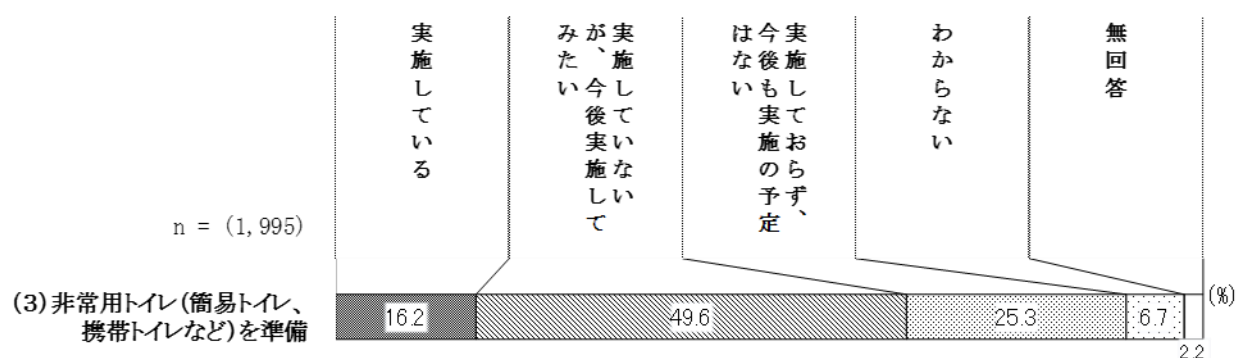
I 調査結果のポイント

1 課題調査

大地震に備えた取組

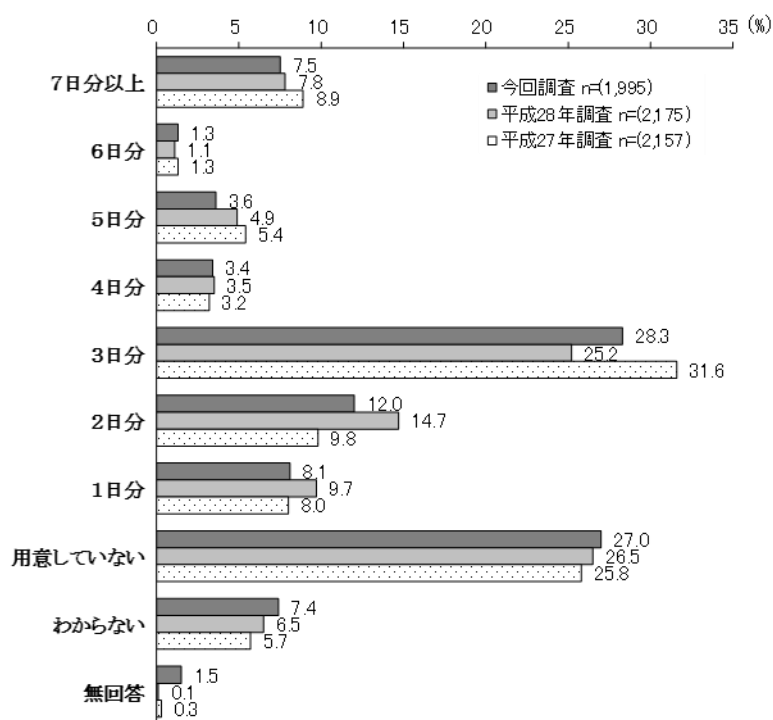
1 あなたの家では、大地震に備えるために、どのような取組を実施していますか。(1)から(8)までのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

- ・下記は、「(3)非常用トイレ(簡易トイレ、携帯トイレなど)を準備」の項目のグラフである
- ・「実施していないが、今後実施してみたい」が49.6%、「実施している」が16.2%



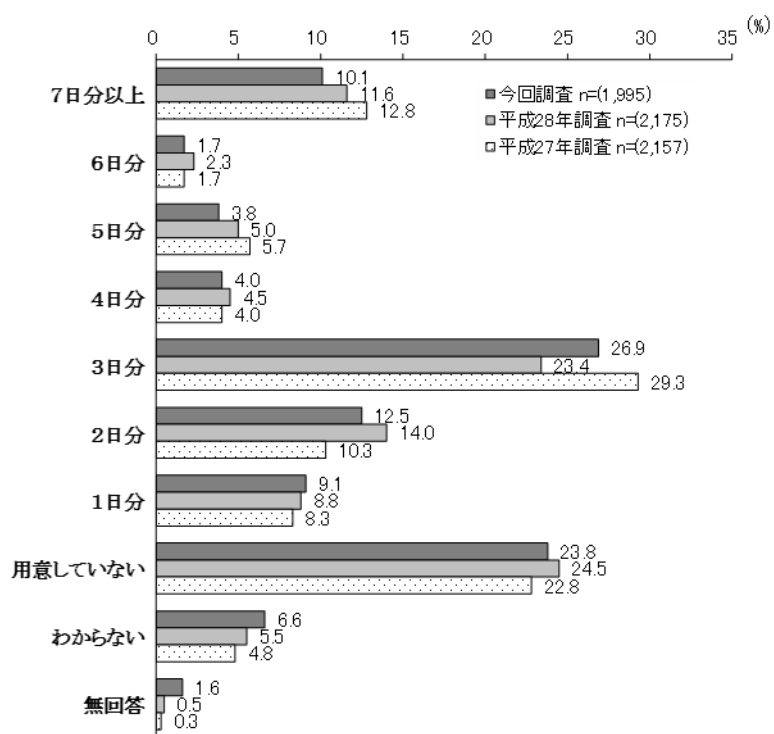
2 あなたの家では、災害時に利用できる食料品及び飲料水を何日分用意していますか。

- ・下記は、「食料品」のグラフである
- ・「3日分」(28.3%)が3割弱と最も多く、「3日分」以上と回答した人の割合を合わせた「3日以上(計)」(44.1%)は4割台半ばとなっている



・下記は「飲料水」のグラフである

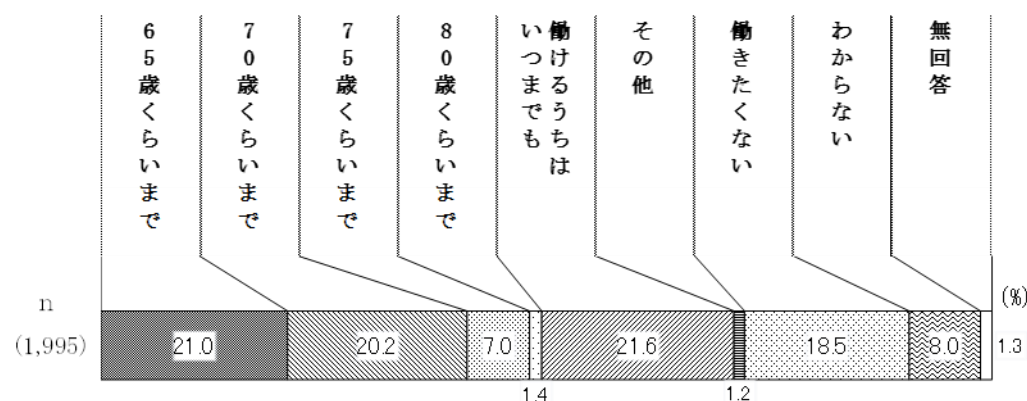
・「3日分」(26.9%)が2割台半ばを超えて最も多く、「3日以上(計)」(46.5%)は4割台半ばを超えている。



生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等について

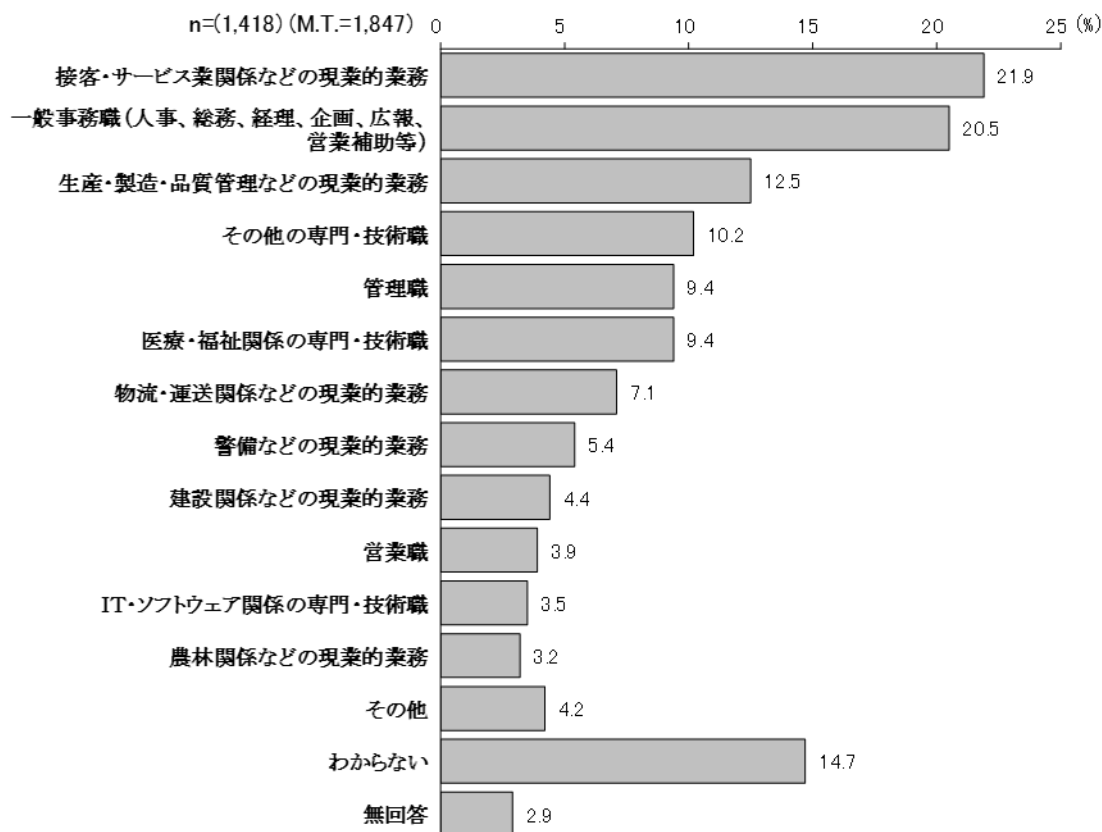
- 1 あなたは、60歳以降に働くとしたら、何歳まで働きたいと思いますか。
(60歳以上の方は、60歳当時または今後の希望についてお答えください。)

・「働けるうちはいつまでも」(21.6%)が2割強と最も高く、次いで「65歳くらいまで」(21.0%)、
「70歳くらいまで」(20.2%)



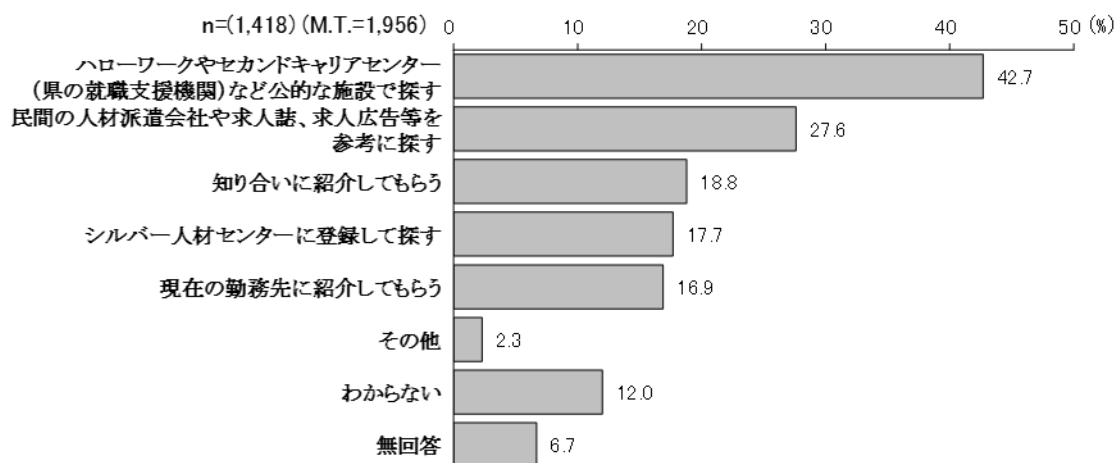
- 2 あなたは、60歳以降も働くとしたら、どのような仕事で働きたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- ・「接客・サービス業関係などの現業的業務」(21.9%)が2割強
- ・次いで「一般事務職(人事、総務、経理、企画、広報、営業補助等)」(20.5%)が2割を超え、「生産・製造・品質管理などの現業的業務(12.5%)」が1割強



2 あなたは、60歳以降新しい職場を探すとしたら、主にどのような方法で探したいですか。あてはまるものをすべて選んでください。
(60歳以上の方は、60歳当時の希望についてお答えください。)

- ・「ハローワークやセカンドキャリアセンター(県の就職支援機関)など公的な施設で探す」(42.7%)が4割強
- ・次いで「民間の人材派遣会社や求人誌、求人広告等を参考に探す」(27.6%)が2割代半ばを超え、「知り合いに紹介してもらう」(18.8%)が2割弱



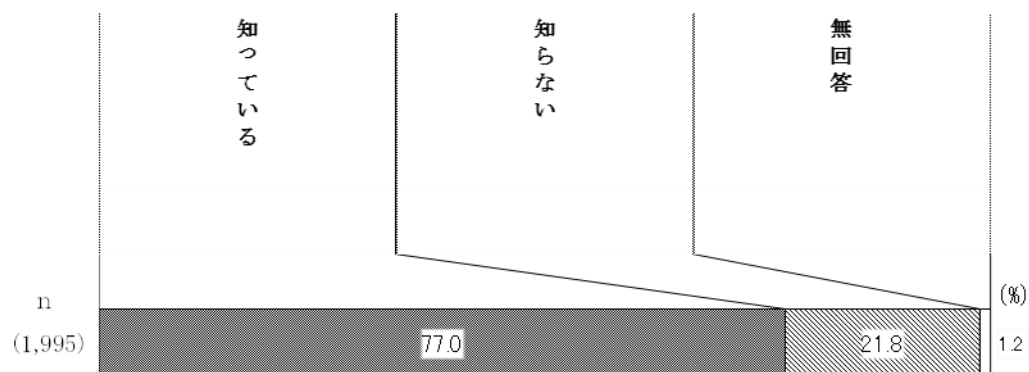
2 定期調査（日常生活）

東京2020オリンピック・パラリンピックに関する項目は、大会開催まで継続実施

東京2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県内開催の認知状況

あなたは、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が埼玉県内で開催されることを知っていますか。

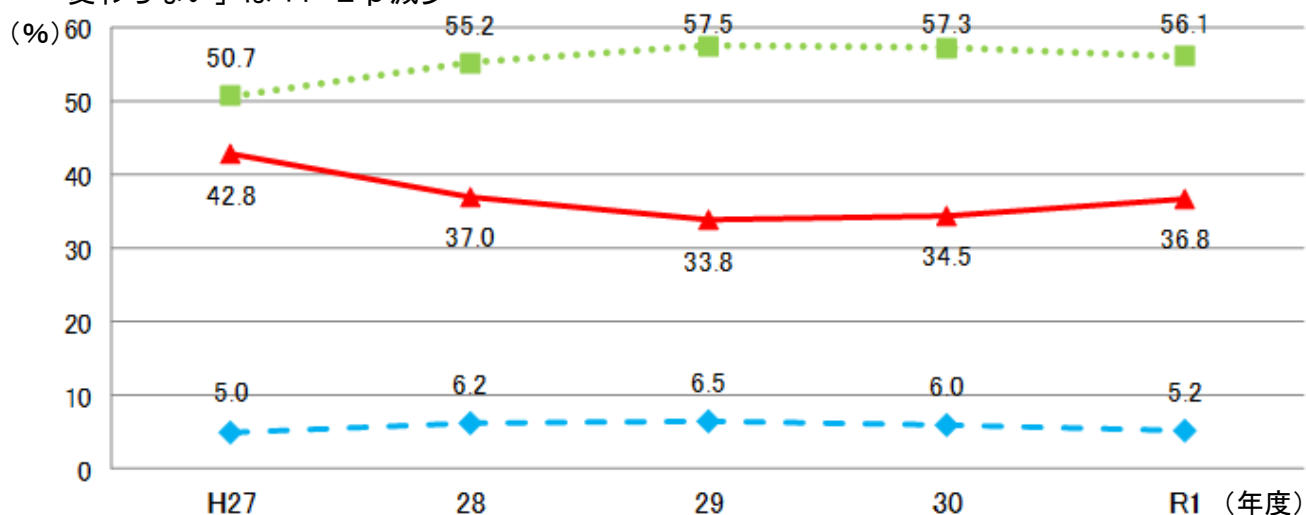
・「知っている」(77.0%)が7割台半ばを超えた



3 定期調査（生活意識）

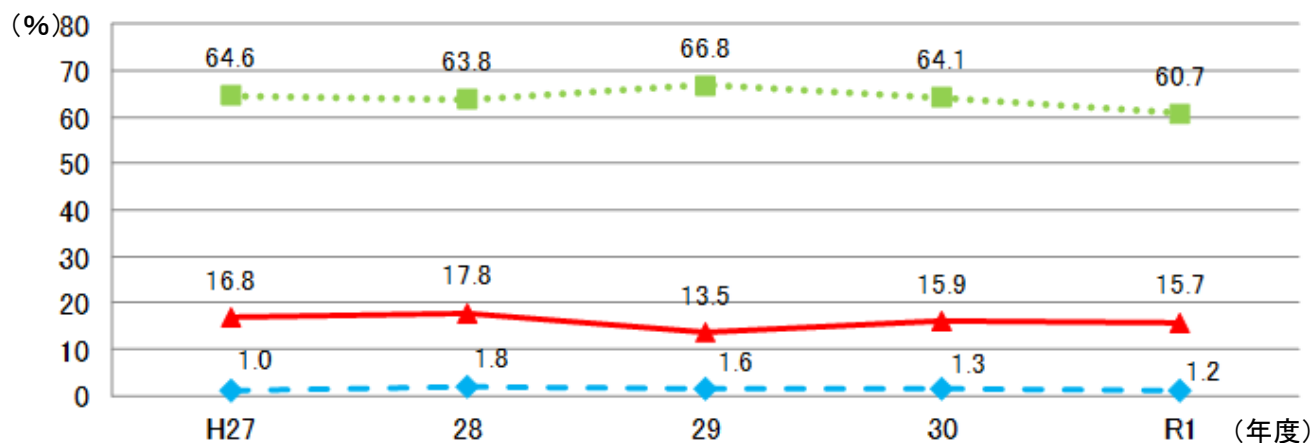
昨年と比べた暮らし向き

- ・「楽になった(計)」は昨年と比べて横ばい
- ・「苦しくなった(計)」は2.3p増加
- ・「変わらない」は1.2p減少



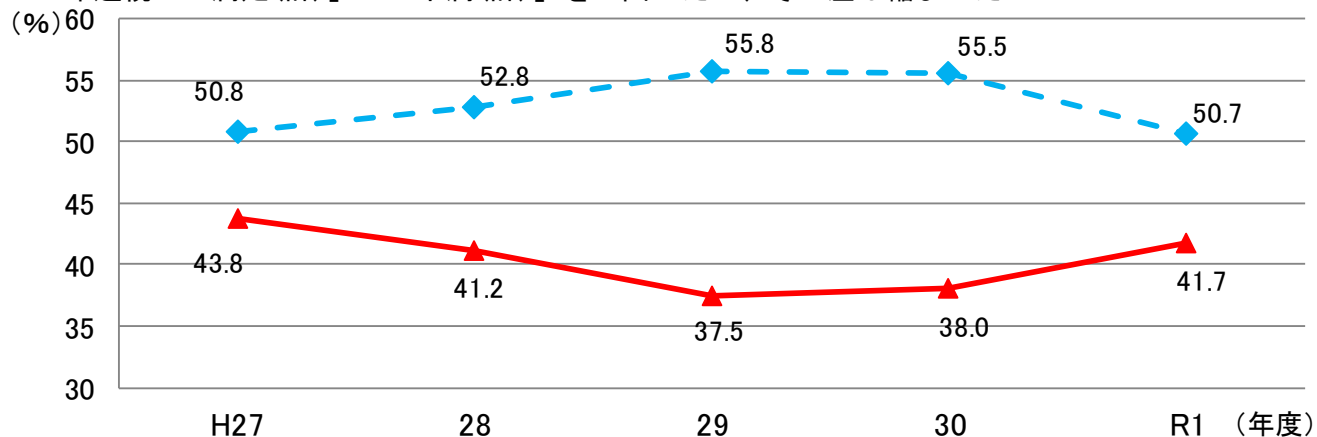
生活の程度

- ・「上(計)」と「下(計)」は昨年と比べて横ばい
- ・「中(計)」は3.4p減少



生活全体の満足度

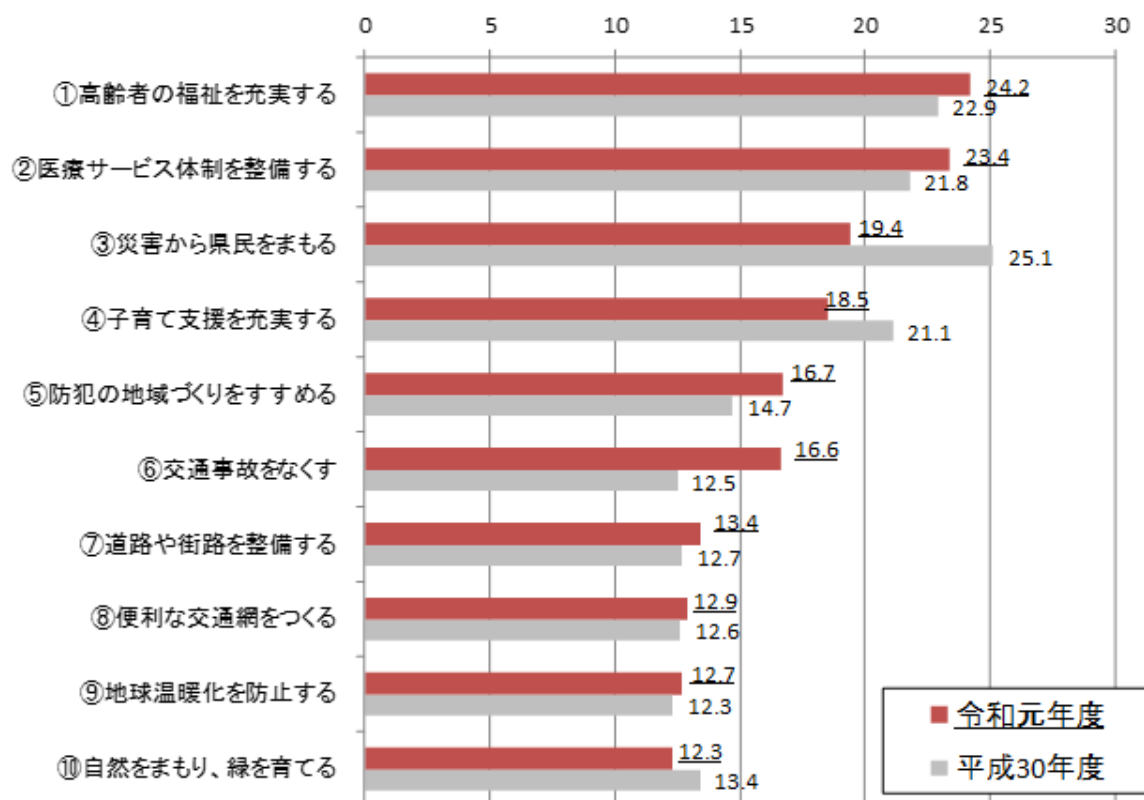
- ・5年連続で「満足(計)」が「不満(計)」を上回ったが、その差は縮まった



4 定期調査（県政への要望）

- ・「高齢者の福祉を充実する」が1.3p増加し、2年ぶりに第1位となった
- ・「交通事故をなくす」が4.1p増加して第6位に上昇した

(%)



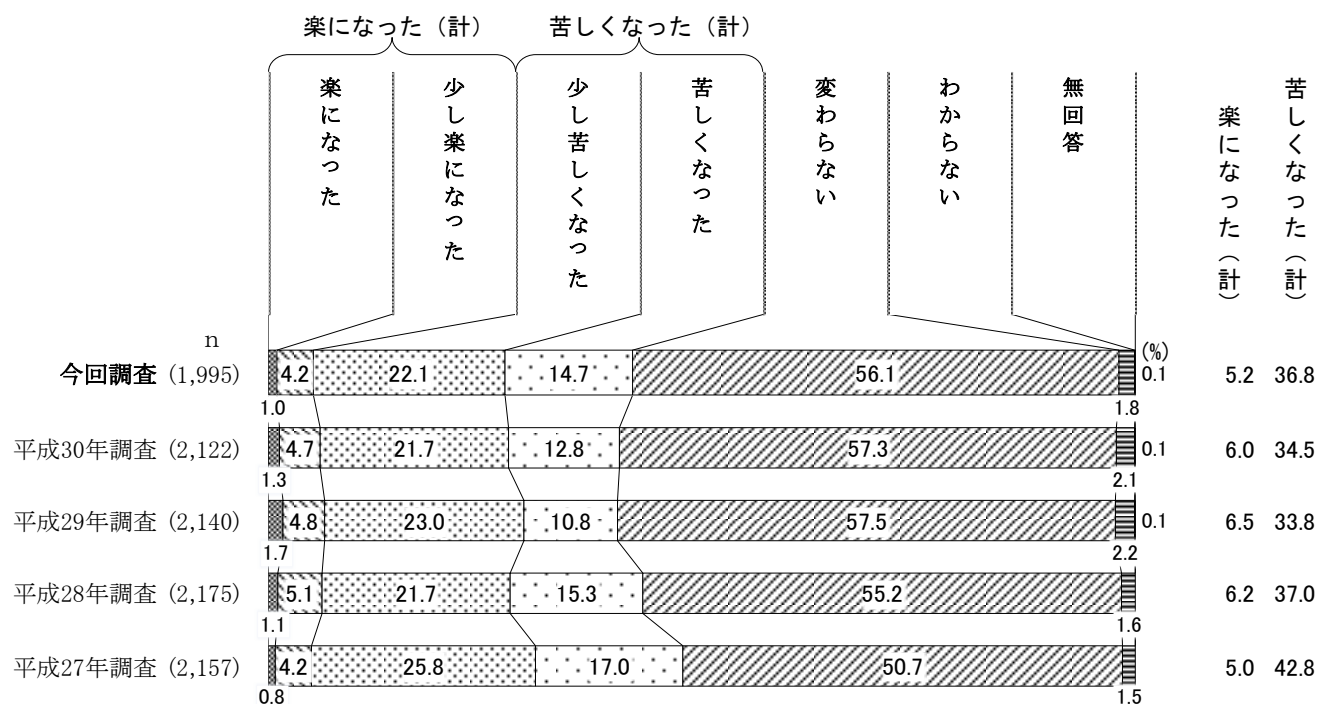
Ⅱ 調査結果（単純集計結果）

1. 生活意識

(1) 昨年と比べた暮らし向き

◇「変わらない」56.1%、『苦しくなった（計）』36.8%、『楽になった（計）』5.2%

問1 最初に、あなたの生活意識についておたずねいたします。お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろと比べて楽になりましたか、それとも、苦しくなりましたか。



暮らし向きが「楽になった」（1.0%）と「少し楽になった」（4.2%）を合わせた『楽になった（計）』は5.2%となっている。一方で、「苦しくなった」（14.7%）と「少し苦しくなった」（22.1%）を合わせた『苦しくなった（計）』（36.8%）は3割台半ばを超えている。「変わらない」（56.1%）は5割台半ばを超えており、『苦しくなった（計）』を19.3ポイント上回った。

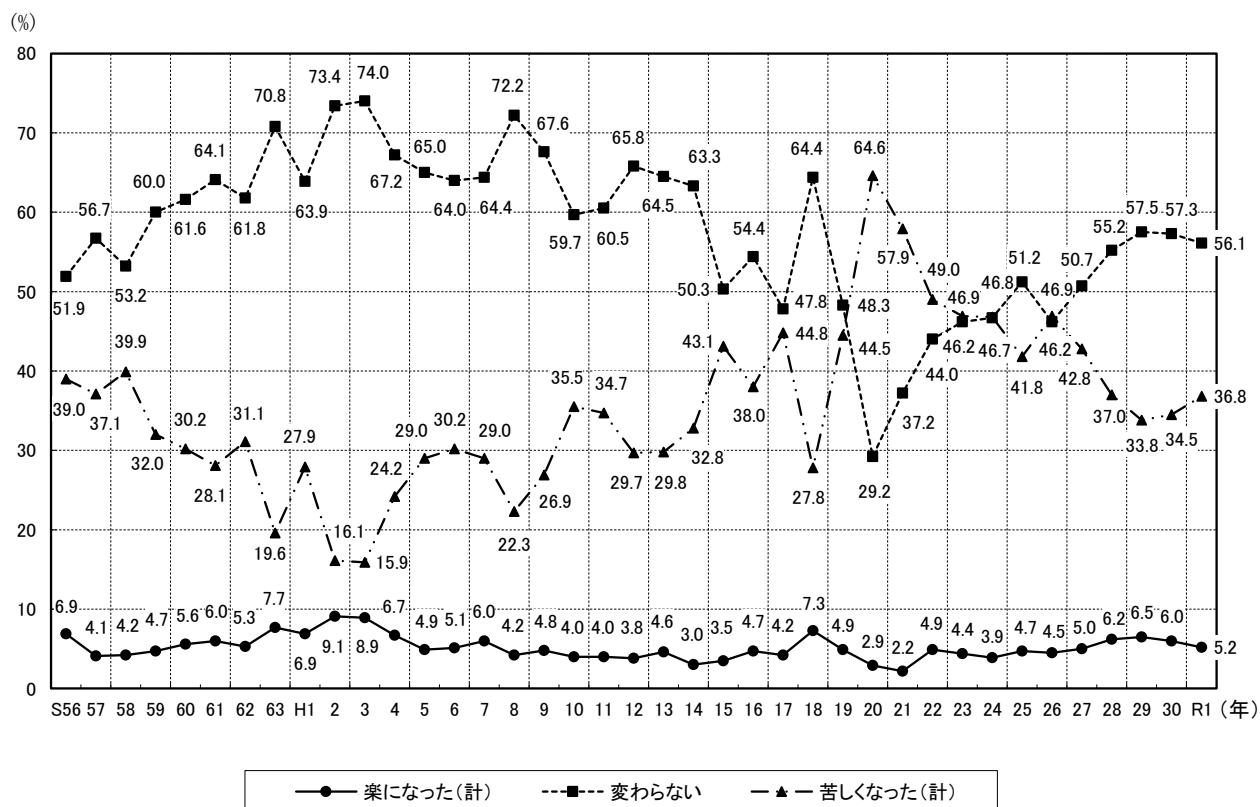
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『苦しくなった（計）』が2.3ポイント増加している一方で、「変わらない」が1.2ポイント減少している。

【経年比較】

この調査を開始した昭和56年以降の推移をみると、『苦しくなった（計）』は最も高かった平成20年（64.6%）からの減少傾向に対し、平成30年調査から2年連続で増加に転じた。平成27年調査から5年連続で「変わらない」が『苦しくなった（計）』を上回った。

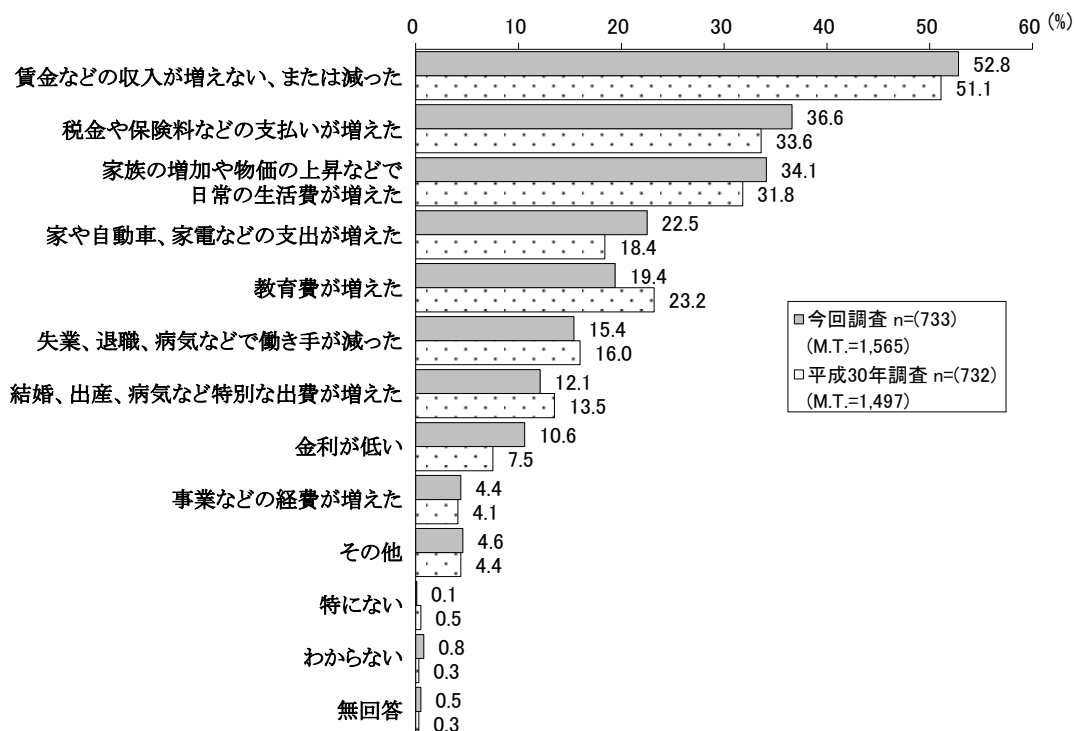
○昨年と比べた暮らし向き・昭和56年以降の推移



(1-1) 暮らし向きが苦しくなった理由

◇「賃金などの収入が増えない、または減った」が52.8%と最も高い

(問1で「3. 少し苦しくなった」または「4. 苦しくなった」と答えた方に)
問1-1 その理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



暮らし向きが苦しくなった理由は、「賃金などの収入が増えない、または減った」(52.8%)が5割強と最も高く、次いで、「税金や保険料などの支払いが増えた」(36.6%)、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」(34.1%)、「家や自動車、家電などの支出が増えた」(22.5%)、「教育費が増えた」(19.4%)、「失業、退職、病気などで働き手が減った」(15.4%)などとなっている。

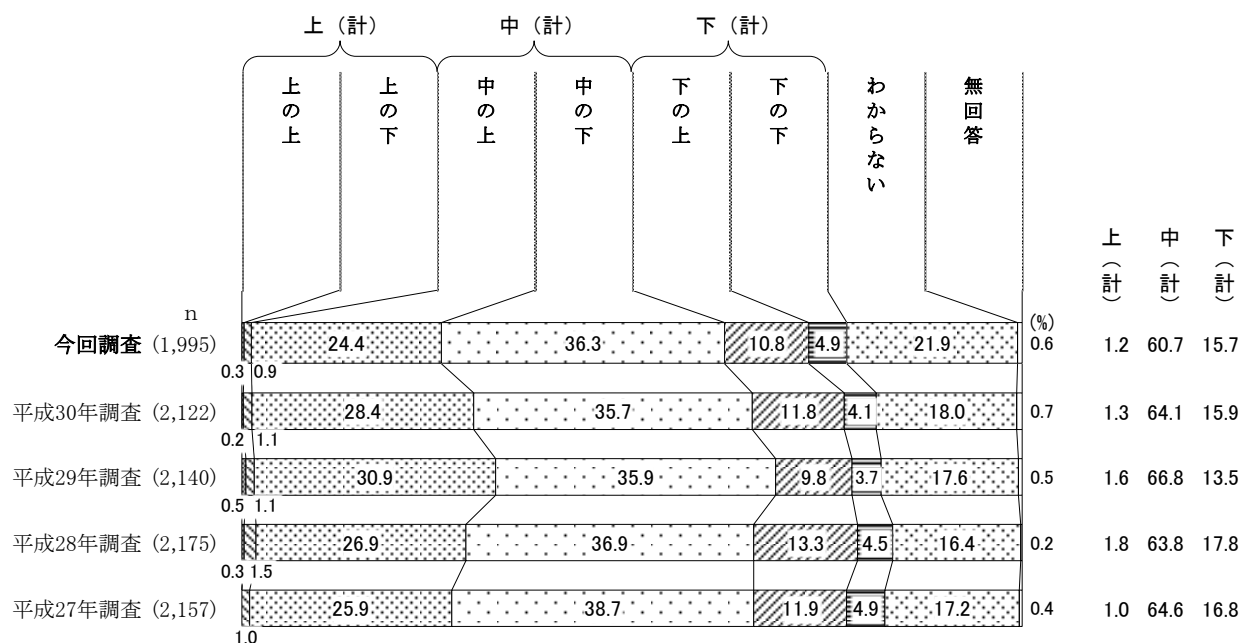
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、「家や自動車、家電などの支出が増えた」(4.1ポイント増)、「金利が低い」(3.1ポイント増)、「税金や保険料などの支払いが増えた」(3.0ポイント増)などが増加し、「教育費が増えた」(3.8ポイント減)などが減少している。

(2) 生活程度

◇『中（計）』が60.7%、『下（計）』は15.7%

問2 お宅の現在の生活程度は、世間一般からみて、この中のどれに属すると思いますか。



世間一般からみた生活程度は、「中の下」(36.3%) が最も高く、次いで、「中の上」(24.4%) となっている。両者を合わせた『中（計）』(60.7%) は6割を超えている。同様に「下の上」(10.8%) と「下の下」(4.9%) を合わせた『下（計）』(15.7%) は1割台半ば、「上の上」(0.3%) と「上の下」(0.9%) を合わせた『上（計）』は1.2%となっている。

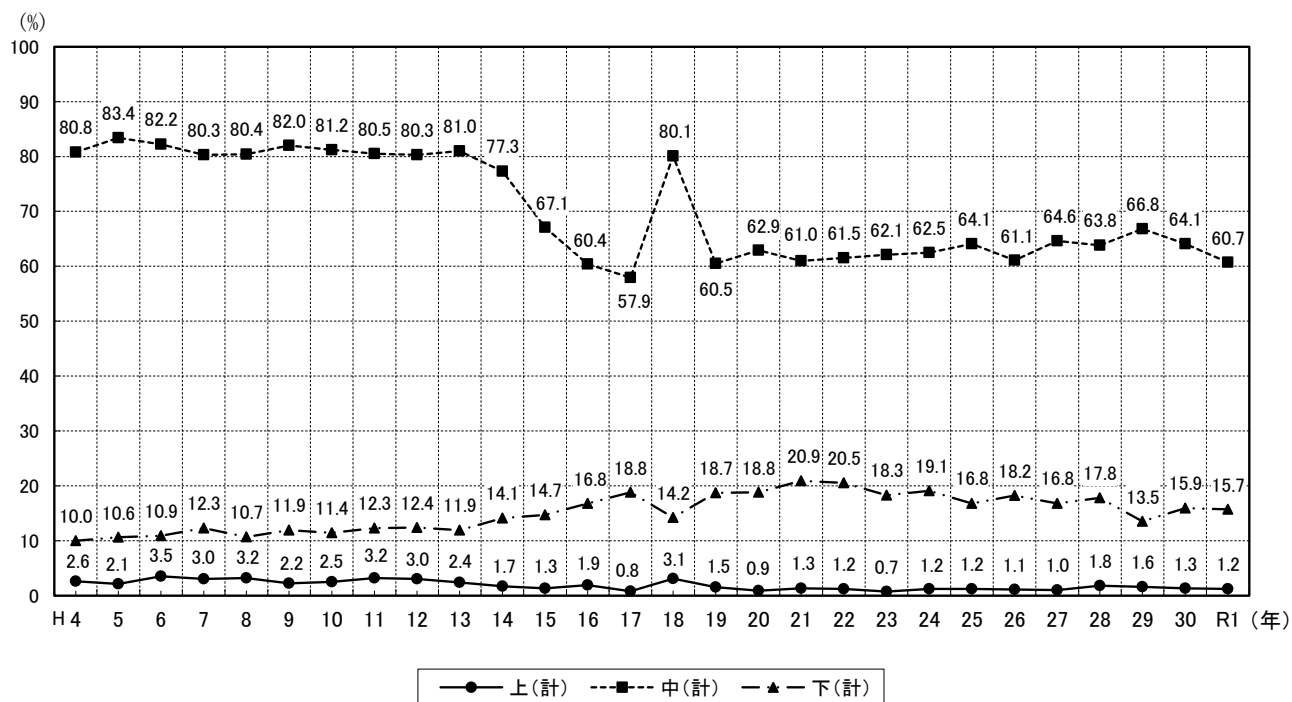
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『中（計）』が3.4ポイント減少している。

【経年比較】

平成19年以降、『中（計）』が6割台で推移しているものの、平成30年調査からは2年連続で減少している。

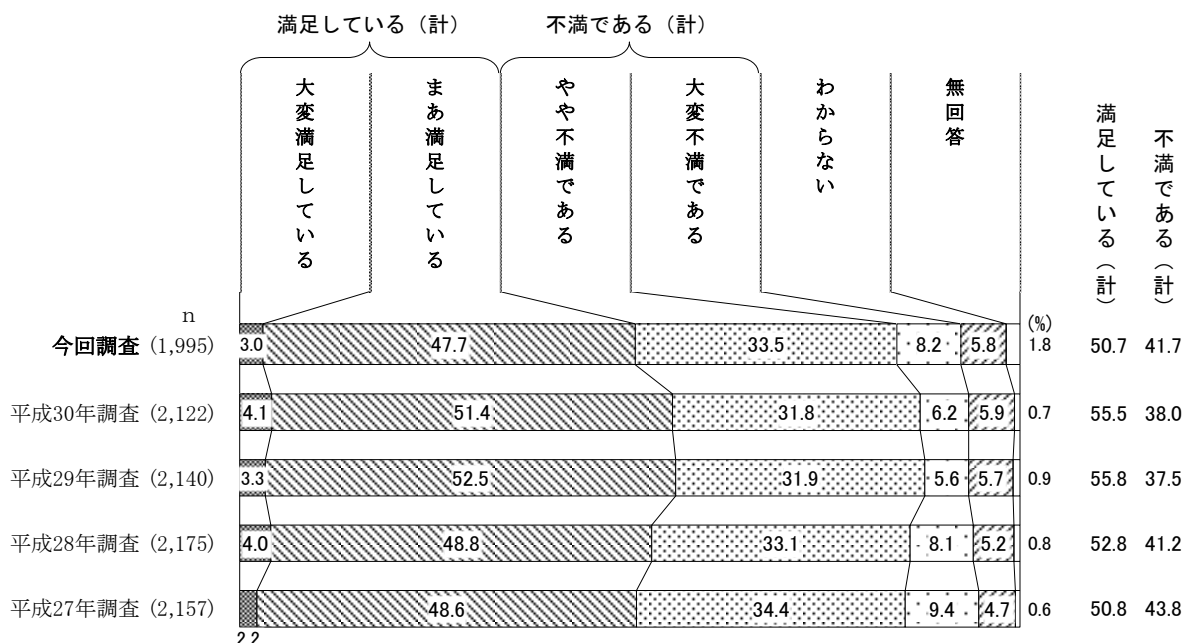
○生活程度・平成4年以降の推移



(3) 生活全体の満足度

◇『満足している（計）』は50.7%、『不満である（計）』は41.7%

問3 あなたは、現在の生活について、全体としてどの程度満足していますか。



生活全体に対する満足度は、「まあ満足している」が47.7%で最も高く、次いで、「やや不満である」が33.5%となっている。「大変満足している」（3.0%）と「まあ満足している」（47.7%）を合わせた『満足している（計）』（50.7%）は5割を超え、「大変不満である」（8.2%）と「やや不満である」（33.5%）を合わせた『不満である（計）』（41.7%）は4割強となっている。『満足している（計）』が『不満である（計）』を9.0ポイント上回っている。

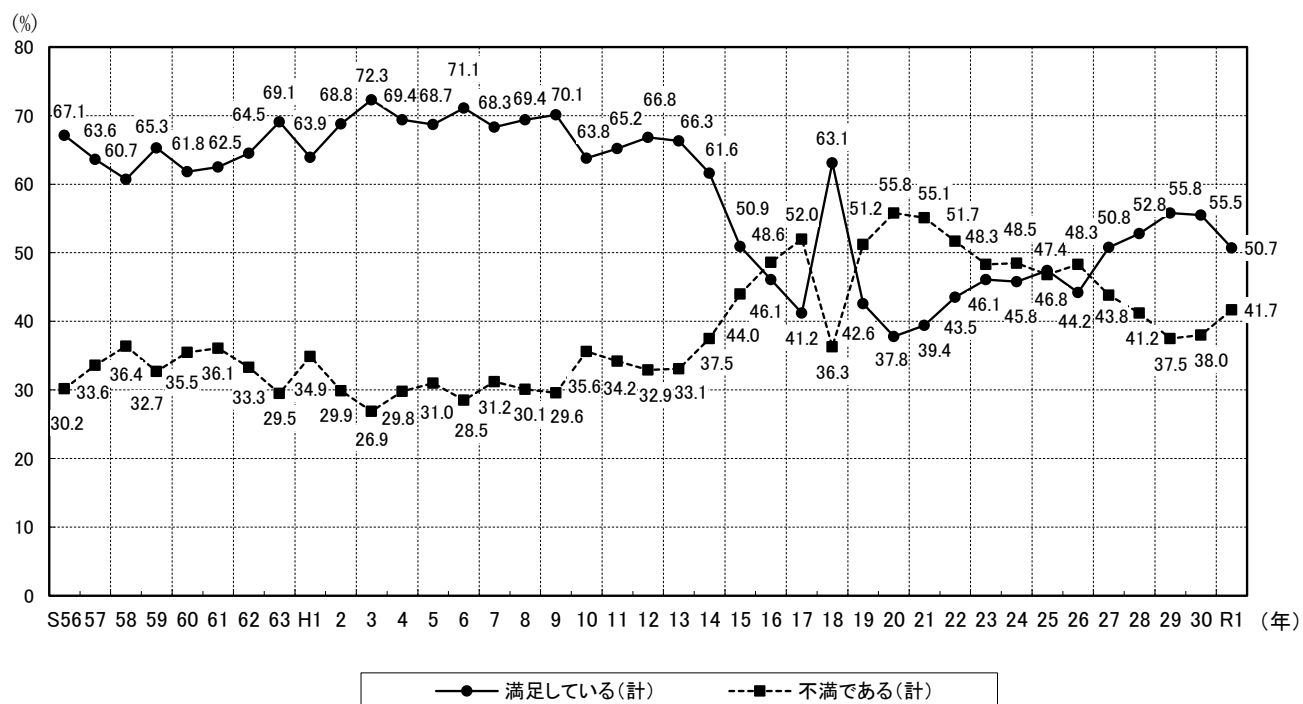
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『満足している（計）』は4.8ポイント減少し、『不満である（計）』は3.7ポイント増加している。

【経年比較】

昭和56年以降の推移をみると、平成19年以降『不満である（計）』の割合が『満足している（計）』をおおむね上回る傾向にあったが、『満足している（計）』の割合が平成27年調査（50.8%）で5割を超えて逆転した。今回調査でも、『満足している（計）』（50.7%）が『不満である（計）』（41.7%）を上回る傾向が5年連続となっているが、『不満である（計）』は3年ぶりに4割を超えている。

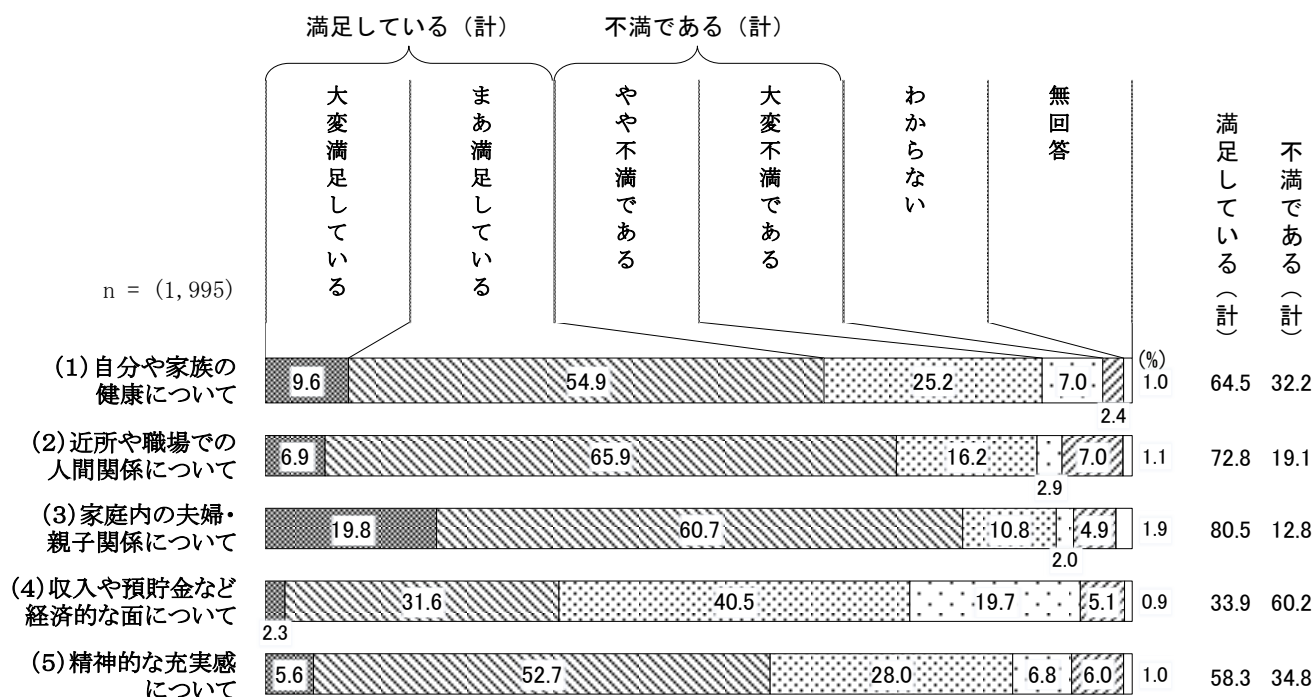
○生活全体の満足度・昭和56年以降の推移



(4) 各生活面に対する満足度

◇家庭内の夫婦・親子関係について『満足している（計）』が80.5%

問4 次にあげる5つの生活面について、あなたはどの程度満足していますか。

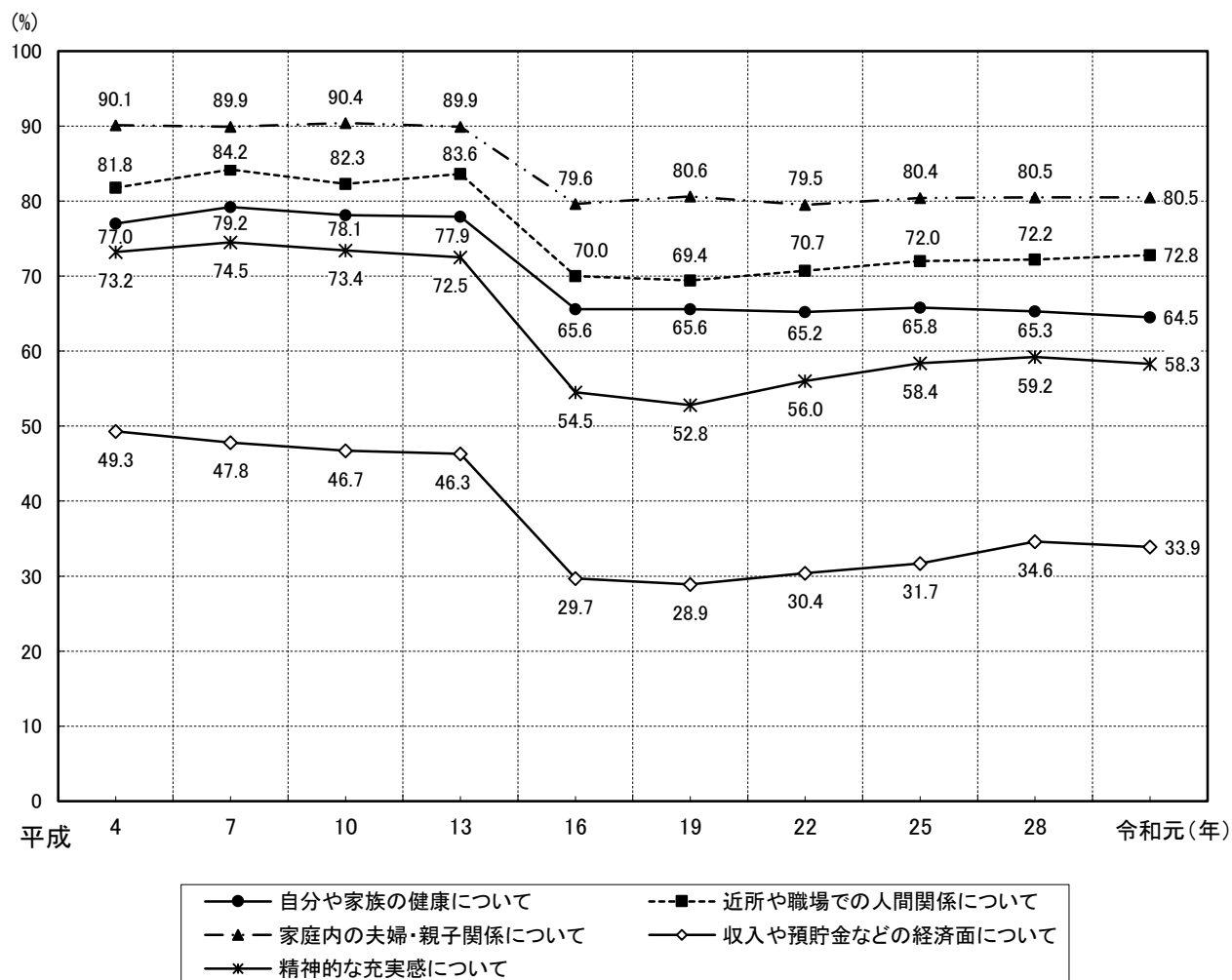


各生活面に対する満足度は、「まあ満足している」が（４）収入や預貯金など経済的な面についてを除くすべての生活面において半数を超えて最も高い割合となっている。「大変満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している（計）』をみると、（３）家庭内の夫婦・親子関係について（80.5%）が8割を超えて最も高くなっている。次いで、（２）近所や職場での人間関係について（72.8%）となっている。一方で、（４）収入や預貯金など経済的な面についてでは「大変不満である」と「やや不満である」を合わせた『不満である（計）』（60.2%）が6割を超えており、『満足している（計）』（33.9%）を上回っている。

【経年比較】

平成4年以降の満足度の推移（3年ごと）をみると、各項目とも平成4年から13年までは大きな変化はないが、平成16年にいずれも大きく減少し、今回はすべての項目で横ばいとなっている。

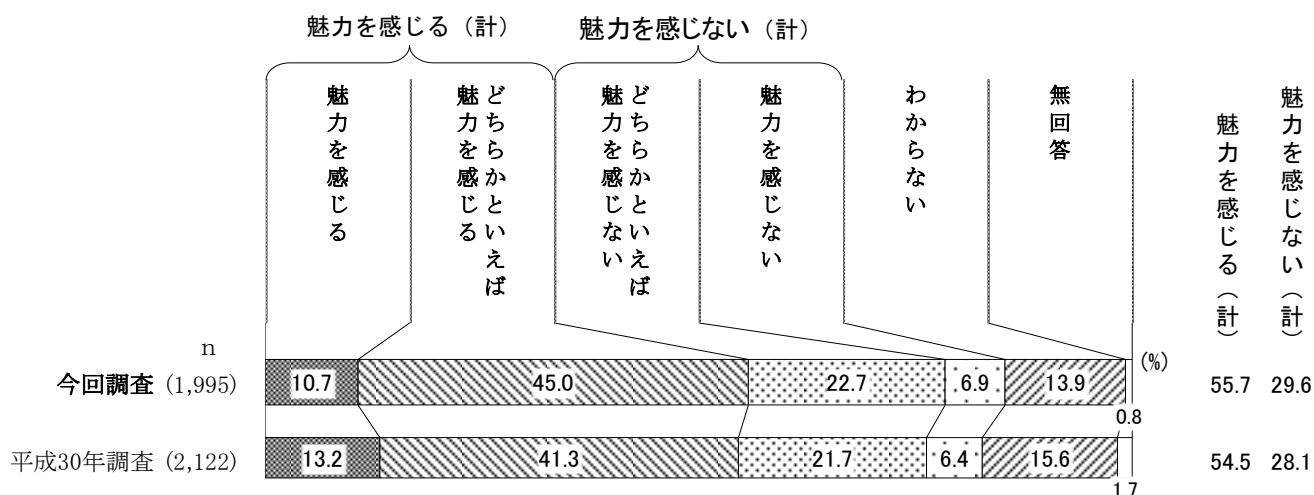
○各生活面に対する満足度・平成4年以降の満足層の推移



（５）埼玉県に魅力を感じるか

◇『魅力を感じる（計）』は55.7%、『魅力を感じない（計）』は29.6%

問５ あなたは、埼玉県に魅力を感じますか。



埼玉県に魅力を感じるかは、「どちらかといえば魅力を感じる」が45.0%で最も高く、次いで、「どちらかといえば魅力を感じない」が22.7%となっている。「魅力を感じる」（10.7%）と「どちらかといえば魅力を感じる」（45.0%）を合わせた『魅力を感じる（計）』（55.7%）は5割台半ば、「魅力を感じない」（6.9%）と「どちらかといえば魅力を感じない」（22.7%）を合わせた『魅力を感じない（計）』（29.6%）は約3割となっている。『魅力を感じる（計）』が『魅力を感じない（計）』を26.1ポイント上回っている。

【過去調査との比較】

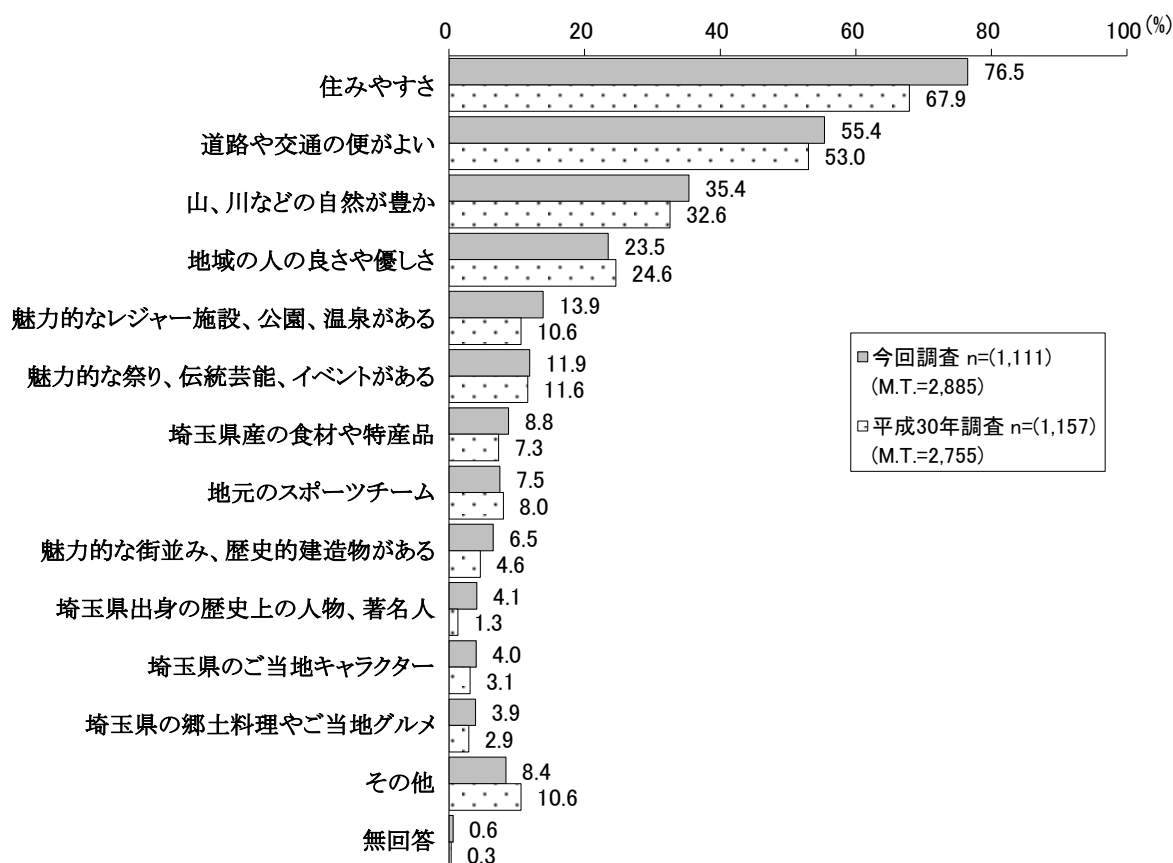
平成30年調査と比べて、『魅力を感じる（計）』が1.2ポイント増加、『魅力を感じない（計）』が1.5ポイント増加している。

（５－１）埼玉県で魅力を感じるもの

◇「住みやすさ」が76.5%

（問５で「魅力を感じる」または「どちらかといえば魅力を感じる」と答えた方に）

問５－１ あなたが埼玉県で魅力を感じるものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



埼玉県で魅力を感じるものは、「住みやすさ」（76.5％）が7割台半ばを超えて最も高く、次いで、「道路や交通の便がよい」（55.4％）、「山、川などの自然が豊か」（35.4％）、「地域の人の良さや優しさ」（23.5％）、「魅力的なレジャー施設、公園、温泉がある」（13.9％）、「魅力的な祭り、伝統芸能、イベントがある」（11.9％）などとなっている。

【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、「住みやすさ」（8.6ポイント増）、「魅力的なレジャー施設、公園、温泉がある」（3.3ポイント増）、「山、川などの自然が豊か」、「埼玉県出身の歴史上の人物、著名人」（ともに2.8ポイント増）などが増加している。

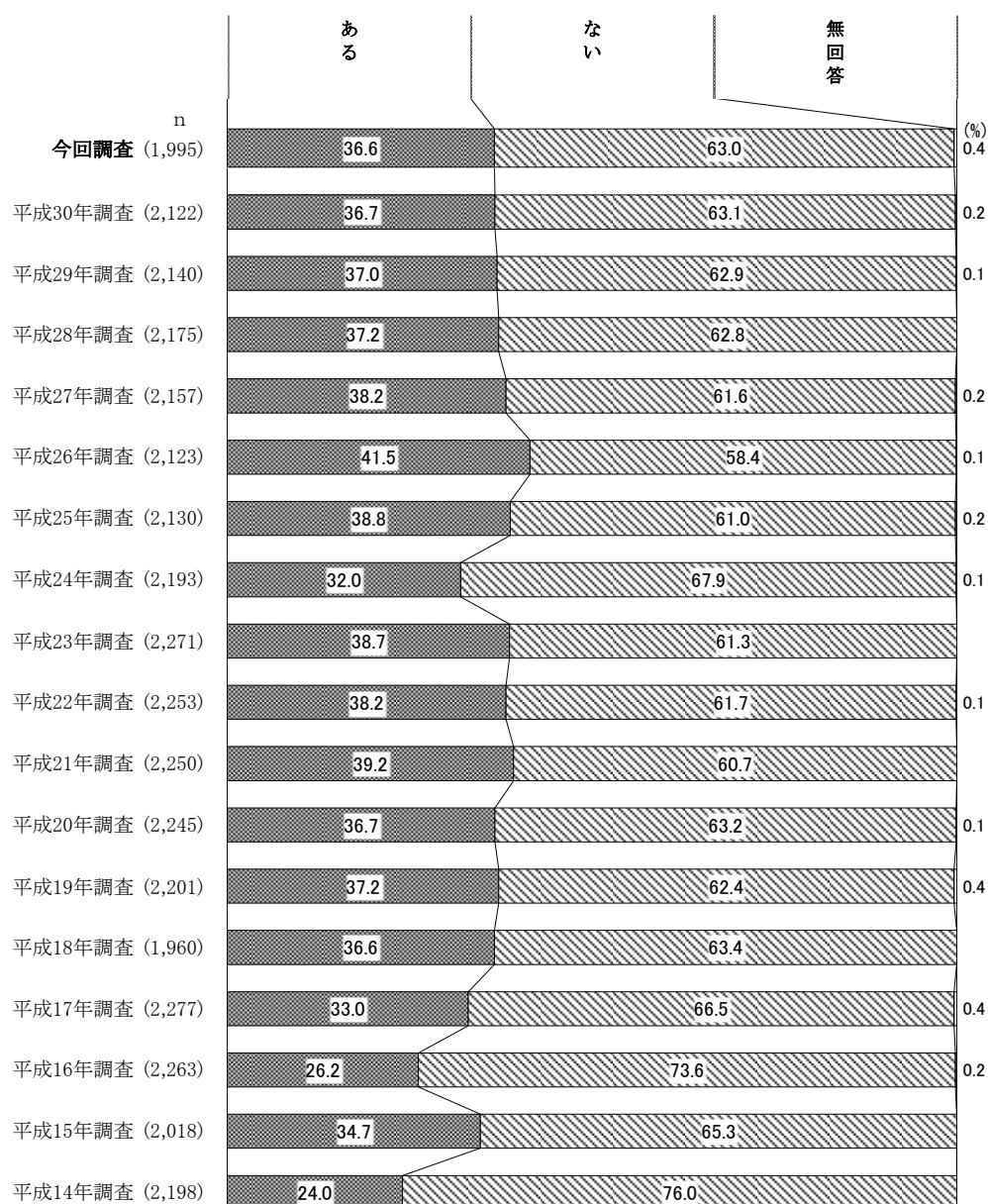
2. 日常生活

(1) 地域社会活動への参加経験

◇参加経験が「ある」36.6%、「ない」63.0%

問6 次に、あなたの日常生活に関連することについておたずねいたします。

(1) あなたは、過去1年間に、自治会活動（清掃活動や防犯パトロール、地域運動会への参加など）やPTA活動、子供会活動、学校応援団（読み聞かせボランティアなど）、障がい者や高齢者の方々のための活動、青少年健全育成のための活動、みどりと川の再生活動など、地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことがありますか。



過去1年間に地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことが「ある」（36.6%）は3割台半ばを超えている。

【過去調査との比較】

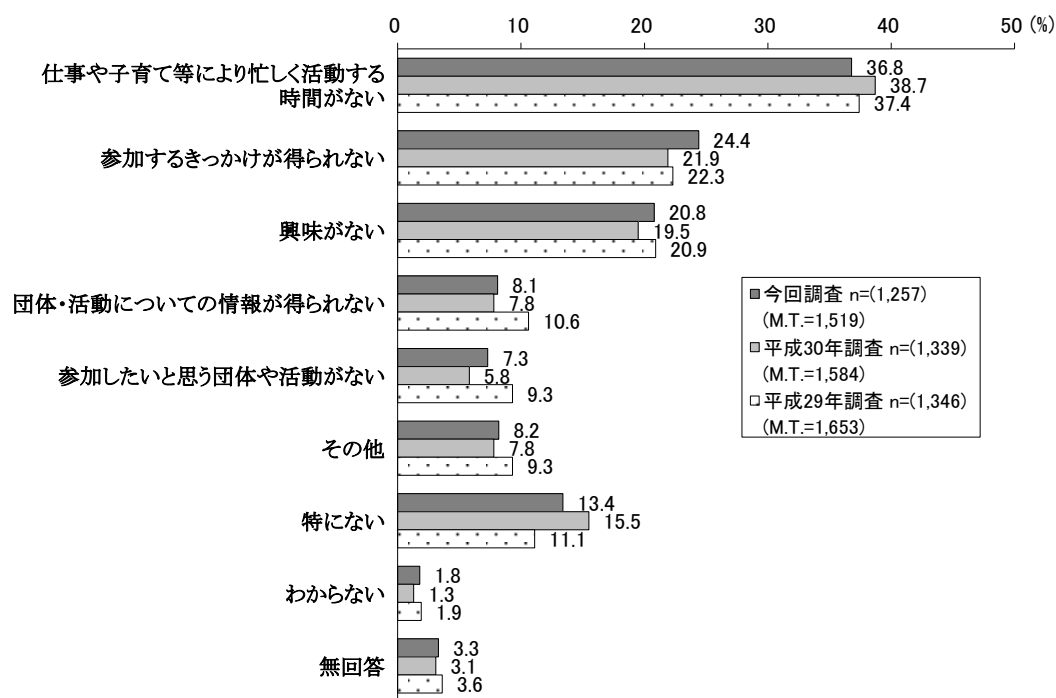
平成30年調査と比べて、「ある」と「ない」はともに0.1ポイント減少している。

（１－１）地域社会活動への不参加の理由

◇「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」が36.8%

（問６（１）で「ない」と答えた方に）

問６（１）－１ その理由は何ですか。次の中から２つまで選んでください。



地域活動やNPO・ボランティア活動への不参加の理由は、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」（36.8%）が最も高く、次いで、「参加するきっかけが得られない」（24.4%）、「興味がない」（20.8%）、「団体・活動についての情報が得られない」（8.1%）、「参加したいと思う団体や活動がない」（7.3%）となっている。

【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、「参加するきっかけが得られない」（2.5ポイント増）、「参加したいと思う団体や活動がない」（1.5ポイント増）などが増加し、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」が1.9ポイント減少している。

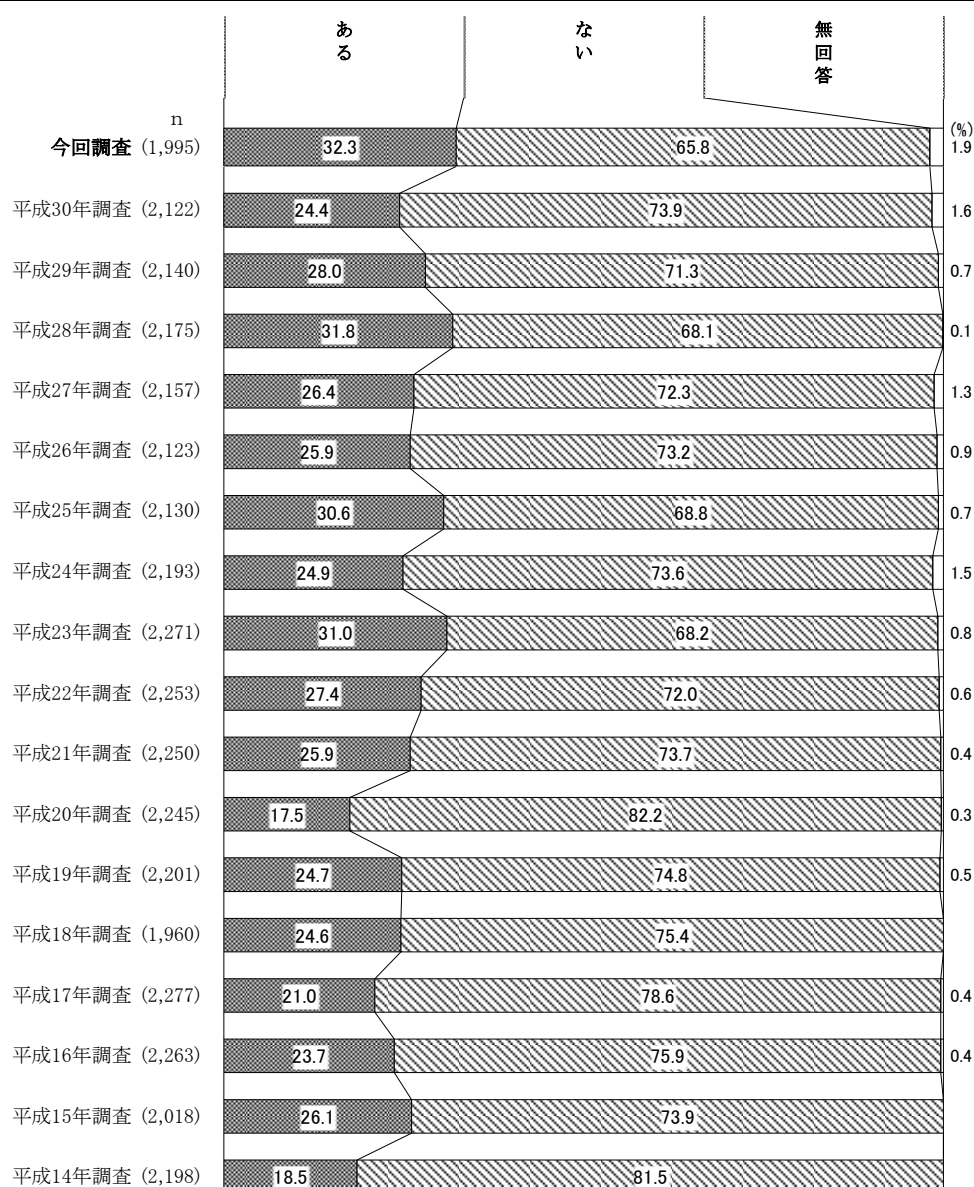
（２）文化芸術活動の経験

◇文化芸術活動の経験が「ある」32.3%、「ない」65.8%

問6（２）あなたは、この１年間に、文化芸術活動（※）を行ったことがありますか。

※文化芸術活動とは、以下のような分野での活動（例示）です。

- 音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、クラシック、楽器演奏など）
- 美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）
- 写真（風景、人物写真など）
- 文芸（小説、詩、俳句、短歌など）
- 生活文化（書道、茶道、華道、盆栽など）
- 国民娯楽（囲碁、将棋など）
- 舞踊（バレエ、ダンス、よさこいなど）
- 伝統芸能（和太鼓、民謡、民舞、日本舞踊、獅子舞、歌舞伎、地域のお祭りなど）
- 演劇（現代劇、ミュージカルなど）
- 演芸（落語、漫談、漫才など）
- 伝統工芸、文化財の継承・保存
- 映画・漫画・アニメ・ＣＧなどのメディア芸術



※ 平成22年調査までは、設問文を「現在、自主的な文化芸術活動を行っていますか」とし、選択肢を「行っている」と「行っていない」としていた。

この１年間に文化芸術活動を行ったことが「ある」（32.3％）は3割強となっている。

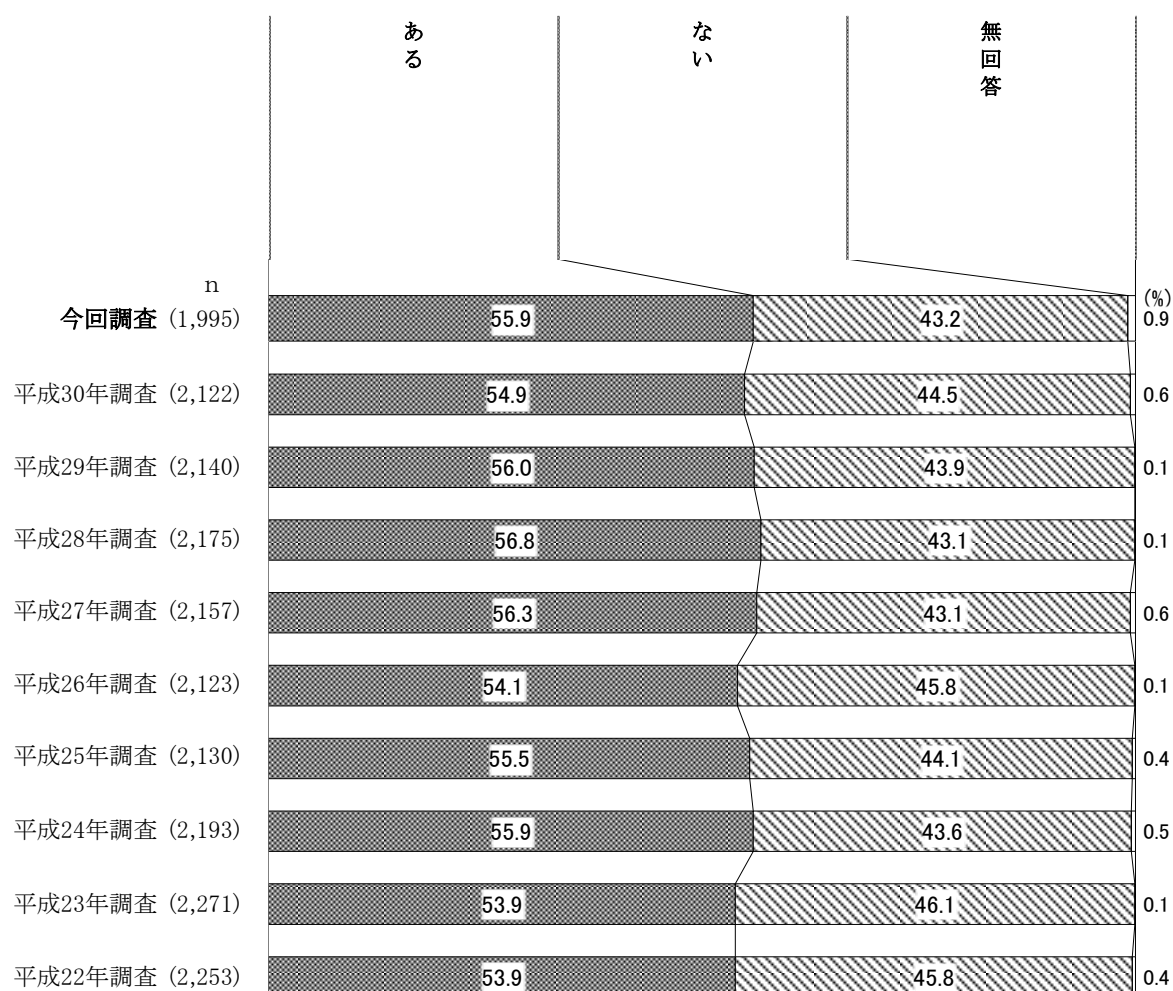
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、「ある」は7.9ポイント増加した。

(3) 文化芸術活動の鑑賞

◇文化芸術活動の鑑賞は「ある」55.9%、「ない」43.2%

問6(3) あなたは、この1年間に、文化芸術活動を鑑賞するためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに出かけたことがありますか。



この1年間で、文化芸術活動を鑑賞するためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに出かけたことが「ある」(55.9%)は5割台半ばとなっており、「ない」(43.2%)を12.7ポイント上回っている。

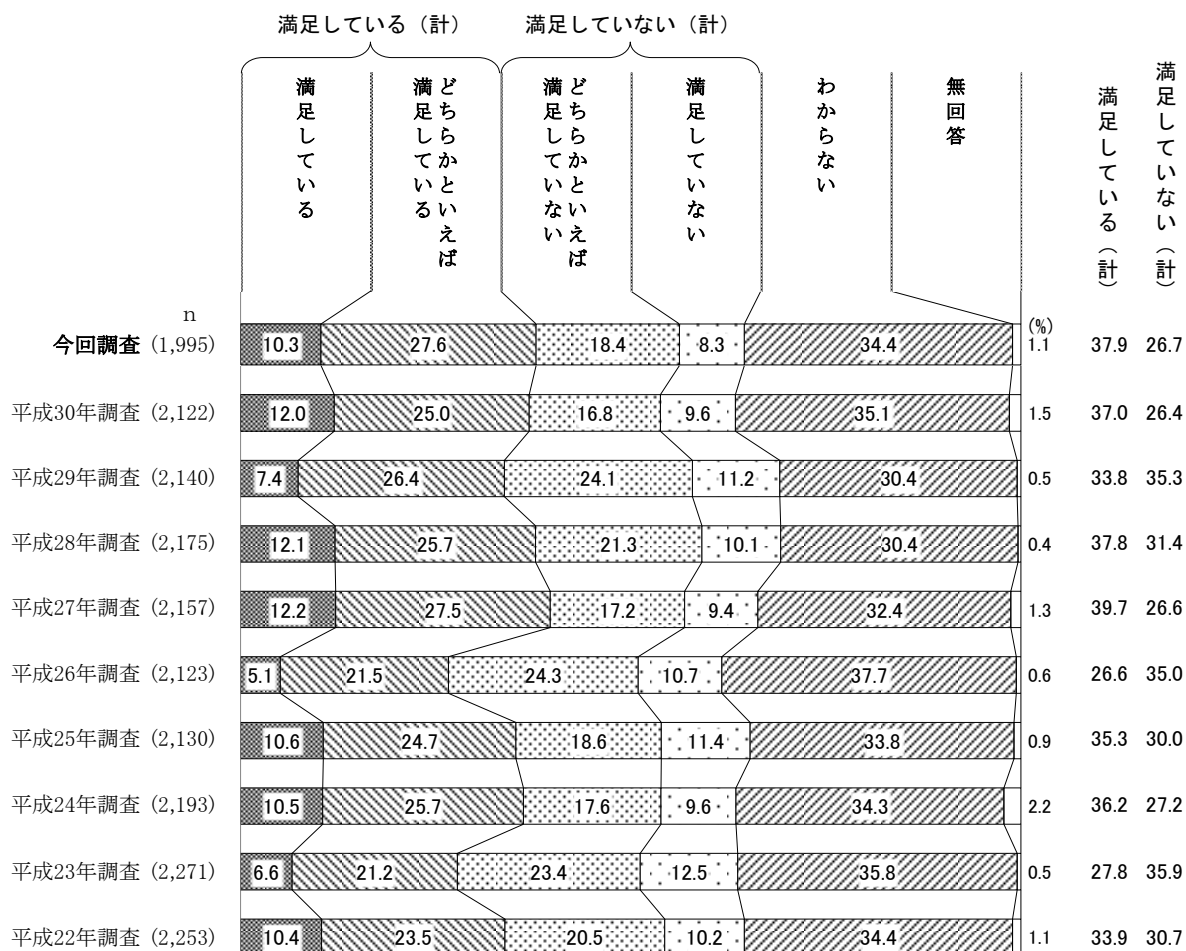
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、「ある」は1.0ポイント増加した。

（４）文化芸術活動の機会や環境の満足度

◇『満足している（計）』は37.9%、『満足していない（計）』は26.7%

問６（４） あなたは、日常生活の中で文化芸術を鑑賞したり、文化芸術活動を行ったりする機会や環境について、満足していますか。



日常生活の中での文化芸術活動の機会や環境の満足度は、「どちらかといえば満足している」(27.6%)が2割台半ばを超えて最も高くなっており、これに「満足している」(10.3%)を合わせた『満足している(計)』(37.9%)は3割台半ばを超えている。一方で、「満足していない」(8.3%)と「どちらかといえば満足していない」(18.4%)を合わせた『満足していない(計)』(26.7%)は、2割台半ばを超えている。また、「わからない」(34.4%)も3割台半ばと高くなっている。

【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『満足している(計)』が0.9ポイント増加し、『満足していない(計)』が0.3ポイント増加している。

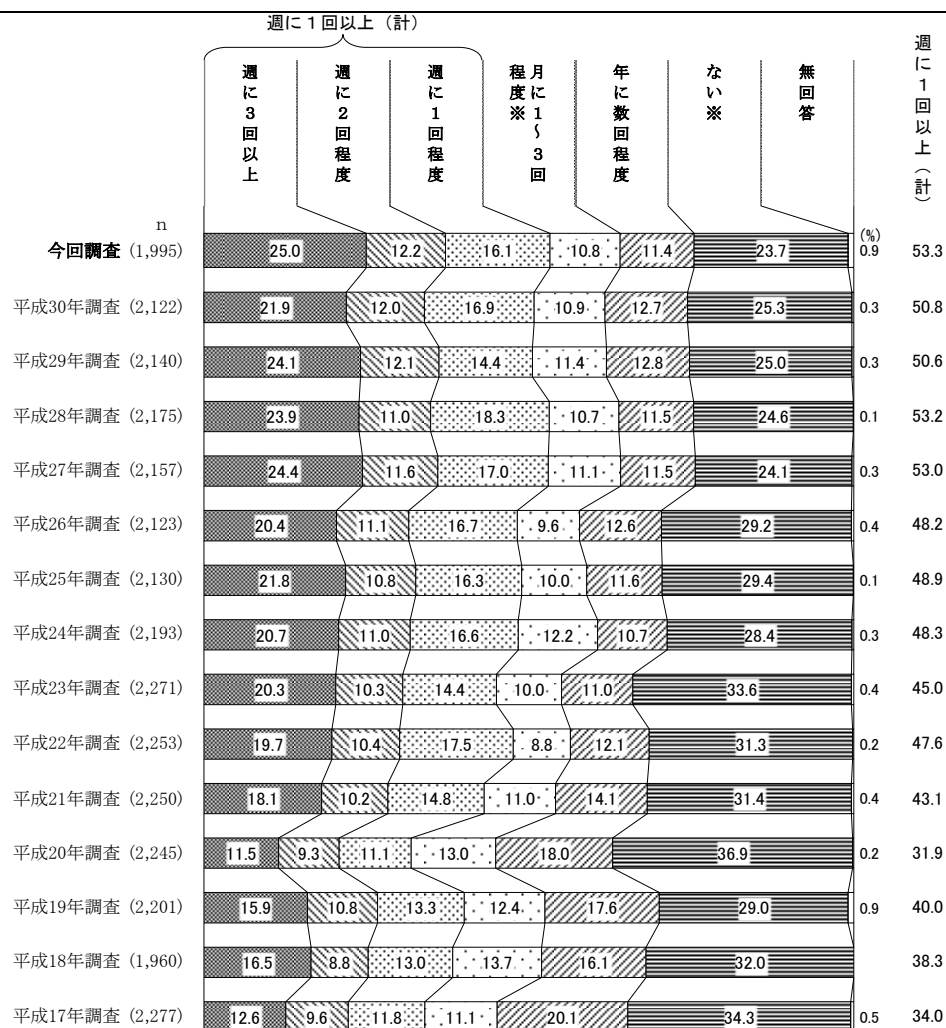
(5) スポーツをする機会

◇『週に1回以上(計)』は53.3%

問7 埼玉県では、週に1回以上スポーツをすることを推奨しています。あなたは、過去1年間に、スポーツ・レクリエーション活動をする機会がどのくらいありましたか。(散歩やウォーキング、軽い体操、子供との体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなど(※)も含めます。)

※ スポーツ・レクリエーション活動には、以下のような活動も含めます。

散歩・ウォーキング(ぶらぶら歩き、一駅歩きを含む)、階段昇降、ジョギング・ランニング、水泳、体操(軽い体操・ラジオ体操を含む)、ヨガ・バレエ、登山(トレッキングを含む)、ハイキング、ボウリング、ゴルフ、トレーニング(筋力・その他運動器具を使った運動)、釣り、自転車・サイクリング、ゲートボール、ダンス(フォークダンス、民謡踊りを含む)など



※ 選択肢「月に1〜3回程度」は、平成22年から平成26年調査までは「月に1〜2回程度」としていた。
また、平成24年調査までの選択肢「ない」は、「ない」と「わからない」の合計である。

過去1年間のスポーツをする機会は、「週に3回以上」(25.0%)が2割台半ばと最も高く、次いで、「ない」(23.7%)、「週に1回程度」(16.1%)などとなっている。また、『週に1回以上(計)』(『週に3回以上」(25.0%)、「週に2回程度」(12.2%)、「週に1回程度」(16.1%)の合計53.3%)は5割強となっている。

※週に1回以上スポーツをする満20歳以上の県民の割合は53.2%となっている(平成30年調査は50.8%)。

【過去調査との比較】

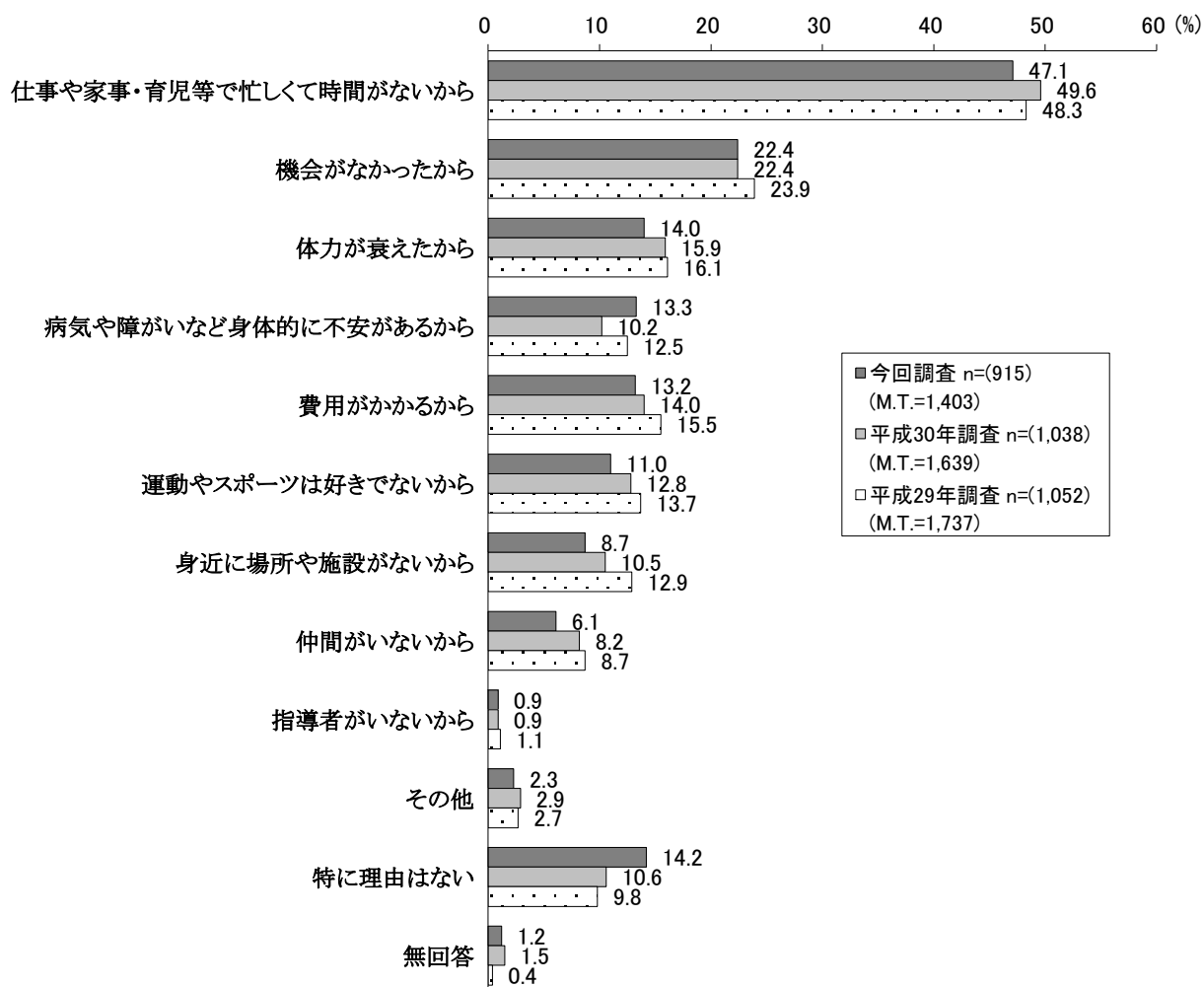
『週に1回以上(計)』(53.3%)は平成30年調査から2.5ポイント増加している。

（５－１）スポーツをする機会がなかった理由

◇「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」が47.1%

（問7で「月に1～3回程度」、「年に数回程度」、「ない」のいずれかを答えた方に）

問7－1 週に1回以上活動する機会がなかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



週に1回以上スポーツをする機会がなかった理由は、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」（47.1%）が4割台半ばを超えて最も高く、次いで、「機会がなかったから」（22.4%）、「体力が衰えたから」（14.0%）、「病気や障がいなど身体的に不安があるから」（13.3%）、「費用がかかるから」（13.2%）などとなっている。

【過去調査との比較】

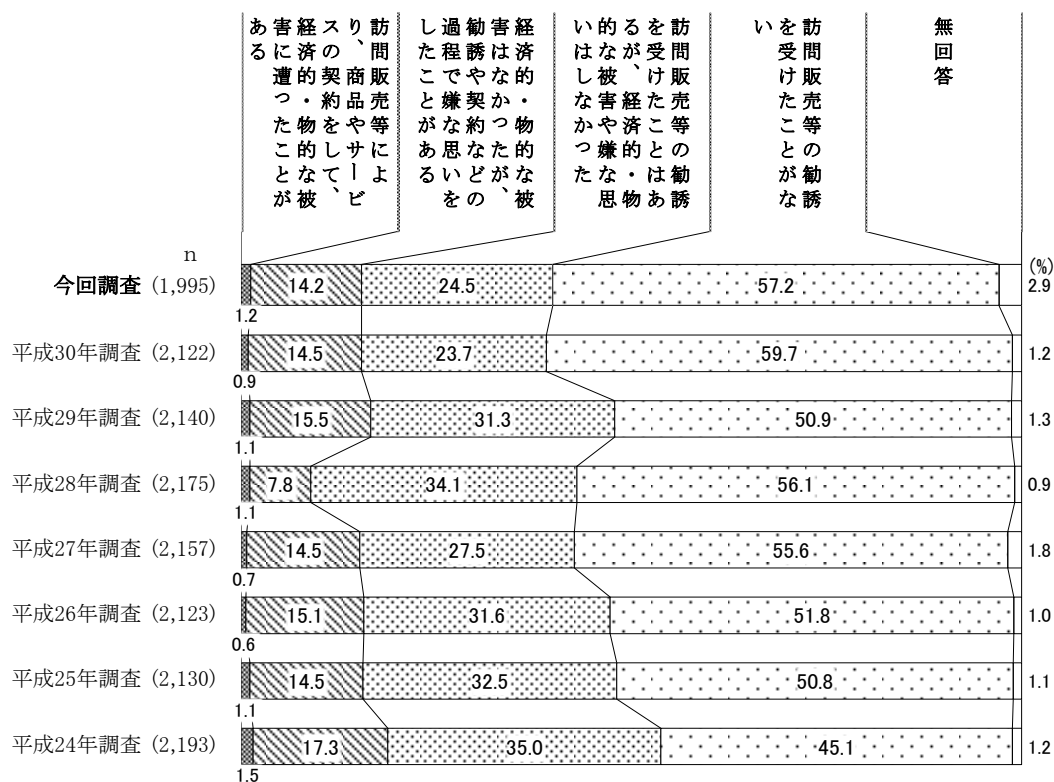
平成30年調査と比べて、「病気や障がいなど身体的に不安があるから」が3.1ポイント増加しているが、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」が2.5ポイント減、「仲間がいないから」が2.1ポイント減となるなど、その他項目も減少傾向にある。

（６－１）訪問販売、電話勧誘販売、通信販売による経済的・物的な被害

◇「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」が57.2%

問８ 消費生活についておたずねいたします。

（１） あなたはここ１年以内に、訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによって、経済的・物的な被害に遭った、または嫌な思いをしたことがありますか。



訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによる経済的・物的な被害は、「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」（57.2%）が5割台半ばを超えて最も高くなっている。訪問販売等を受けたことがある中では、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」（24.5%）が2割台半ばで最も高くなっている。また、「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」（14.2%）は1割台半ばとなっており、「訪問販売等により、商品やサービスの契約をして、経済的・物的な被害に遭ったことがある」（1.2%）は極めて低くなっている。

【過去調査との比較】

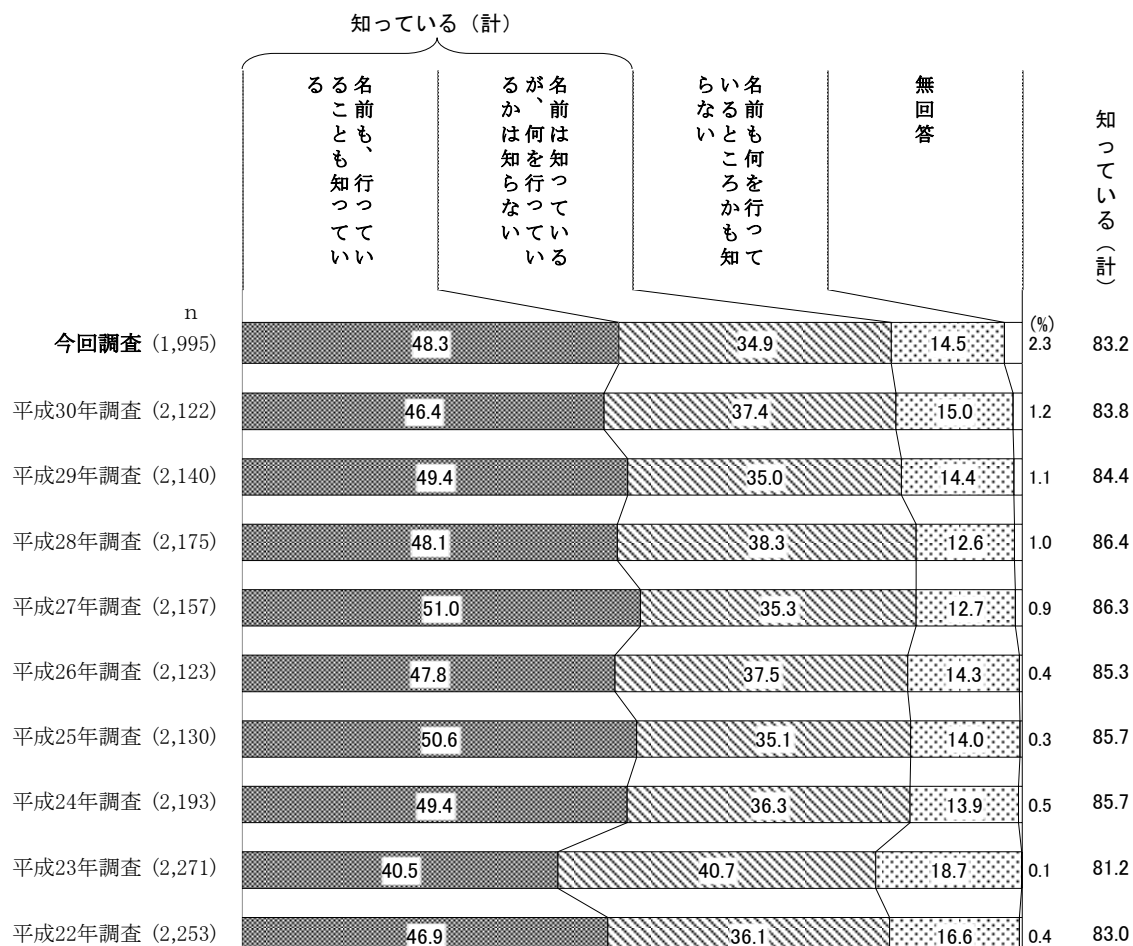
「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」は平成30年度調査と比べて、2.5ポイント減少している。「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」は0.8ポイント増加している。

（６－２）消費生活センターの認知度

◇『知っている（計）』が83.2%

問8 消費生活についておたずねいたします。

（２） あなたは契約トラブルの相談・助言や商品テストを行っている消費生活センター（または消費生活相談窓口）を知っていますか。



消費生活センター（または消費生活相談窓口）の認知度は、「名前も、行っていることも知っている」（48.3%）が5割弱、これに「名前は知っているが、何を行っているかは知らない」（34.9%）を合わせた『知っている（計）』（83.2%）は8割強である。一方で、「名前も何を行っているところかも知らない」（14.5%）は1割台半ばとなっている。

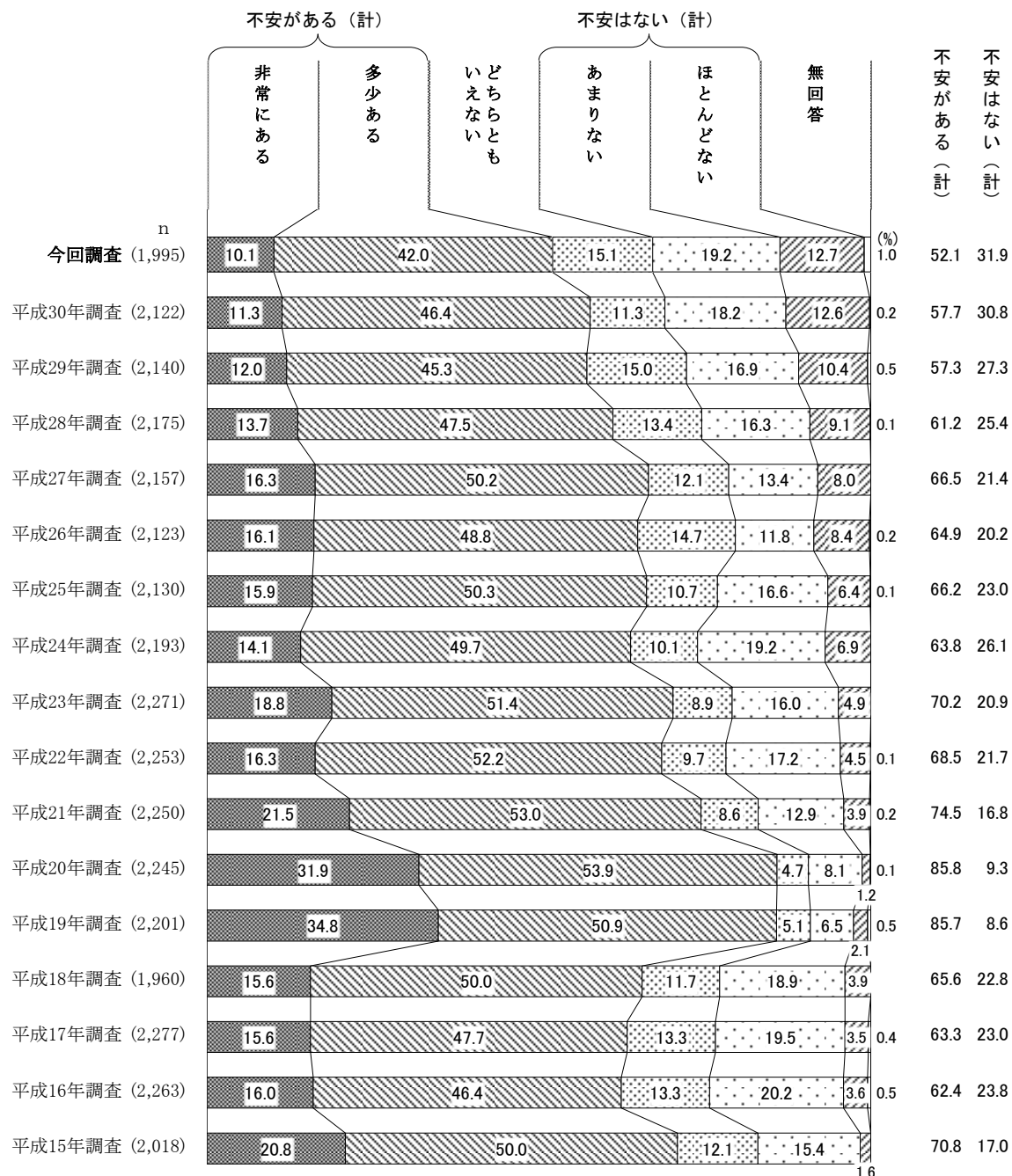
【過去調査との比較】

「名前も、行っていることも知っている」は平成30年調査から1.9ポイント増加したが、『知っている（計）』は0.6ポイント減少した。

（７）食品の安全性に対する意識

◇『不安がある（計）』が52.1%

問９ 食品の安全性についておたずねいたします。
あなたは、食品の安全性に不安がありますか。



食品の安全性に関して、不安が「多少ある」（42.0％）が4割強と最も高く、「非常にある」（10.1％）と合わせた『不安がある（計）』（52.1％）は5割強となっている。一方で、不安が「ほとんどない」（12.7％）と「あまりない」（19.2％）を合わせた『不安はない（計）』（31.9％）は3割強となっている。

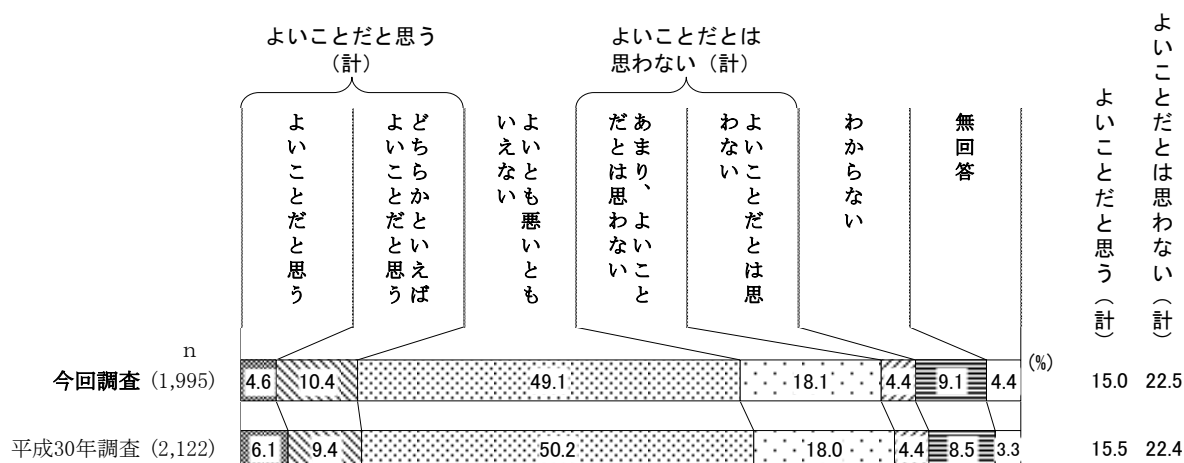
【過去調査との比較】

『不安がある（計）』の割合は、平成30年度調査と比べて5.6ポイント減少している。

（８）外国人増加に対する感想

◇「よいとも悪いともいえない」が49.1%

問10 県内の外国人住民についておたずねいたします。県内には、18万人を超える外国人が住んでおり、今後も増えていくことが予想されています。あなたは、お住まいの地域に外国人が増えていくことをどのように思いますか。



地域に外国人が増えていくことに関して、「よいとも悪いともいえない」（49.1％）が約5割と最も高く、次いで、「あまり、よいことだとは思わない」（18.1％）が2割弱、「よいことだとは思わない」（4.4％）と合わせた『よいことだとは思わない（計）』（22.5％）は2割強となっている。一方で、「よいことだと思う」（4.6％）と「どちらかといえばよいことだと思う」（10.4％）を合わせた『よいことだと思う（計）』（15.0％）は1割台半ばとなっている。

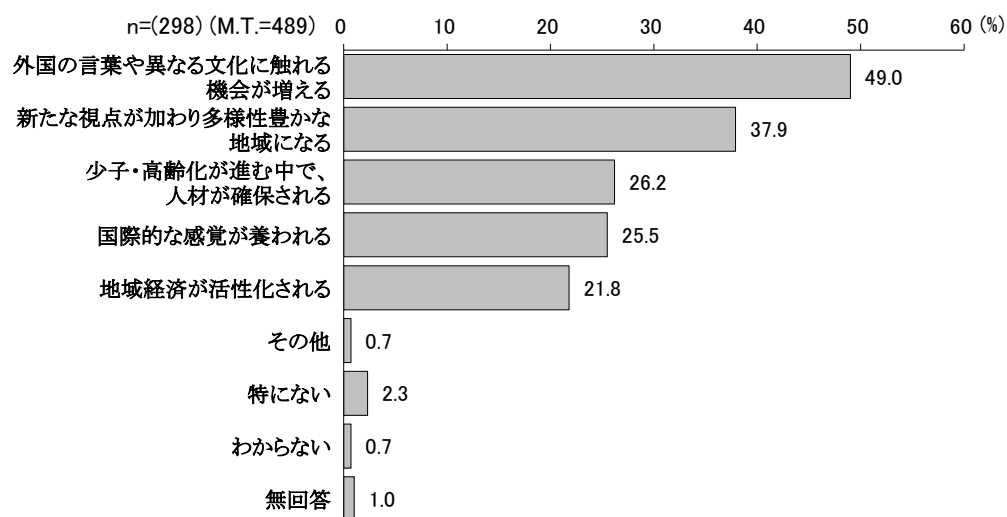
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『よいことだと思う（計）』が0.5ポイント減少している。

（８－１）外国人増加をよいことだと思う理由

◇「外国の言葉や異なる文化に触れる機会が増える」が49.0%

（問10で「よいことだと思う」または「どちらかといえばよいことだと思う」と答えた方に）
問10－１ その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



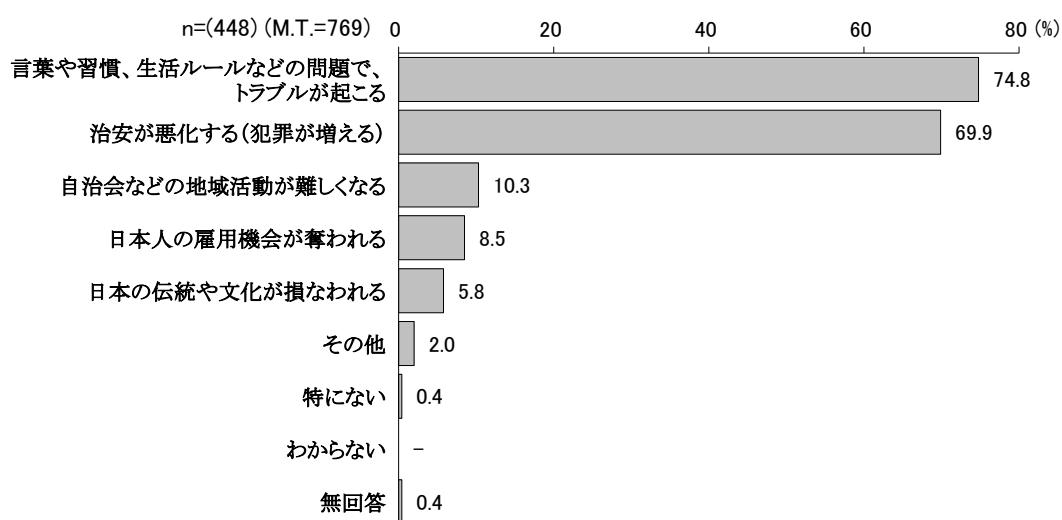
外国人増加をよいことだと思う理由は、「外国の言葉や異なる文化に触れる機会が増える」（49.0%）が約5割と最も高く、次いで、「新たな視点が加わり多様性豊かな地域になる」（37.9%）、「少子・高齢化が進む中で、人材が確保される」（26.2%）、「国際的な感覚が養われる」（25.5%）、「地域経済が活性化される」（21.8%）などとなっている。

（８－２）外国人増加をよいことだと思わない理由

◇「言葉や習慣、生活ルールなどの問題で、トラブルが起こる」74.8%と「治安が悪化する（犯罪が増える）」69.9%の割合が高い

（問10で「あまり、よいことだとは思わない」または「よいことだとは思わない」と答えた方に）

問10－２ その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。



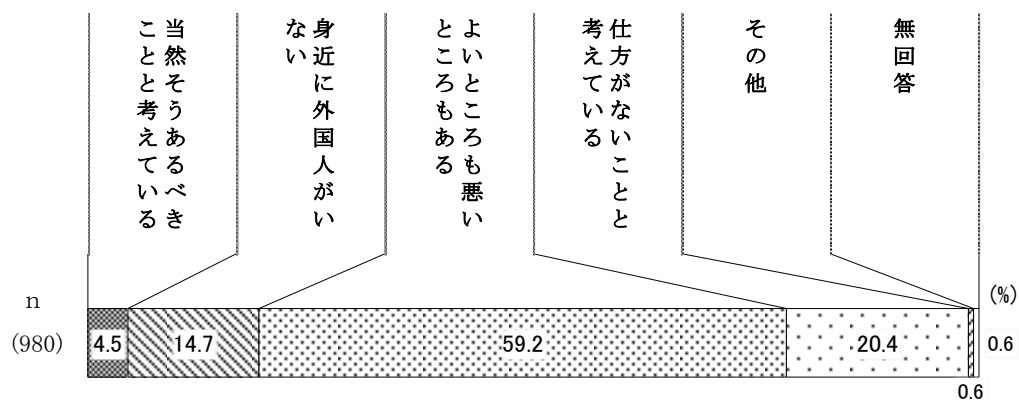
外国人増加をよいことだと思わない理由は、「言葉や習慣、生活ルールなどの問題で、トラブルが起こる」（74.8%）と「治安が悪化する（犯罪が増える）」（69.9%）が高くなっている。次いで、「自治会などの地域活動が難しくなる」（10.3%）、「日本人の雇用機会が奪われる」（8.5%）「日本の伝統や文化が損なわれる」（5.8%）などとなっている。

（８－３）外国人増加をよいとも悪いともいえない理由

◇「よいところも悪いところもある」が59.2%

（問10で「よいとも悪いともいえない」を答えた方に）

問10－３ その理由は何ですか。次の中から1つ選んでください。

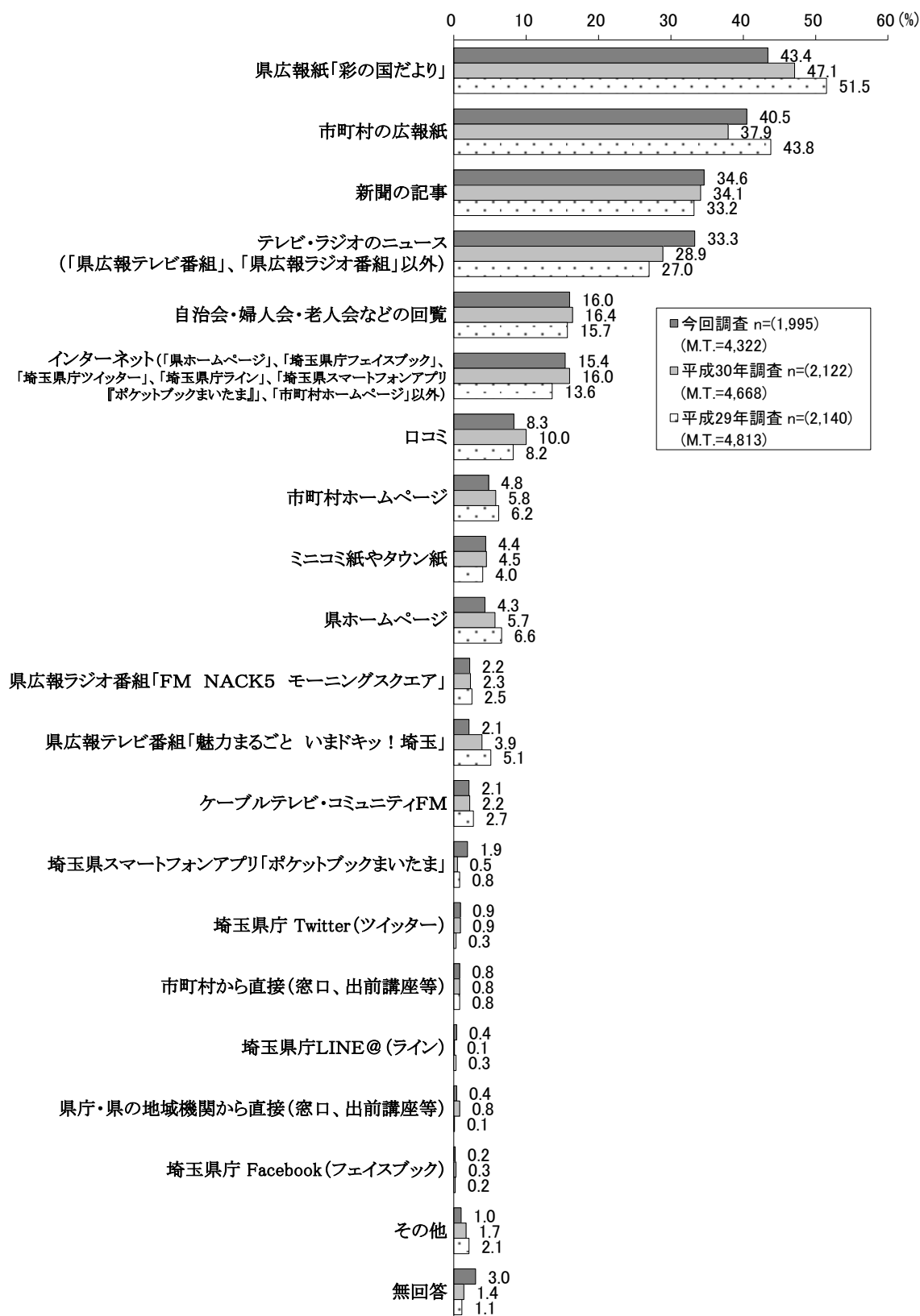


外国人増加をよいとも悪いともいえない理由は、「よいところも悪いところもある」（59.2%）が約6割と最も高く、「仕方がないことと考えている」（20.4%）が2割を超え、「身近に外国人がいない」（14.7%）が1割台半ばとなっている。

(9) 埼玉県に関する情報の入手先

◇「県広報紙「彩の国だより」」が43.4%

問11 あなたは、埼玉県に関する情報を主にどこから入手していますか。次の中から3つまで選んでください。



※ 平成29年調査から番組名の変更に伴い、「県広報テレビ番組『テレ玉 彩の国ニュース ほっと』」を「県広報テレビ番組『魅力まるごと いまドキッ! 埼玉』」へ変更した。

埼玉県に関する情報の入手先は、「県広報紙「彩の国だより」」（43.4%）が4割強と最も高く、次いで、「市町村の広報紙」（40.5%）が4割を超え、「新聞の記事」（34.6%）が3割台半ばとなっている。以下、「テレビ・ラジオのニュース」（33.3%）、「自治会・婦人会・老人会などの回覧」（16.0%）、「インターネット」（15.4%）、「口コミ」（8.3%）などとなっている。

【過去調査との比較】

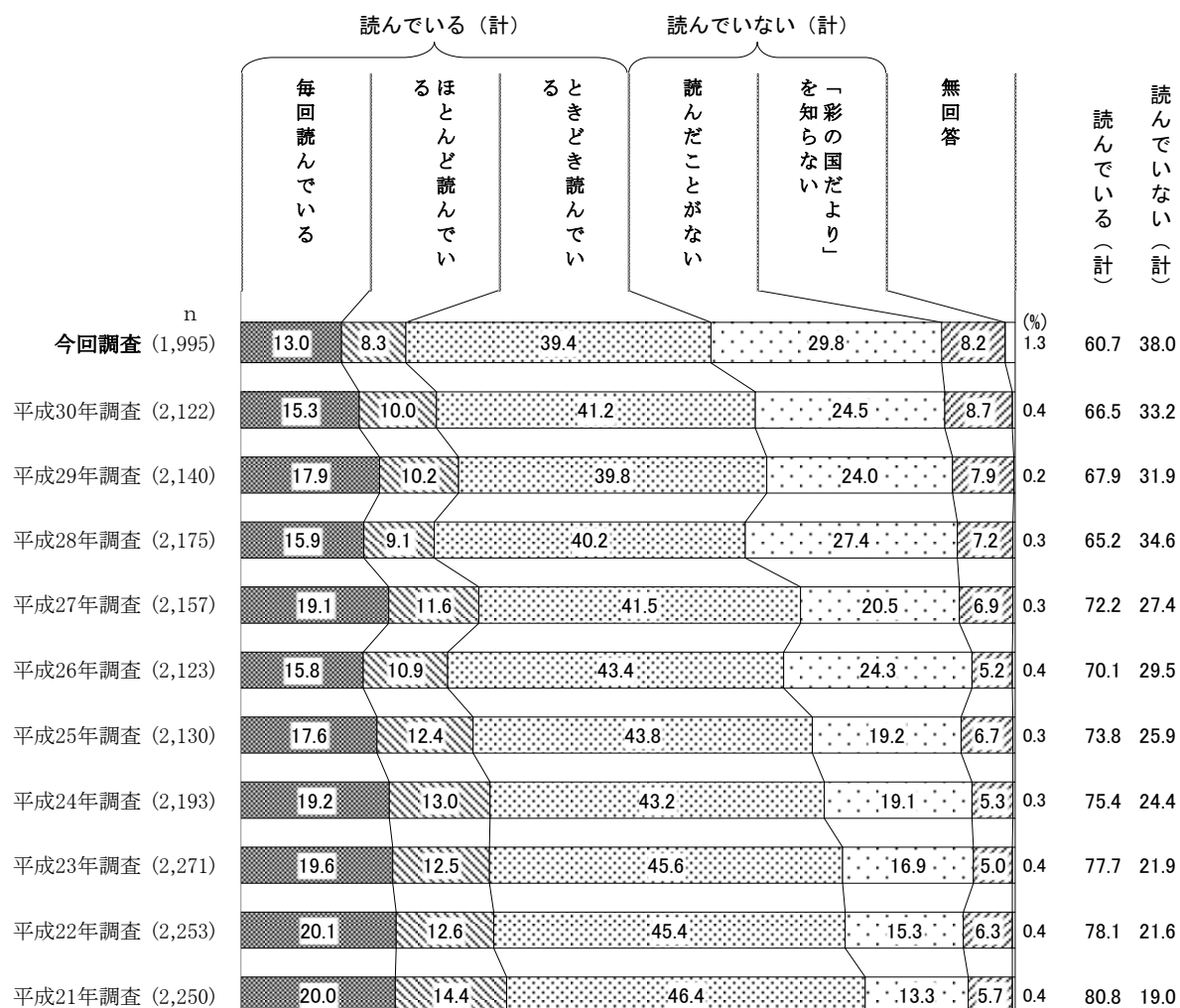
平成30年調査と比べて、「テレビ・ラジオのニュース」は4.4ポイント、「市町村の広報紙」は2.6ポイント増加している。一方で、「県広報紙「彩の国だより」」は3.7ポイント減少している。

(10) 県広報紙「彩の国だより」の閲読状況

◇『読んでいる（計）』が60.7%

問12 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

(1) 県広報紙「彩の国だより」を読んだことがありますか。



県広報紙「彩の国だより」の閲読状況は、「ときどき読んでいる」(39.4%)が約4割と最も高く、これに「毎回読んでいる」(13.0%)と「ほとんど読んでいる」(8.3%)を合わせた『読んでいる(計)』(60.7%)は6割を超えている。一方で、「読んだことがない」(29.8%)と「「彩の国だより」を知らない」(8.2%)を合わせた『読んでいない(計)』(38.0%)は4割弱となっている。

【過去調査との比較】

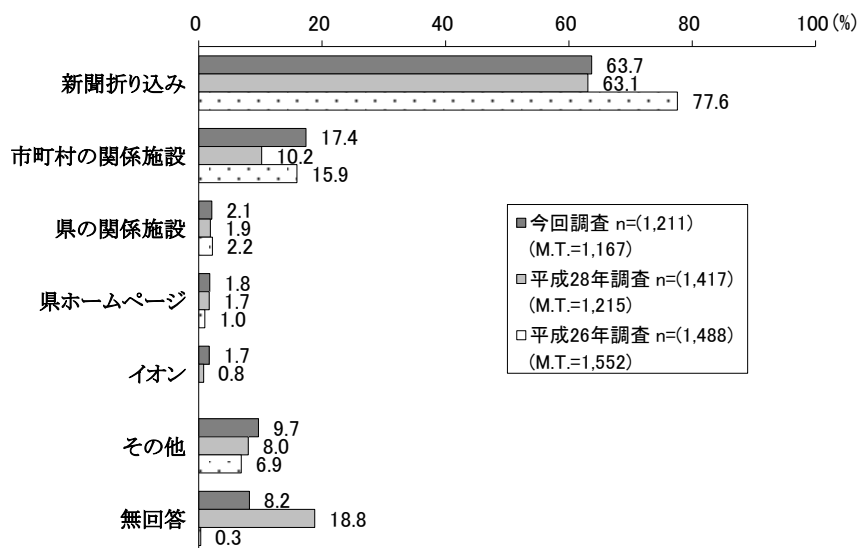
『読んでいる(計)』は徐々に減少傾向にあり、今回調査では5.8ポイント減少している。

(10－1－1) 県広報紙「彩の国だより」の入手先

◇「新聞折り込み」が63.7%と最も高い

(問12(1)で「毎回読んでいる」、「ほとんど読んでいる」、「ときどき読んでいる」のいずれかを答えた方に)

問12(1)－1 どこで入手していますか。あてはまるものをすべて選んでください。



県広報紙「彩の国だより」の入手先は、「新聞折り込み」(63.7%)が最も高く、次いで、「市町村の関係施設」(17.4%)、「県の関係施設」(2.1%)、「県ホームページ」(1.8%)などとなっている。

【過去調査との比較】

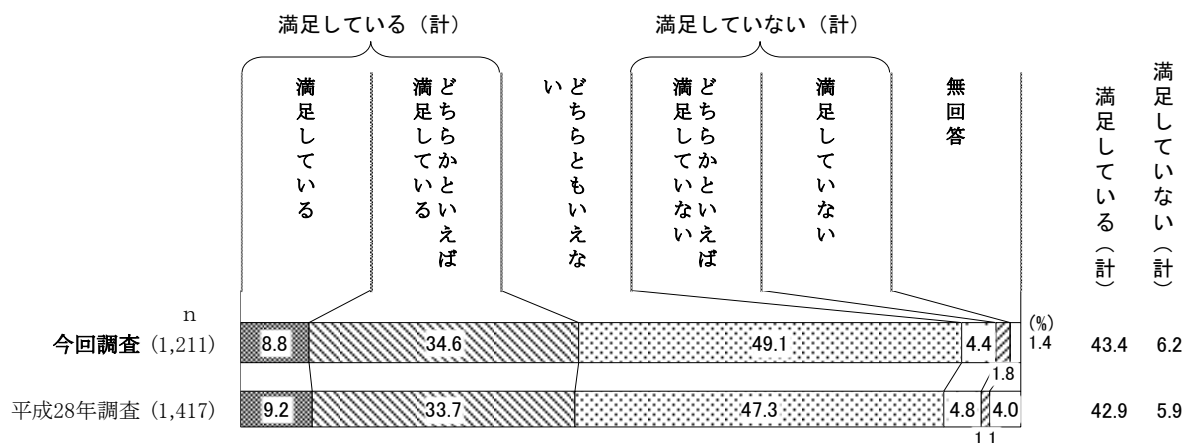
平成28年調査と比較してみると、「市町村の関係施設」は7.2ポイント増加している。

(10-1-2) 県広報紙「彩の国だより」の満足度

◇『満足している（計）』は43.4%、『満足していない（計）』は6.2%

（問12（1）で「毎回読んでいる」、「ほとんど読んでいる」、「ときどき読んでいる」のいずれかを答えた方に）

問12（1）-2 あなたは、「彩の国だより」の内容について、満足していますか。



県広報紙「彩の国だより」の満足度は、「どちらともいえない」が49.1%で最も高く、次いで、「どちらかといえば満足している」が34.6%となっている。「満足している」（8.8%）と「どちらかといえば満足している」（34.6%）を合わせた『満足している（計）』（43.4%）は4割強、「満足していない」（1.8%）と「どちらかといえば満足していない」（4.4%）を合わせた『満足していない（計）』（6.2%）は1割未満となっている。『満足している（計）』が『不満である（計）』を37.2ポイント上回っている。

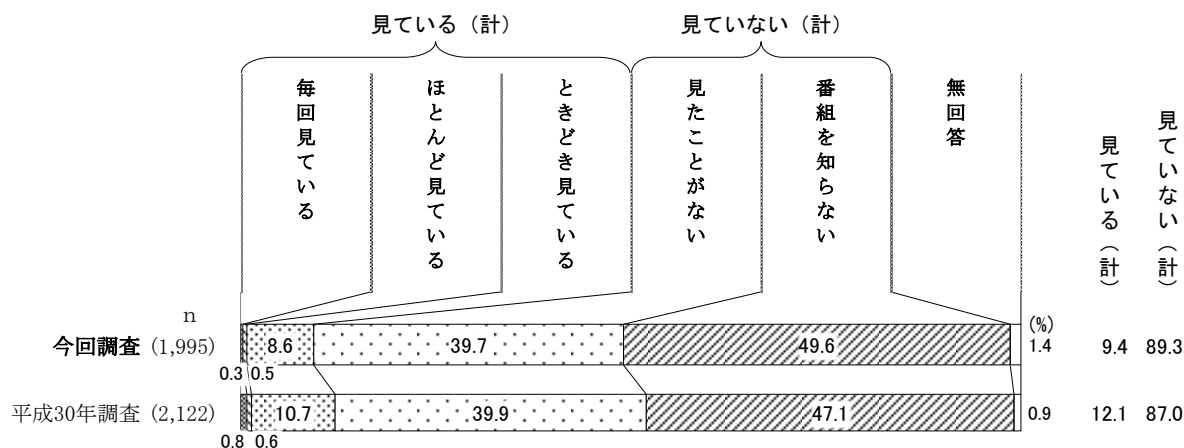
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『満足している（計）』が0.5ポイント増加し、『満足していない（計）』が0.3ポイント増加している。

(10-2) 県政広報テレビ番組「魅力まるごと いまドキッ！埼玉」の視聴状況

◇『見ていない（計）』が89.3%

問12(2) 県政広報テレビ番組「魅力まるごと いまドキッ！埼玉（テレビ埼玉/土曜朝8:30～9:00）」を見たことがありますか。



県広報テレビ番組「魅力まるごと いまドキッ！埼玉」の視聴状況は、「番組を知らない」（49.6%）が約5割と最も高く、これに「見たことがない」（39.7%）を合わせた『見ていない（計）』（89.3%）は約9割となっている。一方で、「毎回見ている」（0.3%）と「ほとんど見ている」（0.5%）、「ときどき見ている」（8.6%）を合わせた『見ている（計）』（9.4%）は約1割となっている。

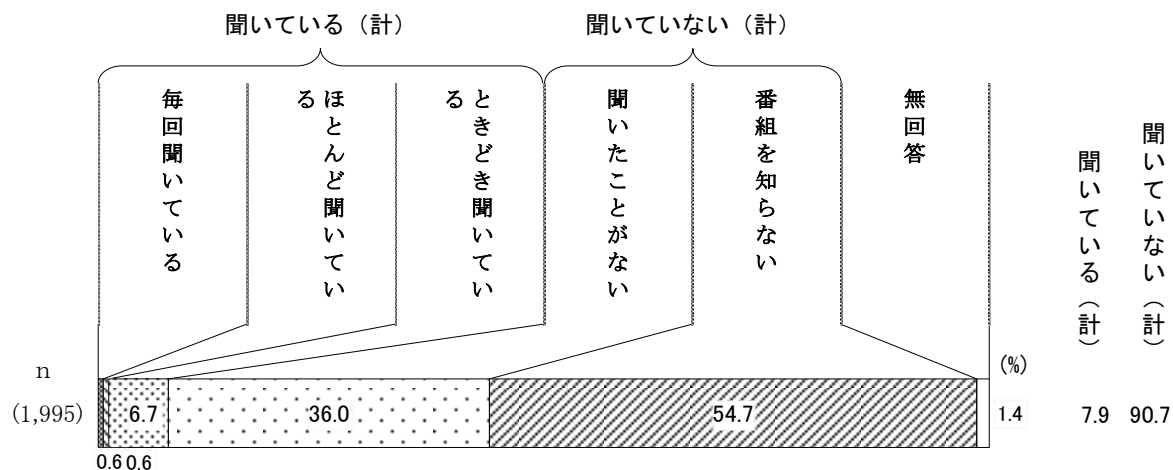
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『見ている（計）』が2.7ポイント減少し、『見ていない（計）』が2.3ポイント増加している。

(10-3) 県政広報ラジオ番組「モーニングスクエア」の聴取状況

◇『聞いていない（計）』が90.7%

問12(3) 県政広報ラジオ番組「モーニングスクエア(FM NACK5/月～金曜朝8:15～8:25)」を聞いたことがありますか。

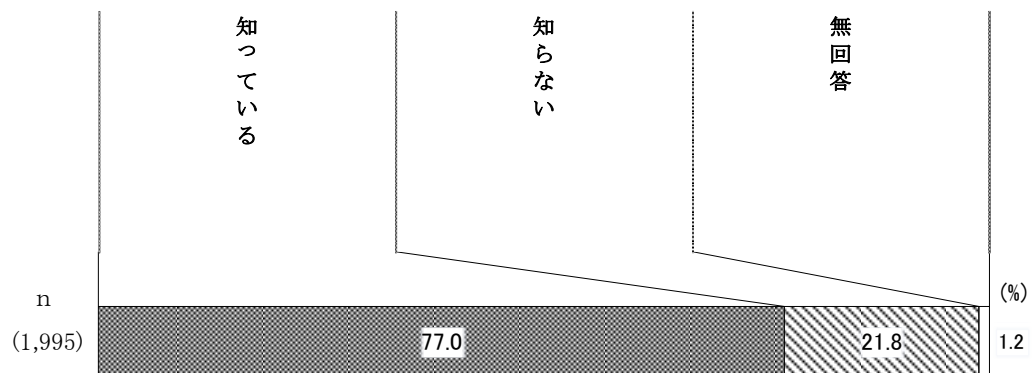


県政広報ラジオ番組「モーニングスクエア」の聴取状況は、「番組を知らない」（54.7%）が5割台半ばと最も高く、これに「聞いたことがない」（36.0%）を合わせた『聞いていない（計）』（90.7%）は9割を超えている。一方で、「毎回聞いている」（0.6%）と「ほとんど聞いている」（0.6%）、「ときどき聞いている」（6.7%）を合わせた『聞いている（計）』（7.9%）は1割未満となっている。

(11) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 埼玉県内開催の認知度

◇「知っている」が77.0%、「知らない」が21.8%

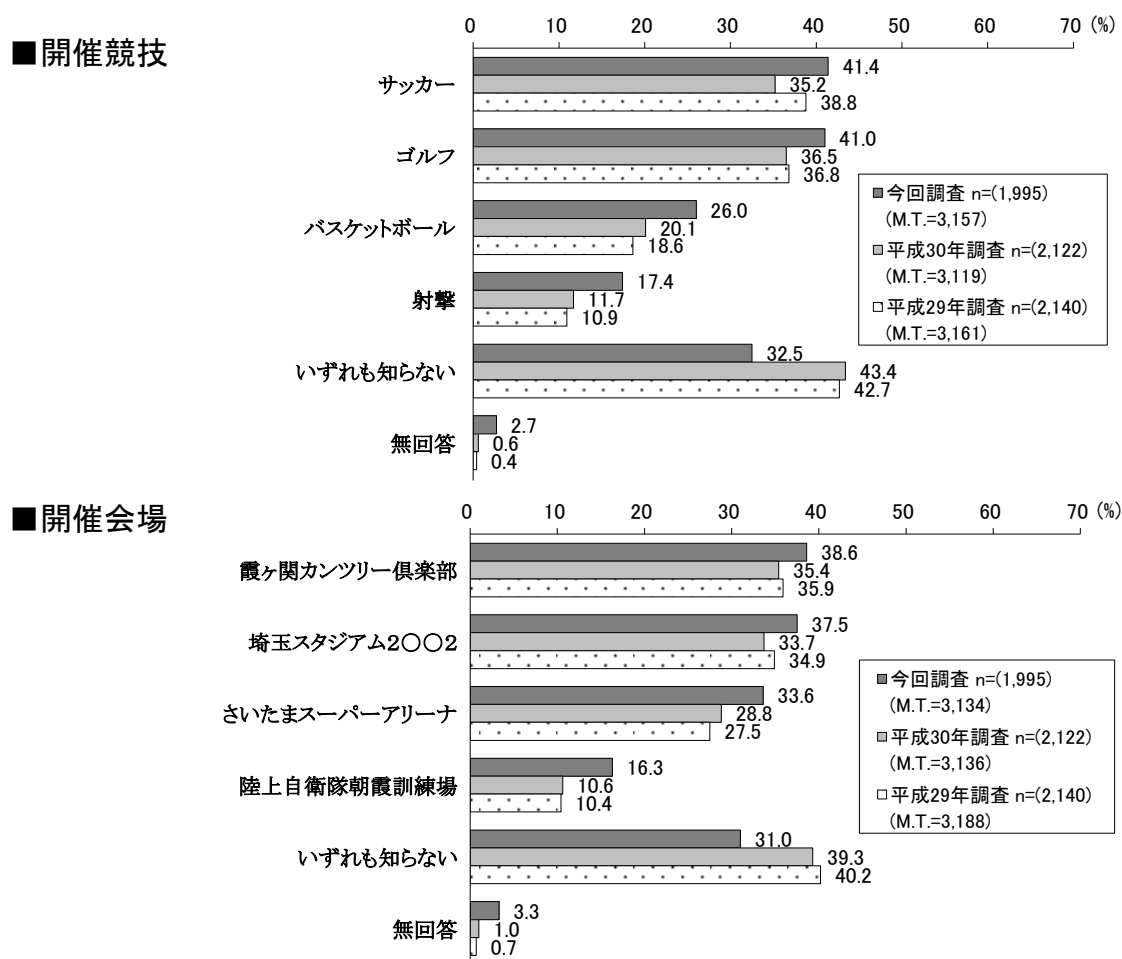
問13 あなたは、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が埼玉県内で開催されることを知っていますか。



東京2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県内開催の認知度は、「知っている」（77.0%）が7割台半ばを超えており、「知らない」（21.8%）が2割強である。

(12) 東京2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県内の開催競技と開催会場の認知度
 ◇開催競技は「サッカー」が41.4%、開催会場は「霞ヶ関カンツリー倶楽部」が38.6%

問14 「東京2020オリンピック・パラリンピック」において、埼玉県内で開催される競技と会場で、知っていたものはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。



東京2020オリンピック・パラリンピックについて、埼玉県内の開催競技と開催会場の認知度を聞いたところ、開催競技では、「サッカー」(41.4%)と「ゴルフ」(41.0%)が4割強と高く、次いで、「バスケットボール」(26.0%)、「射撃」(17.4%)となっている。一方で、「いずれも知らない」(32.5%)は3割強となっている。

開催会場では、「霞ヶ関カンツリー倶楽部」(38.6%)が4割弱と最も高く、次いで、「埼玉スタジアム2002」(37.5%)、「さいたまスーパーアリーナ」(33.6%)、「陸上自衛隊朝霞訓練場」(16.3%)となっている。一方で、「いずれも知らない」(31.0%)は3割強となっている。

【過去調査との比較】

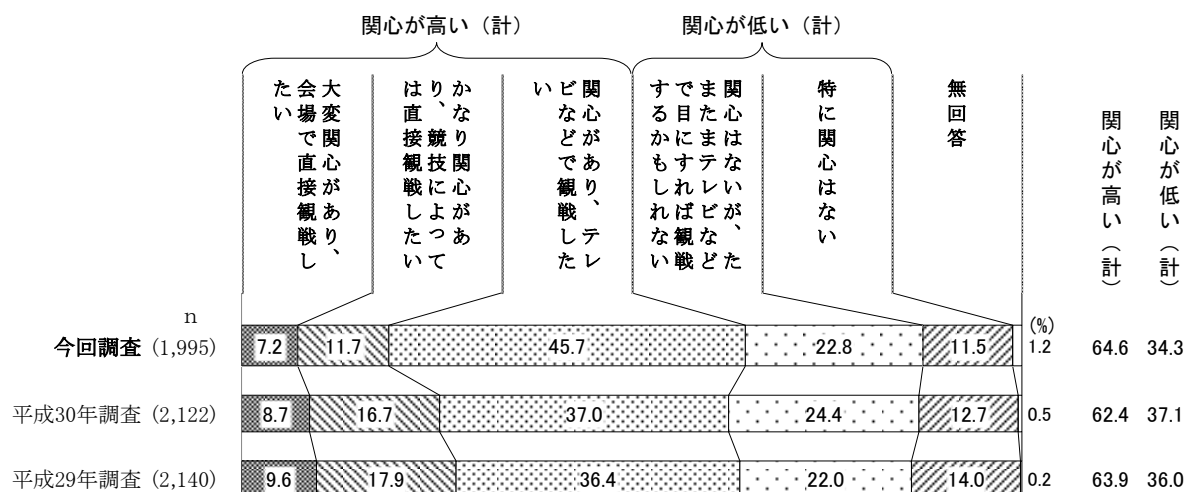
平成30年調査と比べて、開催競技は「サッカー」(6.2ポイント増)、「バスケットボール」(5.9ポイント増)など、全て増加しており、「いずれも知らない」は10.9ポイント減少した。

開催会場も「陸上自衛隊朝霞訓練場」(5.7ポイント増)、「さいたまスーパーアリーナ」(4.8ポイント増)など、全て増加しており、「いずれも知らない」は8.3ポイント減少した。

(13) 東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心度

◇『関心が高い（計）』が64.6%、『関心が低い（計）』が34.3%

問15 「東京2020オリンピック・パラリンピック」に対するあなたの関心は、次のうちどれですか。



東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心度は、「関心があり、テレビなどで観戦したい」（45.7%）が4割台半ばと最も高く、これに「かなり関心があり、競技によっては直接観戦したい」（11.7%）、「大変関心があり、会場で直接観戦したい」（7.2%）を合わせた『関心が高い（計）』（64.6%）は6割台半ばとなっている。一方で、「関心はないが、たまたまテレビなどで目にすれば観戦するかもしれない」（22.8%）と「特に関心はない」（11.5%）を合わせた『関心が低い（計）』（34.3%）は3割台半ばとなっている。

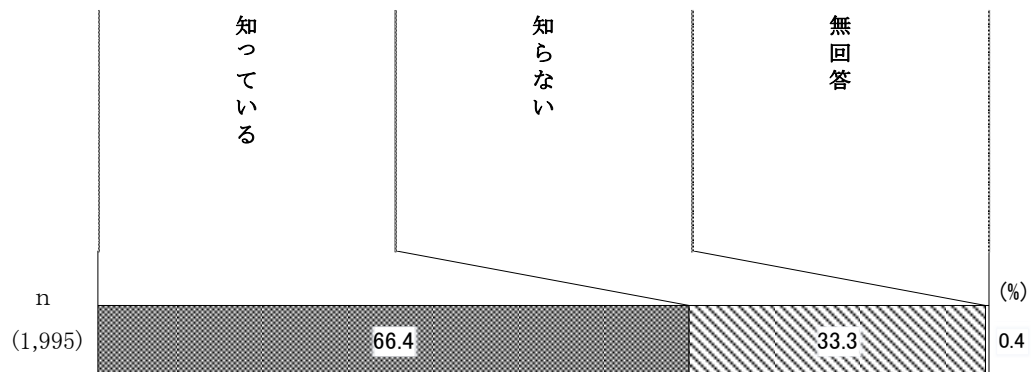
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『関心が高い（計）』が2.2ポイント増加し、『関心が低い（計）』が2.8ポイント減少している。

(14) ラグビーワールドカップ2019 埼玉・熊谷開催の認知度

◇「知っている」が66.4%、「知らない」が33.3%

問16 あなたは、「ラグビーワールドカップ2019™」が埼玉県内で開催されることを知っていますか。

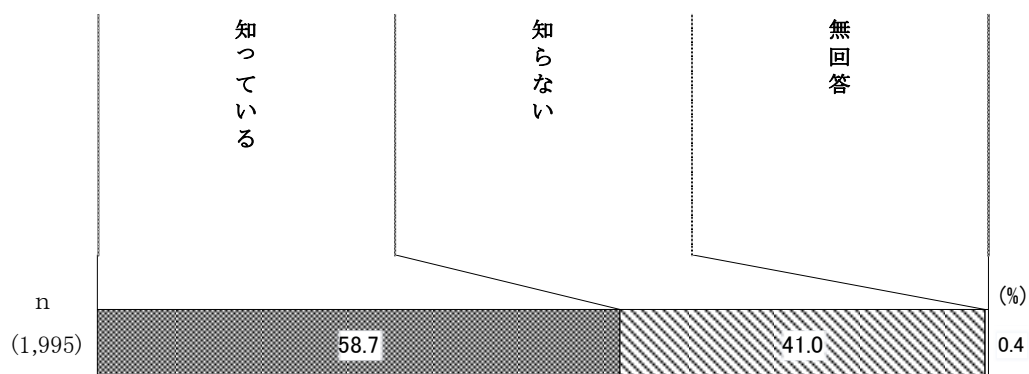


ラグビーワールドカップ2019埼玉・熊谷開催の認知度は、「知っている」(66.4%)が6割台半ばを超えており、「知らない」(33.3%)が3割強である。

(15) ラグビーワールドカップ2019 県営熊谷ラグビー場の認知度

◇「知っている」が58.7%、「知らない」が41.0%

問17 県営熊谷ラグビー場は全国12会場の一つになっています。あなたは、このことを知っていますか。

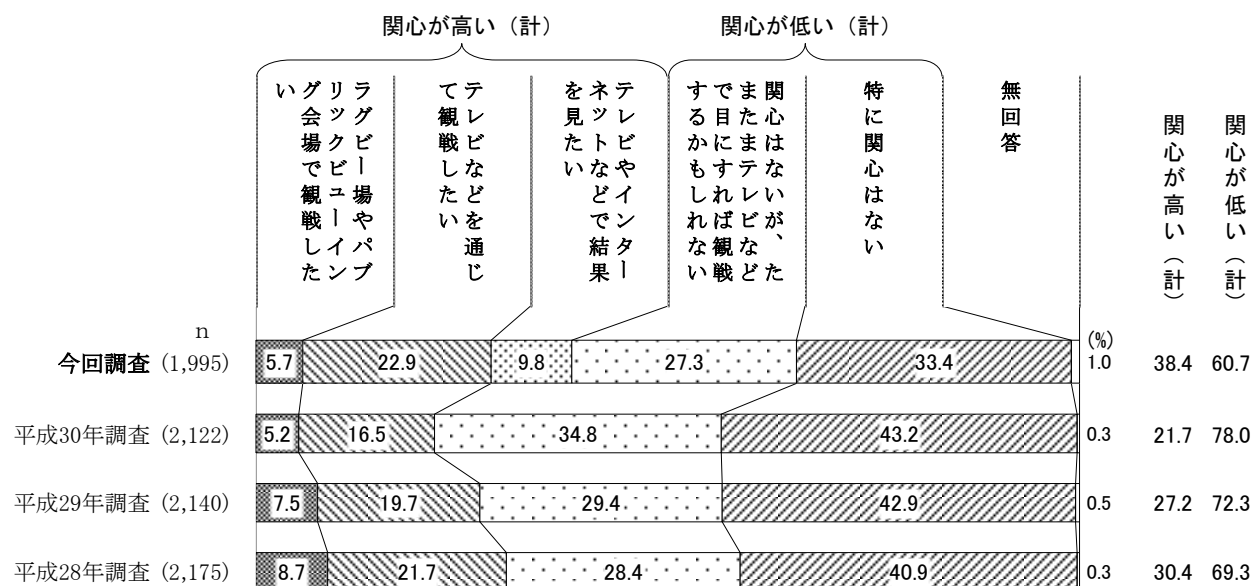


ラグビーワールドカップ2019県営熊谷ラグビー場の認知度は、「知っている」(58.7%)が6割弱、「知らない」(41.0%)が4割強である。

(16) ラグビーワールドカップ2019への関心度

◇『関心が高い（計）』が38.4%、『関心が低い（計）』が60.7%

問18 「ラグビーワールドカップ2019™」に対するあなたの関心は、次のうちどれですか。



※ 平成30年度までの選択肢「大変関心があり、是非、熊谷ラグビー場で直接観戦したい」を「ラグビー場やパブリックビューイング会場で観戦したい」へ変更した。
また、今回調査から「テレビやインターネットなどで結果を見たい」を追加した。

ラグビーワールドカップ2019への関心度は、「ラグビー場やパブリックビューイング会場で観戦したい」（5.7%）、「テレビなどを通じて観戦したい」（22.9%）、「テレビやインターネットなどで結果を見たい」（9.8%）を合わせた『関心が高い（計）』（38.4%）は4割弱となっている。「特に関心はない」（33.4%）は3割強となっている。これに、「関心はないが、たまたまテレビなどで目にすれば観戦するかもしれない」（27.3%）を合わせた『関心が低い（計）』（60.7%）は6割を超えている。

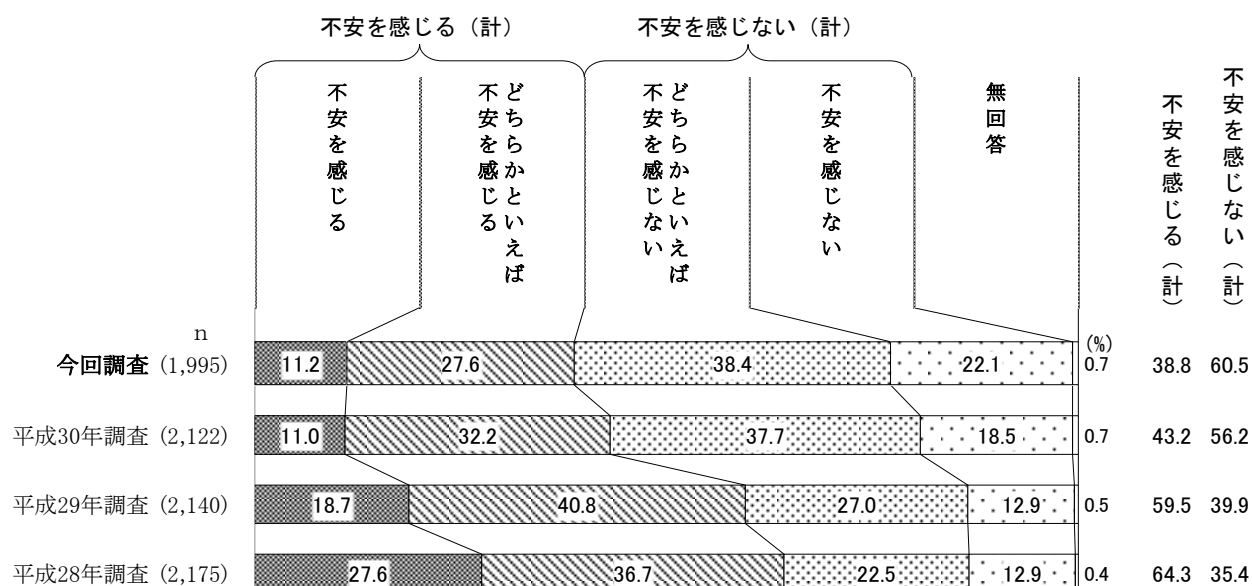
【過去調査との比較】

今回調査から選択肢の内容が変更・追加されたため参考程度にとどめるが、平成30年調査より『関心が高い（計）』が16.7ポイント増加し、『関心が低い（計）』が17.3ポイント減少している。

(17) オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ開催に伴う県内でのテロ発生への不安

◇『不安を感じる（計）』が38.8%、『不安を感じない（計）』が60.5%

問19 「東京2020オリンピック・パラリンピック」や「ラグビーワールドカップ2019™」の開催に伴う県内でのテロ発生に不安を感じますか。



オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ開催に伴う県内でのテロ発生への不安は、「どちらかといえば不安を感じる」(27.6%)が2割台半ばを超えており、これに「不安を感じる」(11.2%)を合わせた『不安を感じる（計）』(38.8%)は4割弱となっている。一方で、「どちらかといえば不安を感じない」(38.4%)と「不安を感じない」(22.1%)を合わせた『不安を感じない（計）』(60.5%)は6割を超えている。

【過去調査との比較】

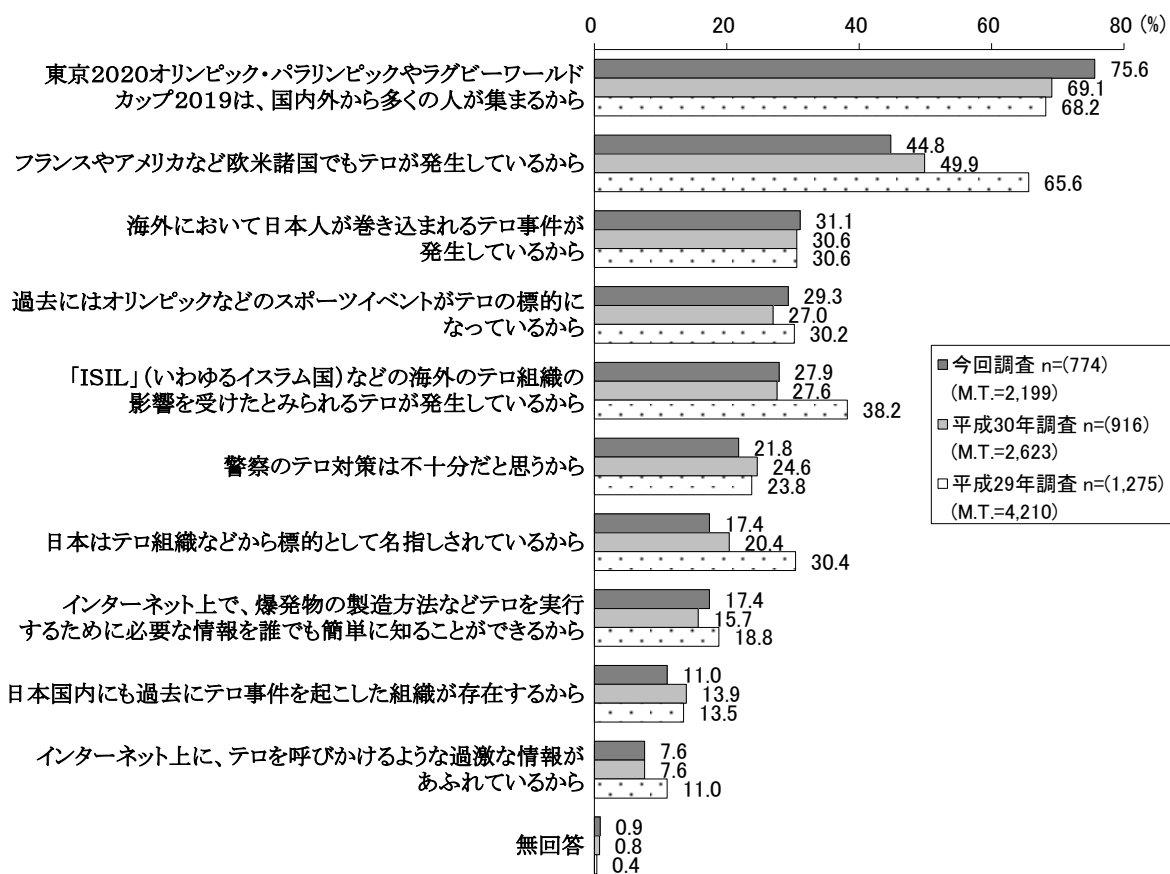
平成30年調査と比べて、『不安を感じない（計）』が4.3ポイント増加し、2年連続で『不安を感じる（計）』を上回っている。

(17-1) 県内においてテロが発生することに不安を感じる理由

◇「東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019は、国内外から多くの人が集まるから」75.6%、「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」44.8%

(問19で「不安を感じる」または「どちらかといえば不安を感じる」と答えた方に)

問19-1 県内においてテロが発生することに不安を感じる理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



県内においてテロが発生することに不安を感じる理由は、「東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019は、国内外から多くの人が集まるから」(75.6%)が最も高い。次いで、「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」(44.8%)、「海外において日本人が巻き込まれるテロ事件が発生しているから」(31.1%)などとなっている。

【過去調査との比較】

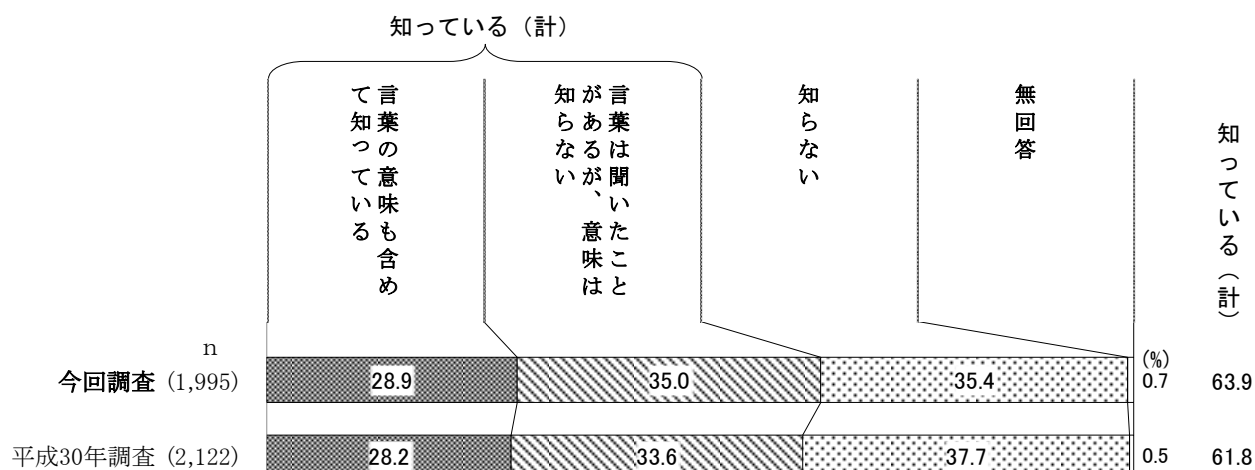
平成30年調査と比べて、「東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019は、国内外から多くの人が集まるから」(6.5ポイント増)などが増加している。一方で、「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」(5.1ポイント減)、「日本はテロ組織などから標的として名指しされているから」(3.0ポイント減)などが減少している。

(18－1) 生物多様性の認知度

◇『知っている（計）』が63.9%

問20 現在、「生物多様性」の保全という、地球上のさまざまな生物やそれらが生息・生育できる環境を守る取組が進められています。また、もともとその地域にいなかったのに、人間によって他の地域から入ってきたアライグマやカミツキガメなど種々の「外来生物」により、地域固有の生物の生態系や自然環境に影響を与える問題が起きています。

(1) あなたは「生物多様性」という言葉を知っていますか。



「生物多様性」という言葉の認知度は、「言葉の意味も含めて知っている」（28.9%）が3割弱、これに「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」（35.0%）を合わせた『知っている（計）』（63.9%）は6割強である。一方で、「知らない」（35.4%）は3割台半ばとなっている。

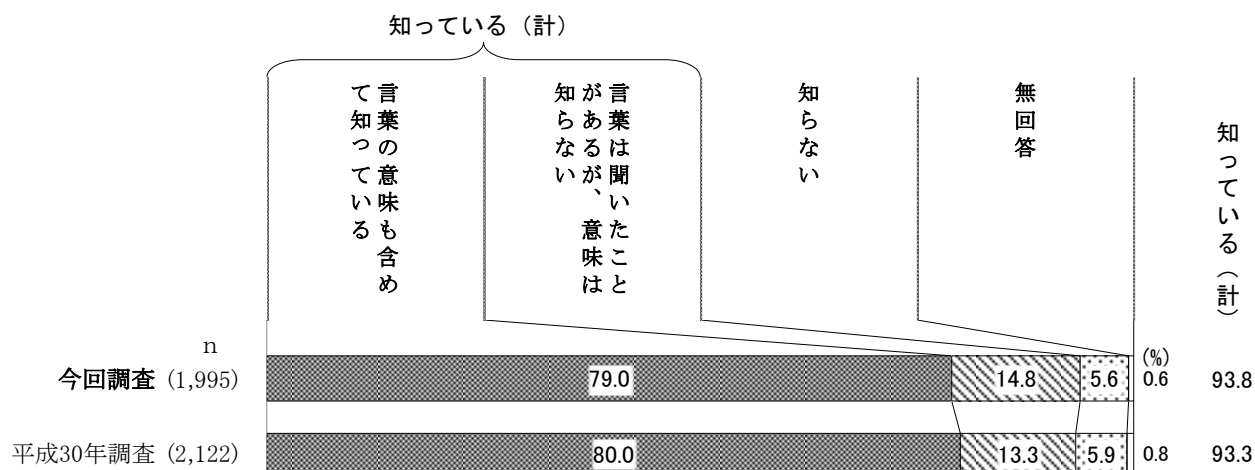
【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『知っている（計）』が2.1ポイント増加している。

(18－2) 外来生物の認知度

◇『知っている（計）』が93.8%

問20 (2) あなたは「外来生物」という言葉を知っていますか。



「外来生物」という言葉の認知度は、「言葉の意味も含めて知っている」（79.0%）が約8割と最も高くなっている。これに「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」（14.8%）を合わせた『知っている（計）』（93.8%）は9割強となっている。一方で、「知らない」（5.6%）は1割未満となっている。

【過去調査との比較】

平成30年調査と比べて、『知っている（計）』が0.5ポイント増加、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」が1.5ポイント増加している。

3. 県政への要望

◇「高齢者の福祉を充実する」（24.2%）が1位

問21 埼玉県政への要望についておたずねいたします。

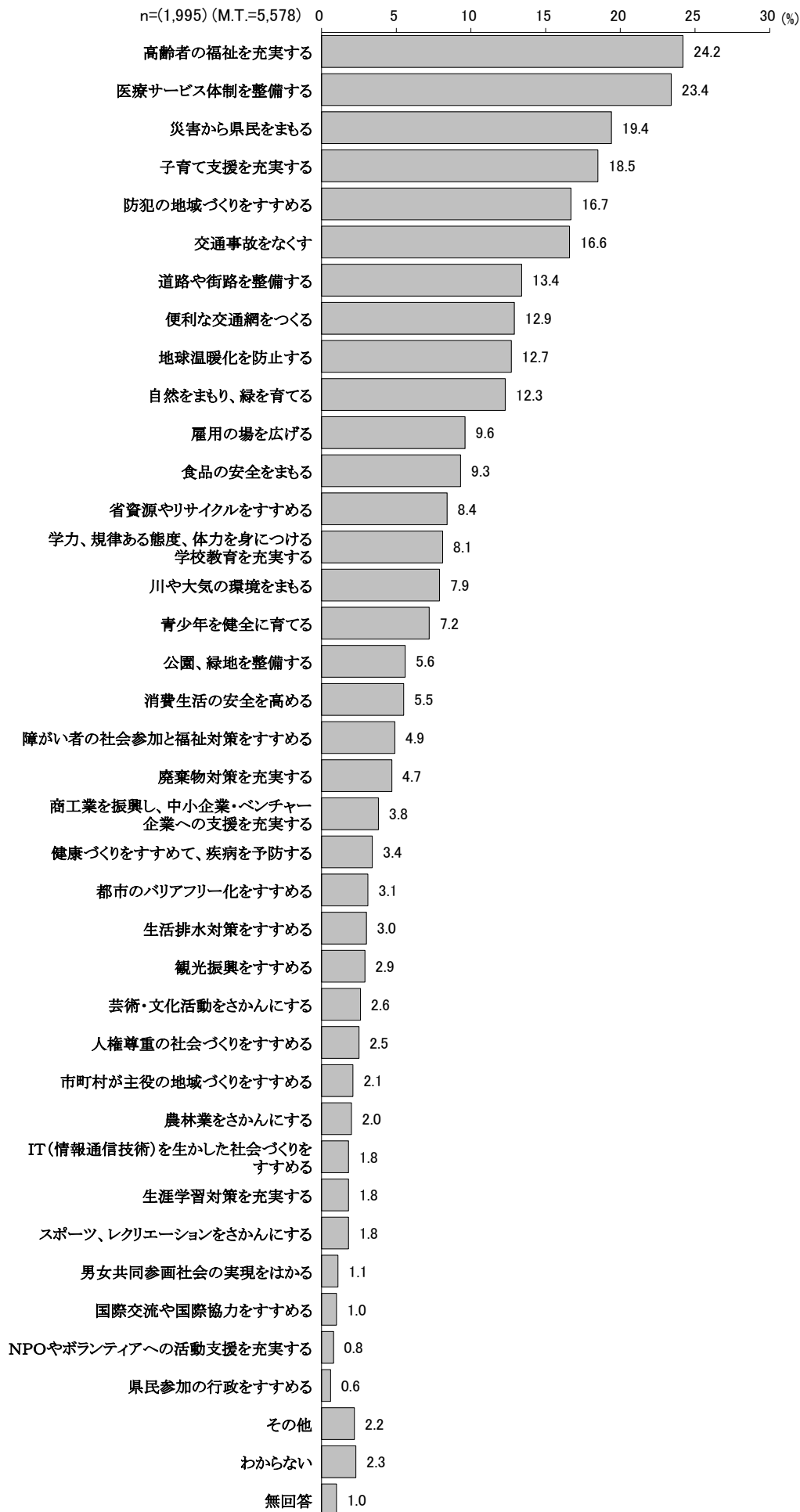
県の行政全般の中で、現在、あなたが最も重点をおいてほしいもの、特に必要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。

	今 回	前回（平成30年調査）	増減差
1位 高齢者の福祉を充実する	24.2%	22.9%（2位）	1.3
2位 医療サービス体制を整備する	23.4	21.8（3位）	1.6
3位 災害から県民をまもる	19.4	25.1（1位）	△ 5.7
4位 子育て支援を充実する	18.5	21.1（4位）	△ 2.6
5位 防犯の地域づくりをすすめる	16.7	14.7（5位）	2.0
6位 交通事故をなくす	16.6	12.5（9位）	4.1
7位 道路や街路を整備する	13.4	12.7（7位）	0.7
8位 便利な交通網をつくる	12.9	12.6（8位）	0.3
9位 地球温暖化を防止する	12.7	12.3（10位）	0.4
10位 自然をまもり、緑を育てる	12.3	13.4（6位）	△ 1.1

【過去調査との比較】

今回の上位10位と前回の平成30年調査を比べると、前回2位の「高齢者の福祉を充実する」が順位を上げて1位となった。2位の「医療サービス体制を整備する」は順位を1つ上げ、3位の「災害から県民をまもる」は順位を2つ下げている。4位の「子育て支援を充実する」、5位の「防犯の地域づくりをすすめる」、7位の「道路や街路を整備する」、8位の「便利な交通網をつくる」は順位の変化がない。前回9位の「交通事故をなくす」は3つ順位を上げて6位となっている。また、前回10位の「地球温暖化を防止する」も順位を上げて9位となっている。一方で、前回6位の「自然をまもり、緑を育てる」は順位を下げて10位となっている。

前回調査との増減をみると、「交通事故をなくす」（4.1ポイント増）、「防犯の地域づくりをすすめる」（2.0ポイント増）などが増加している。一方で、「災害から県民をまもる」（5.7ポイント減）、「子育て支援を充実する」（2.6ポイント減）などは減少している。



【平成27年以降の上位10位の推移】

過去5年間の上位10位の推移をみると、1位の「高齢者の福祉を充実する」（1位→2位→1位→2位→1位）、2位の「医療サービス体制を整備する」（2位→1位→2位→3位→2位）は上位で固定されていたが、今回順位をそれぞれ1つ上げた。3位の「災害から県民をまもる」（5位→5位→4位→1位→3位）は前回順位を大きく上げて1位となったが、今回順位を2つ下げた。4位の「子育て支援を充実する」（3位→3位→3位→4位→4位）、5位の「防犯の地域づくりをすすめる」（4位→4位→5位→5位→5位）、7位の「道路や街路を整備する」（7位→8位→7位→7位→7位）、8位の「便利な交通網をつくる」（10位→10位→9位→8位→8位）はいずれも前回と今回ともに同じ順位を維持している。6位の「交通事故をなくす」（11位→11位→6位→9位→6位）は前回9位に順位を下げたが、今回再び順位を3つ上げた。9位の「地球温暖化を防止する」（15位→13位→12位→10位→9位）は前回順位を12位から10位に上げたが、今回も順位を1つ上げている。10位の「自然をまもり、緑を育てる」（9位→6位→8位→6位→10位）は前回順位を6位に上げたが、今回順位を4つ下げた。

順位	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
1	高齢者の福祉を充実する 28.5%	医療サービス体制を整備する 26.9%	高齢者の福祉を充実する 26.0%	災害から県民をまもる 25.1%	高齢者の福祉を充実する 24.2%
2	医療サービス体制を整備する 24.5%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	医療サービス体制を整備する 22.9%	高齢者の福祉を充実する 22.9%	医療サービス体制を整備する 23.4%
3	子育て支援を充実する 23.4%	子育て支援を充実する 23.0%	子育て支援を充実する 22.5%	医療サービス体制を整備する 21.8%	災害から県民をまもる 19.4%
4	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	災害から県民をまもる 17.6%	子育て支援を充実する 21.1%	子育て支援を充実する 18.5%
5	災害から県民をまもる 14.6%	災害から県民をまもる 16.1%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%
6	食品の安全をまもる 13.4%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 13.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 16.6%
7	道路や街路を整備する 13.0%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.8%	道路や街路を整備する 12.7%	道路や街路を整備する 13.4%
8	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.9%
9	自然をまもり、緑を育てる 12.4%	食品の安全をまもる 11.9%	便利な交通網をつくる 12.0%	交通事故をなくす 12.5%	地球温暖化を防止する 12.7%
10	便利な交通網をつくる 12.0%	便利な交通網をつくる 11.7%	食品の安全をまもる 11.4%	地球温暖化を防止する 12.3%	自然をまもり、緑を育てる 12.3%

【上位4位の10年間の推移】

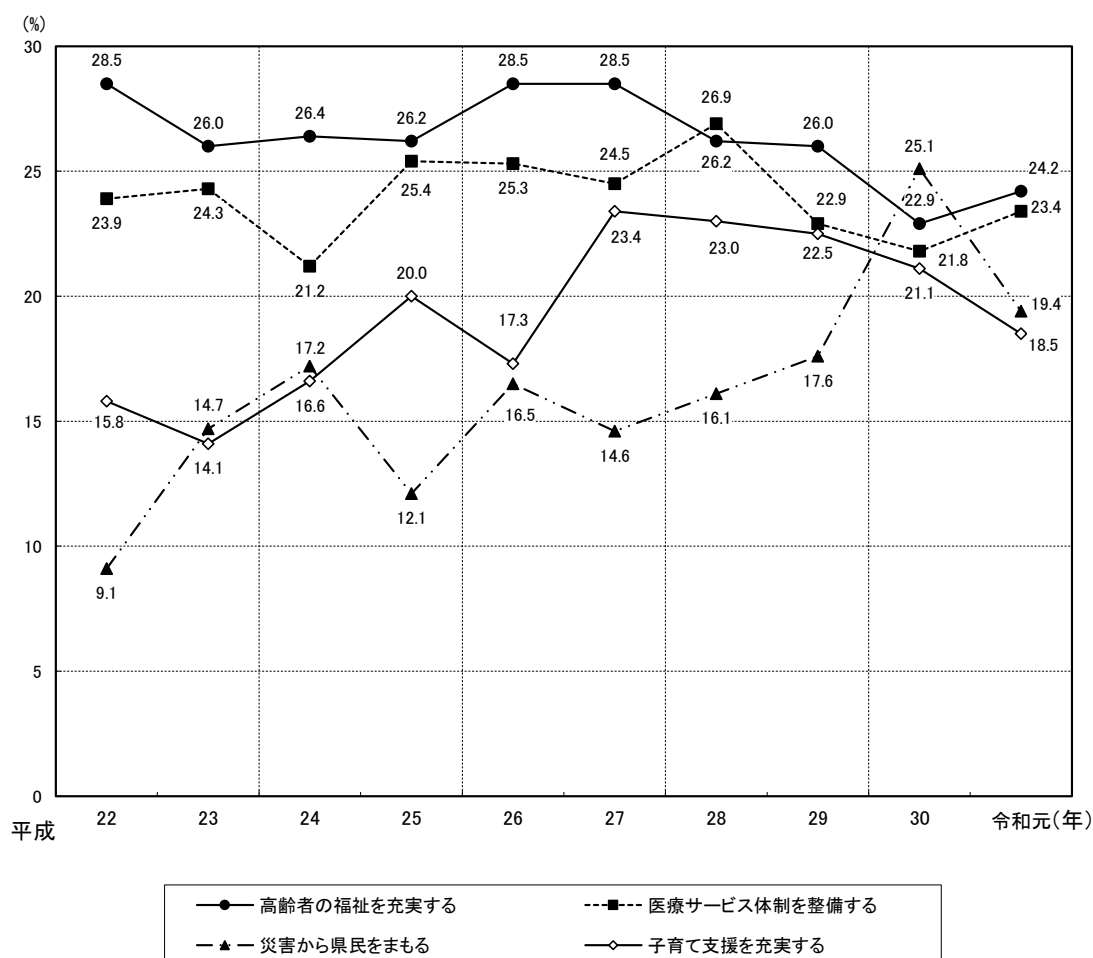
今回調査で上位となった「高齢者の福祉を充実する」、「医療サービス体制を整備する」、「災害から県民をまもる」、「子育て支援を充実する」の4項目について、平成22年以降の直近10年間の推移をみると次のようになっている。

まず、1位の「高齢者の福祉を充実する」は平成22年以降おおむね26～28%程度の間で推移し、前回に2割強の最低値を記録したが、今回は2割台半ばと増加に転じている。

2位の「医療サービス体制を整備する」は平成28年に直近10年間での最高値を記録したものの、前回、前々回と減少し、今回も2割強で推移している。

3位の「災害から県民をまもる」は平成22年に直近10年間での最低値を記録した以降、おおむね14～17%程度の間で推移し、今回は2割台半ばの最高値を記録したが、今回は約2割と減少に転じている。

4位の「子育て支援を充実する」は、平成27年に直近10年間での最高値を記録した以降、2割強で推移していたが、今回は2割弱と減少に転じている。



県政への要望10年間の推移(平成22年～令和元年)

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
1	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 26.0%	高齢者の福祉を充実する 26.4%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	高齢者の福祉を充実する 28.5%
2	医療サービス体制を整備する 23.9%	医療サービス体制を整備する 24.3%	医療サービス体制を整備する 21.2%	医療サービス体制を整備する 25.4%	医療サービス体制を整備する 25.3%
3	自然をまもり、緑を育てる 21.3%	食品の安全をまもる 22.3%	自然をまもり、緑を育てる 19.7%	子育て支援を充実する 20.0%	子育て支援を充実する 17.3%
4	防犯の地域づくりをすすめる 18.1%	自然をまもり、緑を育てる 18.6%	防犯の地域づくりをすすめる 17.6%	防犯の地域づくりをすすめる 16.9%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%
5	子育て支援を充実する/ 雇用の場を広げる 15.8%	防犯の地域づくりをすすめる 14.8%	雇用の場を広げる 17.3%	雇用の場を広げる 15.7%	災害から県民をまもる 16.5%
6	地球温暖化を防止する 14.1%	災害から県民をまもる/ 雇用の場を広げる 14.7%	災害から県民をまもる 17.2%	食品の安全をまもる 15.2%	雇用の場を広げる 15.3%
7	食品の安全をまもる 12.9%	子育て支援を充実する 14.1%	子育て支援を充実する 16.8%	自然をまもり、緑を育てる 15.0%	交通事故をなくす 14.2%
8	交通事故をなくす 10.9%	交通事故をなくす 10.7%	食品の安全をまもる 14.2%	災害から県民をまもる 12.1%	食品の安全をまもる 13.8%
9	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 10.1%	交通事故をなくす 10.7%	交通事故をなくす 13.2%	交通事故をなくす 11.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.0%
10	道路や街路を整備する 9.5%	道路や街路を整備する 10.4%	地球温暖化を防止する 9.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 11.2%	便利な交通網をつくる 11.7%
11	省資源やリサイクルをすすめる 9.2%	地球温暖化を防止する 10.0%	道路や街路を整備する 8.4%	道路や街路を整備する/ 便利な交通網をつくる 9.2%	道路や街路を整備する 11.1%
12	災害から県民をまもる 9.1%	便利な交通網をつくる 9.0%	便利な交通網をつくる 8.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.0%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.5%
13	公園、緑地を整備する 8.4%	省資源やリサイクルをすすめる/ 川や大気的环境をまもる 8.6%	川や大気的环境をまもる 7.8%	川や大気的环境をまもる 8.6%	川や大気的环境をまもる 8.7%
14	青少年を健全に育てる 8.3%	消費生活の安全を高める 7.6%	省資源やリサイクルをすすめる/ 青少年を健全に育てる 7.8%	地球温暖化を防止する 7.9%	地球温暖化を防止する 8.4%
15	廃棄物対策を充実する 8.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 7.4%	青少年を健全に育てる 7.8%	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 7.3%
16	川や大気的环境をまもる 7.4%	公園、緑地を整備する 7.3%	川や大気的环境をまもる 6.5%	省資源やリサイクルをすすめる 5.9%	省資源やリサイクルをすすめる 6.6%
17	便利な交通網をつくる 6.4%	消費生活の安全を高める 5.7%	消費生活の安全を高める 6.0%	公園、緑地を整備する 5.3%	公園、緑地を整備する 6.5%
18	消費生活の安全を高める 6.0%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 3.9%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.7%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.8%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 5.9%
19	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.2%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.2%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.8%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.2%
20	都市のバリアフリー化をすすめる/ 障害者の社会参加と福祉対策をすすめる/ 健康づくりをすすめて疾病を予防する 3.6%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 3.5%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.1%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.5%
21	生活排水対策をすすめる 3.3%	生活排水対策をすすめる 3.2%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.8%	障害者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 3.1%
22	農林業をさかんにする 3.1%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 人権尊重の社会づくりをすすめる/ 農林業をさかんにする 2.7%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 2.4%	農林業をさかんにする 2.9%
23	スポーツ・レクリエーションをさかんにする 2.4%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 2.2%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 2.5%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 人権尊重の社会づくりをすすめる 2.1%	都市のバリアフリー化をすすめる 2.9%
24	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.9%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.3%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.5%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.2%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.8%
25	芸術・文化活動をさかんにする 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 2.2%	芸術・文化活動をさかんにする/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.2%	芸術・文化活動をさかんにする 2.1%	芸術・文化活動をさかんにする 2.4%
26	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.6%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.2%	観光振興をすすめる 1.9%	観光振興をすすめる 2.4%
27	生涯学習対策を充実する/ 観光振興をすすめる 1.5%	生涯学習対策を充実する/ 観光振興をすすめる 1.8%	生涯学習対策を充実する/ 観光振興をすすめる 2.1%	生涯学習対策を充実する/ 観光振興をすすめる 2.3%	生涯学習対策を充実する/ 観光振興をすすめる 2.1%
28	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.4%	農林業をさかんにする 1.5%	農林業をさかんにする 2.1%	農林業をさかんにする 2.2%	農林業をさかんにする 2.1%
29	県民参加の行政をすすめる 1.3%	県民参加の行政をすすめる 1.2%	県民参加の行政をすすめる 2.0%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.8%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.6%
30	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 1.2%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 1.1%	生涯学習対策を充実する 1.8%	県民参加の行政をすすめる 1.4%	県民参加の行政をすすめる 1.6%
31	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める/ 男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる/ 生涯学習対策を充実する/ 国際交流や国際協力をすすめる 1.0%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる NPOやボランティアへの活動支援を充実する/ 国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	男女共同参画社会の実現をはかる IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 0.8%
32	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.5%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%	男女共同参画社会の実現をはかる/ NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.8%

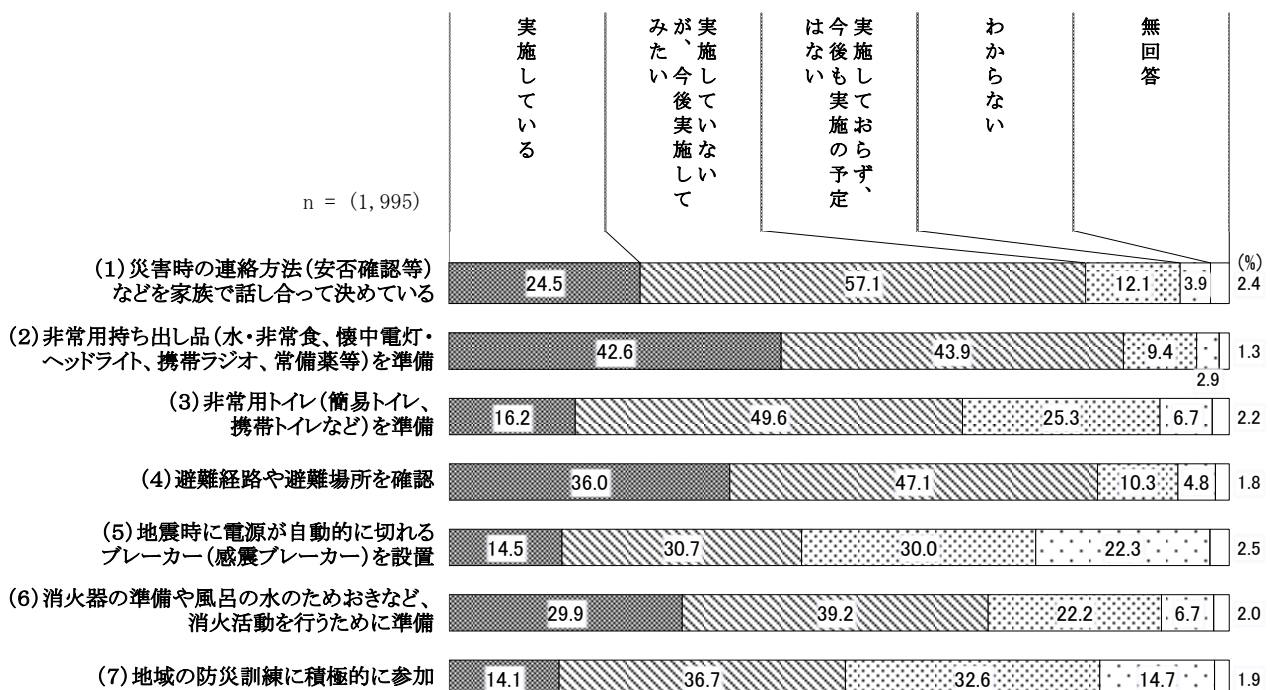
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
1	高齢者の福祉を充実する 28.5%	医療サービス体制を整備する 26.9%	高齢者の福祉を充実する 26.0%	災害から県民をまもる 25.1%	高齢者の福祉を充実する 24.2%
2	医療サービス体制を整備する 24.5%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	医療サービス体制を整備する 22.9%	高齢者の福祉を充実する 22.9%	医療サービス体制を整備する 23.4%
3	子育て支援を充実する 23.4%	子育て支援を充実する 23.0%	子育て支援を充実する 22.5%	医療サービス体制を整備する 21.8%	災害から県民をまもる 19.4%
4	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	災害から県民をまもる 17.6%	子育て支援を充実する 21.1%	子育て支援を充実する 18.5%
5	災害から県民をまもる 14.6%	災害から県民をまもる 16.1%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%
6	食品の安全をまもる 13.4%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 13.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 16.6%
7	道路や街路を整備する 13.0%	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.8%	道路や街路を整備する 12.7%	道路や街路を整備する 13.4%
8	雇用の場を広げる 12.6%	道路や街路を整備する 12.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.9%
9	自然をまもり、緑を育てる 12.4%	食品の安全をまもる 11.9%	便利な交通網をつくる 12.0%	交通事故をなくす 12.5%	地球温暖化を防止する 12.7%
10	便利な交通網をつくる 12.0%	便利な交通網をつくる 11.7%	食品の安全をまもる 11.4%	地球温暖化を防止する 12.3%	自然をまもり、緑を育てる 12.3%
11	交通事故をなくす 10.5%	交通事故をなくす 9.9%	雇用の場を広げる 10.8%	食品の安全をまもる 11.9%	雇用の場を広げる 9.6%
12	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 10.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.8%	地球温暖化を防止する 10.7%	雇用の場を広げる 8.6%	食品の安全をまもる 9.3%
13	青少年を健全に育てる 7.9%	地球温暖化を防止する 8.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.2%	川や大気の状態をまもる 8.4%	省資源やリサイクルをすすめる 8.4%
14	川や大気の状態をまもる 6.6%	川や大気の状態をまもる 8.0%	川や大気の状態をまもる 8.0%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 7.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.1%
15	地球温暖化を防止する 6.4%	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 6.8%	青少年を健全に育てる 6.7%	川や大気の状態をまもる 7.9%
16	公園、緑地を整備する 6.4%	公園、緑地を整備する 5.4%	公園、緑地を整備する 5.8%	省資源やリサイクルをすすめる/ 消費生活の安全を高める/ 公園、緑地を整備する 5.6%	青少年を健全に育てる 7.2%
17	消費生活の安全を高める 6.3%	省資源やリサイクルをすすめる 5.2%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 5.5%	消費生活の安全を高める/ 公園、緑地を整備する 5.6%	公園、緑地を整備する 5.6%
18	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 5.6%	消費生活の安全を高める 5.2%	消費生活の安全を高める 5.2%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.7%	消費生活の安全を高める 5.5%
19	省資源やリサイクルをすすめる 5.1%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.8%	省資源やリサイクルをすすめる/ 健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.6%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.7%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.9%
20	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.3%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.7%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.6%	廃棄物対策を充実する/ 健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.1%	廃棄物対策を充実する 4.7%
21	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 3.7%	廃棄物対策を充実する/ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.4%	都市のバリアフリー化をすすめる 4.3%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.1%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.8%
22	都市のバリアフリー化をすすめる 3.4%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.4%	廃棄物対策を充実する 3.5%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.5%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 3.4%
23	生活排水対策をすすめる 3.2%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.3%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.3%	観光振興をすすめる/ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.0%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.1%
24	廃棄物対策を充実する 3.1%	生活排水対策をすすめる/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 3.1%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.9%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.0%	生活排水対策をすすめる 3.0%
25	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.6%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 3.1%	生活排水対策をすすめる 2.8%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.7%	観光振興をすすめる 2.9%
26	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%	生涯学習対策を充実する/ 芸術・文化活動をさかんにする 2.3%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.8%	生活排水対策をすすめる 2.5%	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%
27	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.6%	芸術・文化活動をさかんにする 2.3%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.6%	農林業をさかんにする 2.3%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.5%
28	農林業をさかんにする 2.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.2%	芸術・文化活動をさかんにする 2.5%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 2.2%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.1%
29	生涯学習対策を充実する 2.1%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.1%	観光振興をすすめる 2.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる/ 芸術・文化活動をさかんにする 2.0%	農林業をさかんにする 2.0%
30	観光振興をすすめる 2.0%	農林業をさかんにする/ 観光振興をすすめる 1.8%	農林業をさかんにする 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする 2.0%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる/ 生涯学習対策を充実する/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.8%
31	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.6%	観光振興をすすめる 1.8%	生涯学習対策を充実する 1.8%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.9%	生涯学習対策を充実する/ スポーツ、レクリエーションをさかんにする 1.8%
32	男女共同参画社会の実現をはかる/ 県民参加の行政をすすめる 1.0%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.6%	生涯学習対策を充実する 1.6%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%
33	県民参加の行政をすすめる 1.0%	県民参加の行政をすすめる/ 国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	国際交流や国際協力をすすめる 1.2%	国際交流や国際協力をすすめる 1.4%	国際交流や国際協力をすすめる 1.0%
34	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 0.9%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	県民参加の行政をすすめる 1.1%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	国際交流や国際協力をすすめる 1.0%
35	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.8%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%	県民参加の行政をすすめる 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%
36	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.7%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.6%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.5%	県民参加の行政をすすめる 0.6%

4. 大地震に備えた取組について

(1) 大地震に備えた取組の実施状況

◇「実施している」は非常用持ち出し品（水・非常食、懐中電灯・ヘッドライト、携帯ラジオ、常備薬等）を準備が42.6%

問22 あなたの家では、大地震に備えるために、どのような取組を実施していますか。次の(1)から(8)までのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。



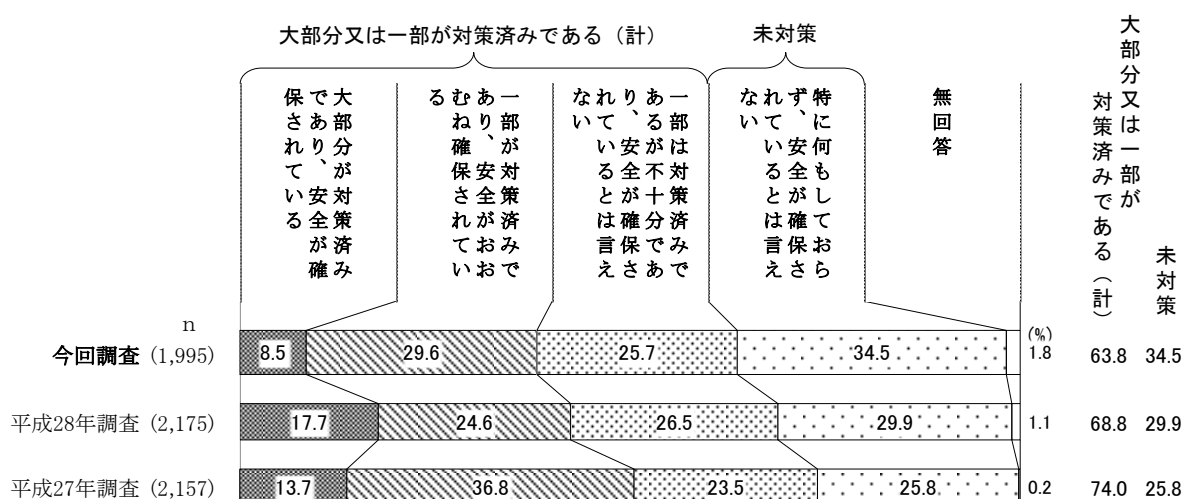
※「(8) その他」については、割愛。

大地震に備えた取組の実施状況は、「実施している」は(2)非常用持ち出し品（水・非常食、懐中電灯・ヘッドライト、携帯ラジオ、常備薬等）を準備（42.6%）が4割強と最も高く、「実施していないが、今後実施してみたい」は、(1)災害時の連絡方法（安否確認等）などを家族で話し合っている（57.1%）が5割台半ばを超えて最も高く、(3)非常用トイレ（簡易トイレ、携帯トイレなど）を準備（49.6%）が約5割、(4)避難経路や避難場所を確認（47.1%）が4割台半ばを超えて高くなっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」は(7)地域の防災訓練に積極的に参加（32.6%）が3割強と最も高く、(5)地震時に電源が自動的に切れるブレーカー（感震ブレーカー）を設置（30.0%）が3割と高くなっている。

（２）自宅での家具転倒防止対策の実施状況

◇『大部分又は一部が対策済みである（計）』 63.8%

問23 あなたの家では、地震に備えて家具転倒防止対策を実施していますか。（家具類（タンスや食器棚、本棚、冷蔵庫、電子レンジ、テレビ等）が転倒・落下・移動しないよう、固定や配置の工夫、家具類がない部屋で就寝するなどを実施している場合、対策しているといえます。）



自宅での家具転倒防止対策の実施状況は、「特に何もしておらず、安全が確保されているとは言えない」（34.5%）が3割台半ばとなっている。「大部分が対策済みであり、安全が確保されている」（8.5%）、「一部が対策済みであり、安全が確保されている」（29.6%）、「一部は対策済みであるが不十分であり、安全が確保されているとは言えない」（25.7%）を合わせた『大部分又は一部が対策済みである（計）』（63.8%）が6割強となっている。

【過去調査との比較】

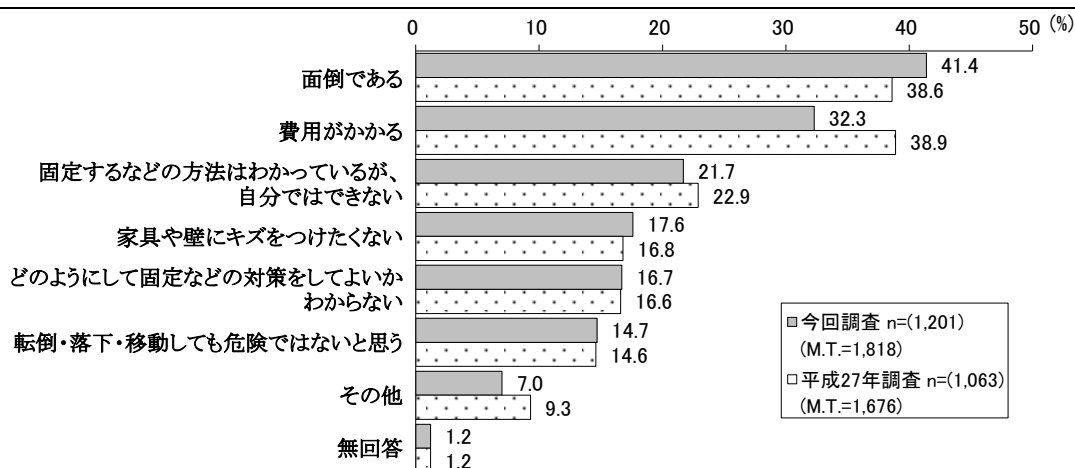
平成28年調査と比べて、『大部分又は一部が対策済みである（計）』は5.0ポイント減少している。

（２－１）家具転倒防止対策を実施していない理由

◇「面倒である」41.4%、「費用がかかる」32.3%、

（問23で「一部は対策済みであるが不十分であり、安全が確保されているとは言えない」または「特に何もしておらず、安全が確保されているとは言えない」と答えた方に）

問23－１ あなたの家において、家具類が転倒・落下・移動しないための対策が不十分、又は、特に何もしておらず、安全が確保されていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



家具転倒防止対策を実施していない理由は、「面倒である」(41.4%)が4割強と最も高く、次いで「費用がかかる」(32.3%)、「固定する方法はわかっているが、自分ではできない」(21.7%)、「家具や壁にキズをつけたくない」(17.6%)、「どのようにして固定などの対策をしてよいかわからない」(16.7%)などとなっている。

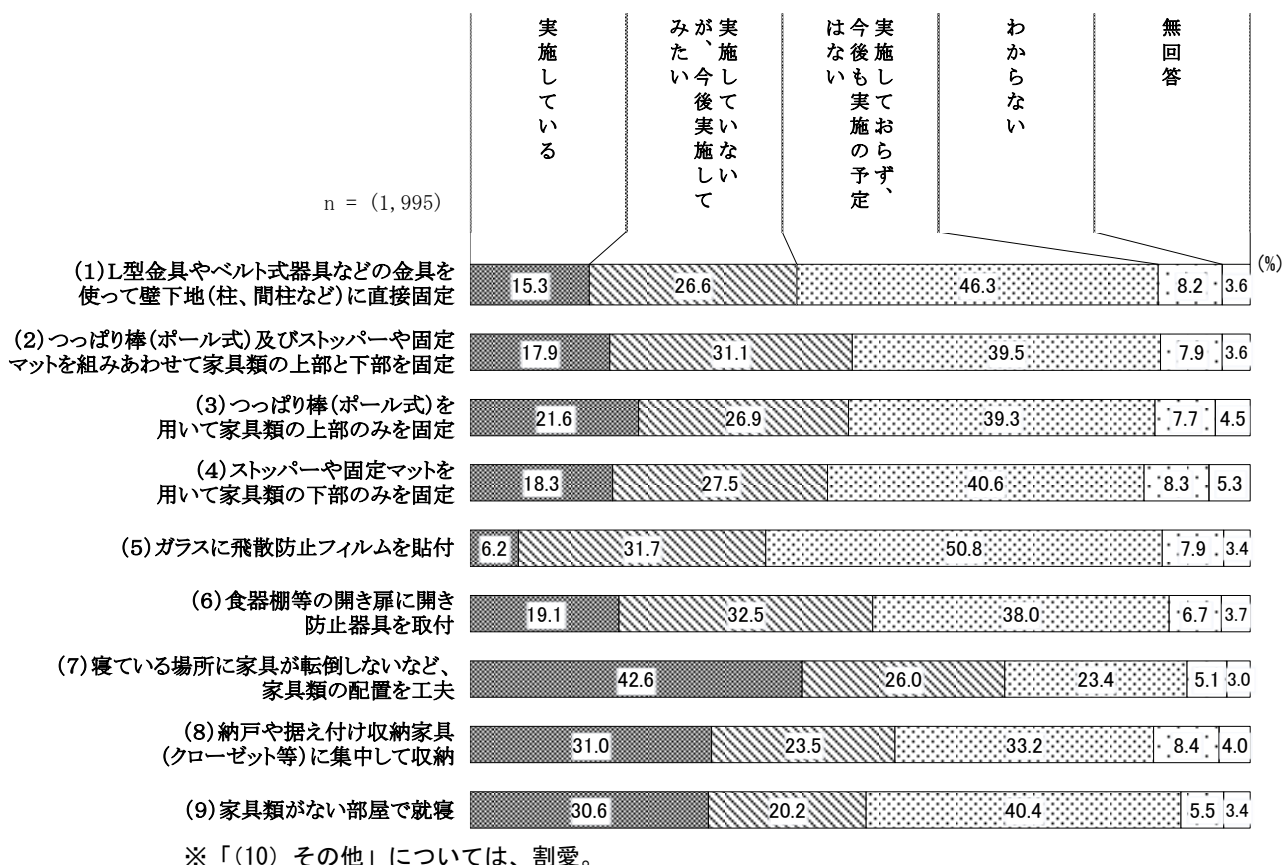
【過去調査との比較】

平成27年調査と比べて、「面倒である」は2.8ポイント増加している。一方で、「費用がかかる」は6.6ポイント減少している。

(3) 自宅での家具類の転倒・落下・移動による危険防止対策の実施状況

◇「実施している」は寝ている場所に家具が転倒しないなど、家具類の配置を工夫が42.6%

問24 あなたの家では、家具類の転倒・落下・移動による危険防止のため、どのような対策を実施していますか。次の(1)から(10)までのそれぞれの項目について、あてはまるものを選んでください。

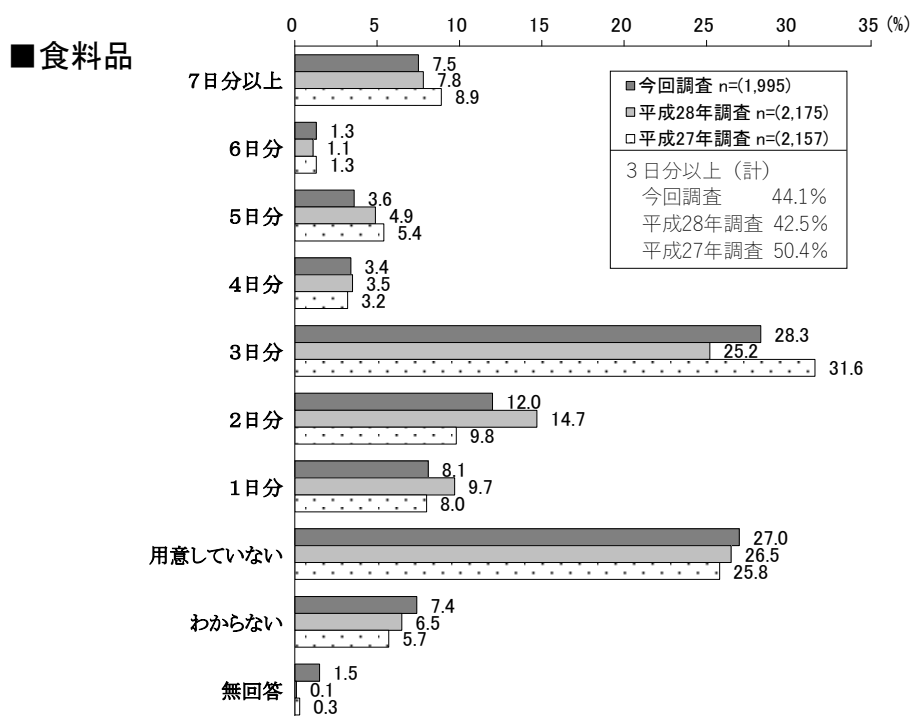


自宅での家具類の転倒・落下・移動による危険防止対策の実施状況について、「実施している」は(7)寝ている場所に家具が転倒しないなど、家具類の配置を工夫(42.6%)が4割強と最も高く、次いで(8)納戸や据え付け収納家具(クローゼット等)に集中して収納(31.0%)、(9)家具類がない部屋で就寝(30.6%)が比較的高くなっている。一方で、「実施しておらず、今後も実施の予定はない」は(5)ガラスに飛散防止フィルムを貼付(50.8%)が5割を超えて最も高く、次いで(1)L型金具やベルト式器具などの金具を使って壁下地(柱、間柱など)に直接固定(46.3%)が4割台半ばを超えて高くなっている。

（４）災害時に利用可能な備蓄状況

◇『３日分以上（計）』は食料品が44.1%、飲料水が46.5%

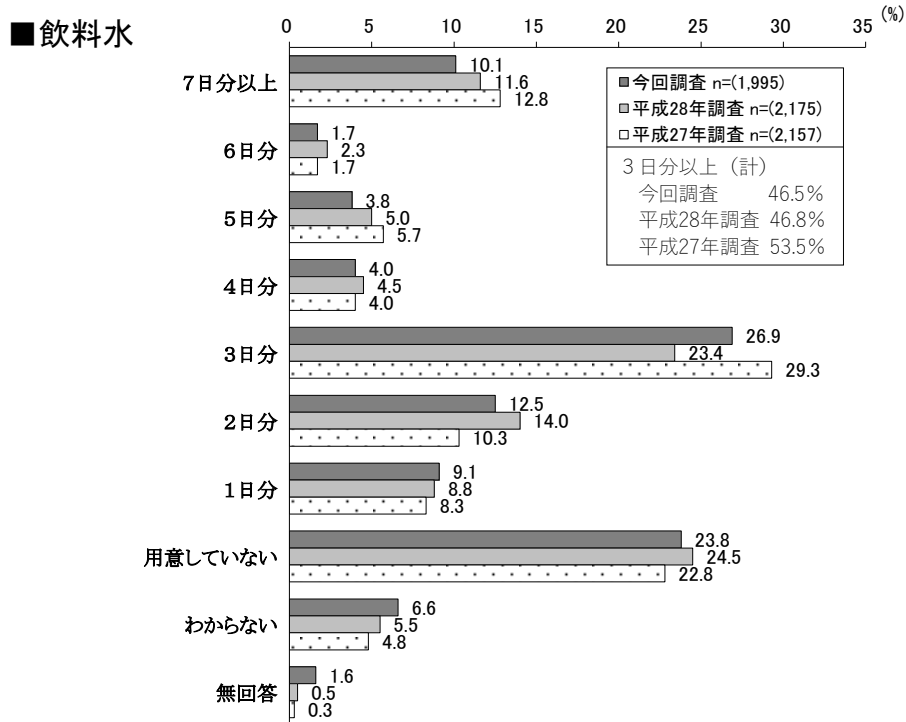
問25 あなたの家では、災害時に利用できる食料品及び飲料水を何日分用意していますか。



災害時に利用可能な備蓄状況について、食料品は「３日分」（28.3%）が３割弱と最も多く、「用意していない」（27.0%）が２割台半ばを超え、「２日分」（12.0%）が１割強である。なお、備蓄量を「３日分」以上と回答した人の割合を合わせた『３日分以上（計）』（44.1%）は４割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、『３日分以上（計）』は1.6ポイントの増加となっている。



災害時に利用可能な備蓄状況について、飲料水は「3日分」（26.9%）が2割台半ばを超えて最も多く、「用意していない」（23.8%）が2割強、「2日分」（12.5%）が1割強、「7日分以上」（10.1%）が1割を超えている。なお、備蓄量を「3日分」以上と回答した人の割合を合わせた『3日分以上（計）』（46.5%）は4割台半ばを超えている。

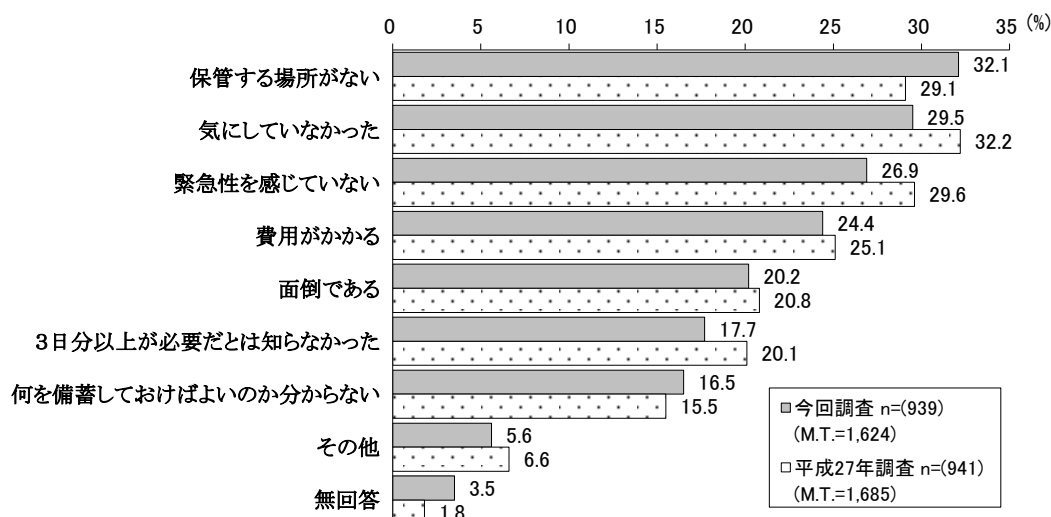
【過去調査との比較】

平成28年調査と比べて、「3日分」（3.5ポイント増）などが増加している一方、「7日分以上」（1.5ポイント減）などが減少し、『3日分以上（計）』は0.3ポイントの減少となっている。

（４－１）３日分以上の食料品の備蓄をしていない理由

◇「保管する場所がない」が32.1%

（問25（１）で「２日分」、「１日分」、「用意していない」のいずれかを答えた方に）
 問25（１）－１ あなたの家で、３日分以上の食料品の備蓄をしていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



３日分以上の食料品の備蓄をしていない理由は、「保管する場所がない」（32.1％）が３割強と最も高く、次いで、「気にしていなかった」（29.5％）、「緊急性を感じていない」（26.9％）、「費用がかかる」（24.4％）、「面倒である」（20.2％）、「３日分以上が必要だとは知らなかった」（17.7％）、「何を備蓄しておけばよいのか分からない」（16.5％）などとなっている。

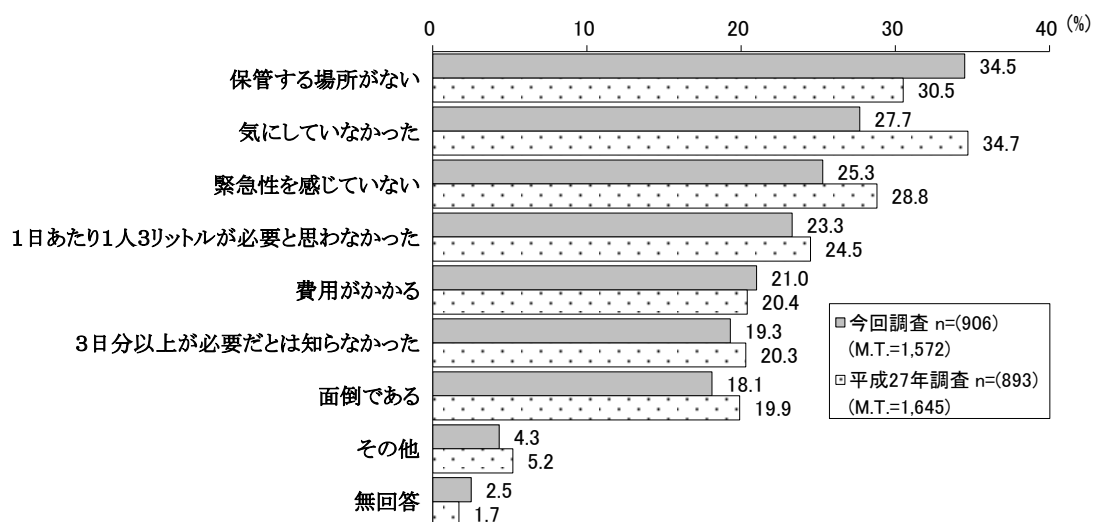
【過去調査との比較】

平成27年調査と比べて、「保管する場所がない」は3.0ポイント増加している。一方で、「気にしていなかった」と「緊急性を感じていない」はともに2.7ポイント減少している。

（４－２）３日分以上の飲料水の備蓄をしていない理由

◇「保管する場所がない」が34.5%

（問25（２）で「２日分」、「１日分」、「用意していない」のいずれかを答えた方に）
 問25（２）－１ あなたの家で、３日分以上の飲料水（１日あたり１人３リットル）の備蓄をしていない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



３日分以上の飲料水の備蓄をしていない理由は、「保管する場所がない」（34.5％）が３割台半ばと最も高く、次いで、「気にしていなかった」（27.7％）、「緊急性を感じていない」（25.3％）、「１日あたり１人３リットルが必要と思わなかった」（23.3％）、「費用がかかる」（21.0％）、「３日分以上が必要だとは知らなかった」（19.3％）、「面倒である」（18.1％）などとなっている。

【過去調査との比較】

平成27年調査と比べて、「保管する場所がない」は4.0ポイント増加している。一方で、「気にしていなかった」は7.0ポイント、「緊急性を感じていない」は3.5ポイント減少している。

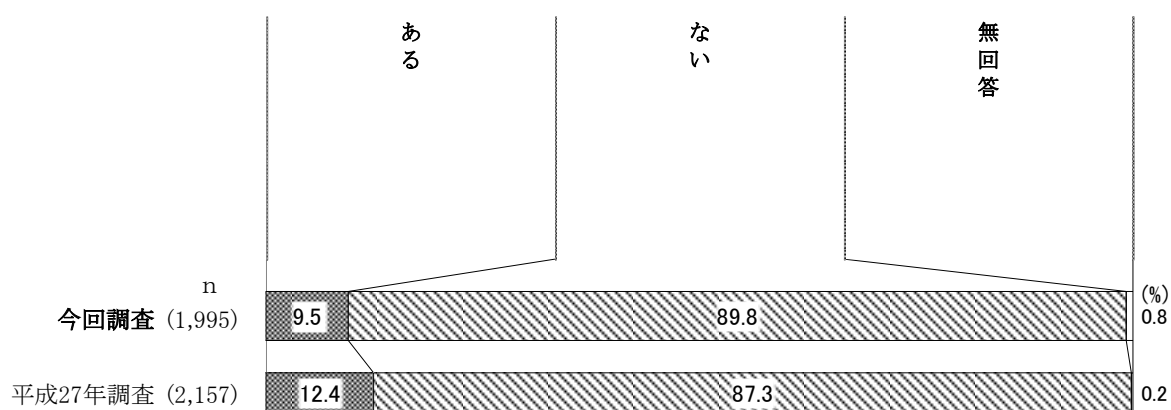
（５）災害用伝言サービスの体験利用経験

◇「ない」が89.8%

「災害用伝言サービス」は、大規模な災害が発生した場合、被災地への電話がつながりにくくなることから、家族や知人との間での安否確認などを行うために通信事業者が提供しています。NTT東日本が提供する「災害用伝言ダイヤル171」「災害用伝言板web171」や、携帯電話各社が提供する「災害用伝言板」「災害用音声お届けサービス」があります。

問26 あなたは「災害用伝言サービス」を体験利用（※）したことがありますか。

※体験利用日：毎月1日・15日、防災週間（8/30～9/5）、正月三が日（1/1～3）、防災とボランティア週間（1/15～21）



災害用伝言サービスの体験利用経験は「ある」（9.5%）が約1割と低く、「ない」（89.8%）が約9割と高くなっている。

【過去調査との比較】

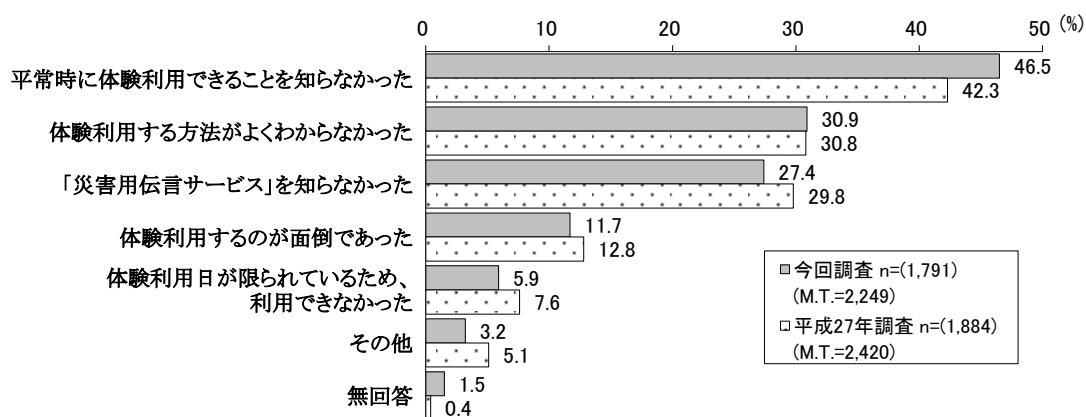
平成27年調査と比べて、「ある」が2.9ポイント減少し、「ない」が2.5ポイント増加した。

（５－１）災害用伝言サービスを体験利用したことがない理由

◇「平常時に体験利用できることを知らなかった」が46.5%

（問26「ない」と答えた方に）

問26－１ あなたが「災害用伝言サービス」を体験利用したことがない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



災害用伝言サービスを体験利用したことがない理由は、「平常時に体験利用できることを知らなかった」（46.5%）が4割台半ばを超えて最も高く、次いで「体験利用する方法がよくわからなかった」（30.9%）、「災害用伝言サービス」を知らなかった」（27.4%）などとなっている。

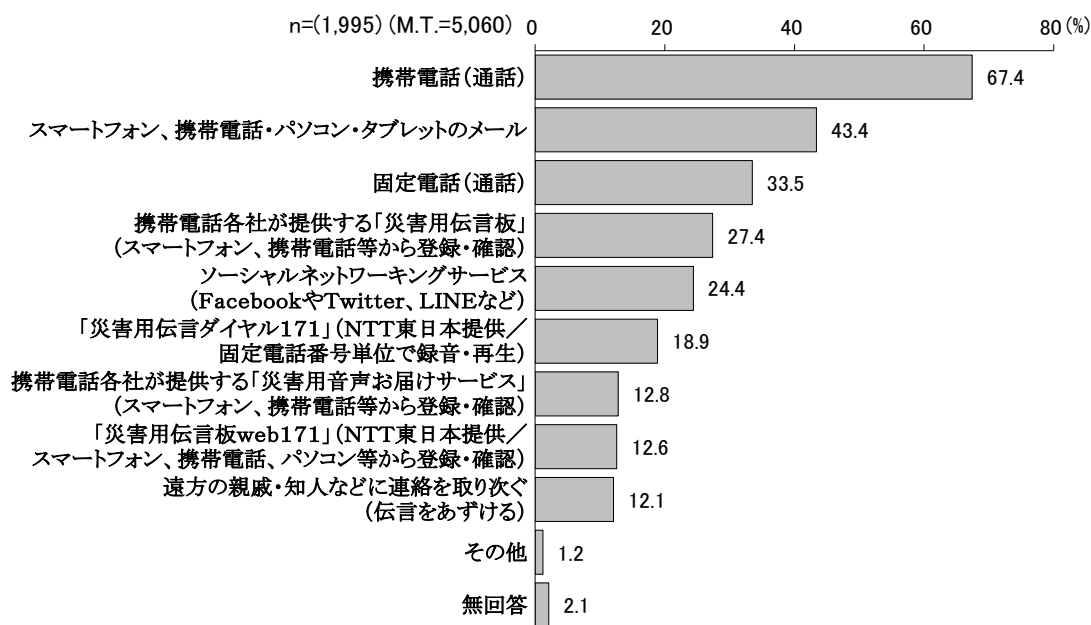
【過去調査との比較】

平成27年調査と比べて、「平常時に体験利用できることを知らなかった」は4.2ポイント増加している。一方で、「災害用伝言サービス」を知らなかった」は2.4ポイント減少している。

（６）災害時の家族や友人の安否確認手段

◇「携帯電話（通話）」が67.4%

問27 あなたは、災害時に家族や知人の安否を確認する手段として、どのような手段を考えていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

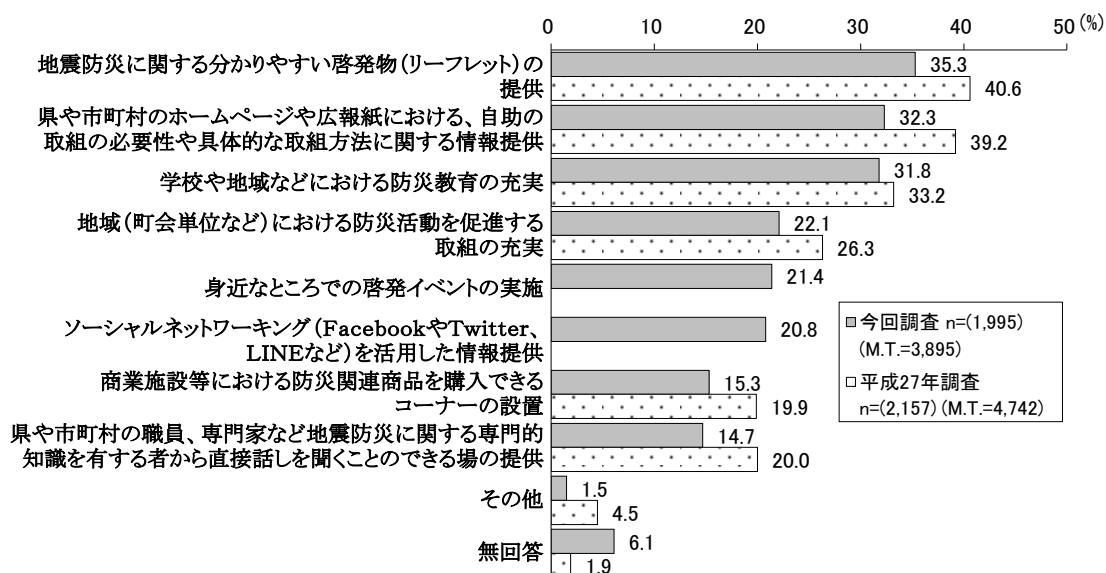


災害時の家族や友人の安否確認手段は、「携帯電話（通話）」（67.4%）が6割台半ばを超えて最も高く、次いで、「スマートフォン、携帯電話・パソコン・タブレットのメール」（43.4%）、「固定電話（通話）」（33.5%）、「携帯電話各社が提供する「災害用伝言板」（スマートフォン、携帯電話等から登録・確認）」（27.4%）、「ソーシャルネットワーキングサービス（FacebookやTwitter、LINEなど）」（24.4%）などとなっている。

（７）大地震に備えた自助の取組を進めるために必要な支援

◇「地震防災に関する分かりやすい啓発物（リーフレット）の提供」が35.3%

問28 あなたは、今後どのような支援があれば、大地震に備えた自助（自分の命は自分で守る）の取組を進めやすいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



大地震に備えた自助の取組を進めるために必要な支援は、「地震防災に関する分かりやすい啓発物（リーフレット）の提供」（35.3%）が3割台半ばと最も高く、次いで、「県や市町村のホームページや広報紙における、自助の取組の必要性や具体的な取組方法に関する情報提供」（32.3%）、「学校や地域などにおける防災教育の充実」（31.8%）、「地域（町会単位など）における防災活動を促進する取組の充実」（22.1%）などとなっている。

【過去調査との比較】

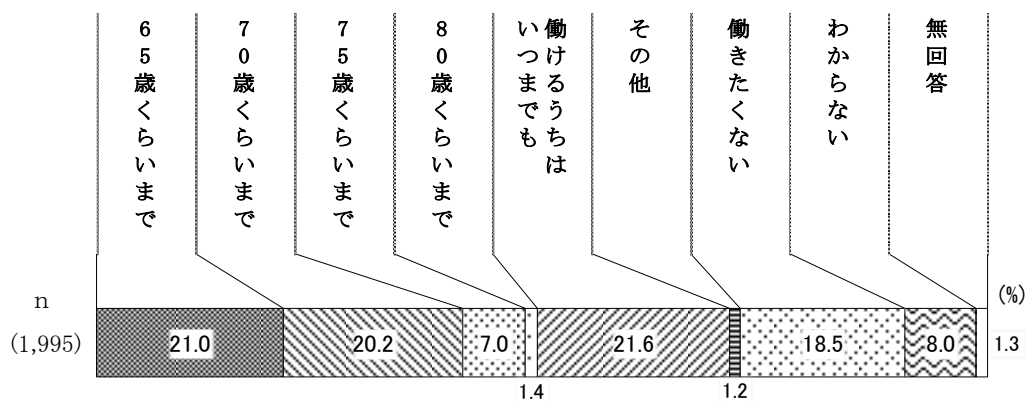
平成27年調査と比べて、「県や市町村のホームページや広報紙における、自助の取組の必要性や具体的な取組方法に関する情報提供」は6.9ポイント減少、「県や市町村の職員、専門家など地震防災に関する専門的知識を有する者から直接話しを聞くことのできる場の提供」と「地震防災に関する分かりやすい啓発物（リーフレット）の提供」はともに5.3ポイント減少しているなど、いずれの項目も減少している。

5. 生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等について

(1) 60歳以降の就労意向

◇「働けるうちはいつまでも」が21.6%と最も高い

問29 あなたは、60歳以降に働くとしたら、何歳まで働きたいと思いますか。
 (60歳以上の方は、60歳当時または今後の希望についてお答えください。)



60歳以降の就労意向は、「働けるうちはいつまでも」(21.6%)が2割強で最も高く、次いで「65歳くらいまで」(21.0%)、「70歳くらいまで」(20.2%)となっている。

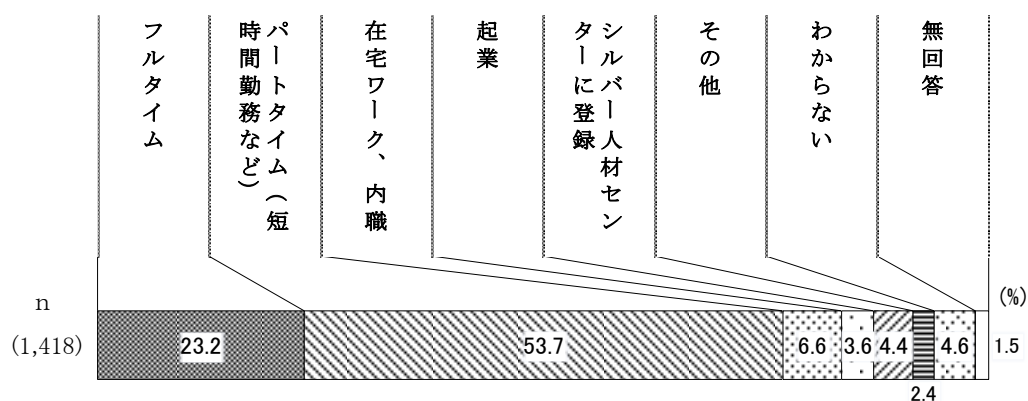
(1-1) 60歳以降に希望する働き方

◇「パートタイム（短時間勤務など）」が53.7%

（問29で「65歳くらいまで」「70歳くらいまで」「75歳くらいまで」「80歳くらいまで」「働けるうちはいつまでも」のいずれかを答えた方に）

問29-1 あなたは、60歳以降に働くとしたら、どのような働き方を希望しますか。最も希望するものを1つ教えてください。

（60歳以上の方は、60歳当時の希望についてお答えください。）



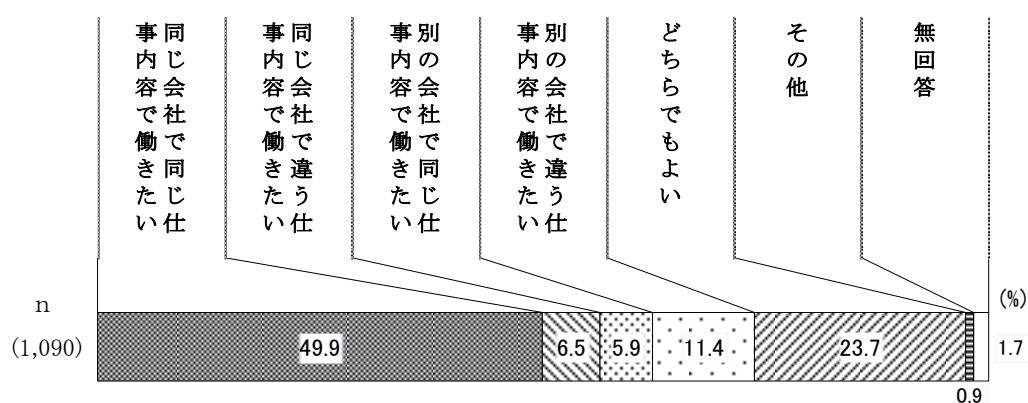
60歳以降に希望する働き方は、「パートタイム（短時間勤務など）」（53.7%）が5割台強で最も高く、次いで「フルタイム」（23.2%）となっている。

(1-2) 60歳以降に働きたい会社

◇「同じ会社で同じ仕事内容で働きたい」が49.9%

(問29-1で「フルタイム」または「パートタイム(短時間勤務など)」と答えた方に)

問29-2 あなたは、60歳以降に働くとしたら、60歳以前と同じ会社で引き続き働きたいと思いますか。



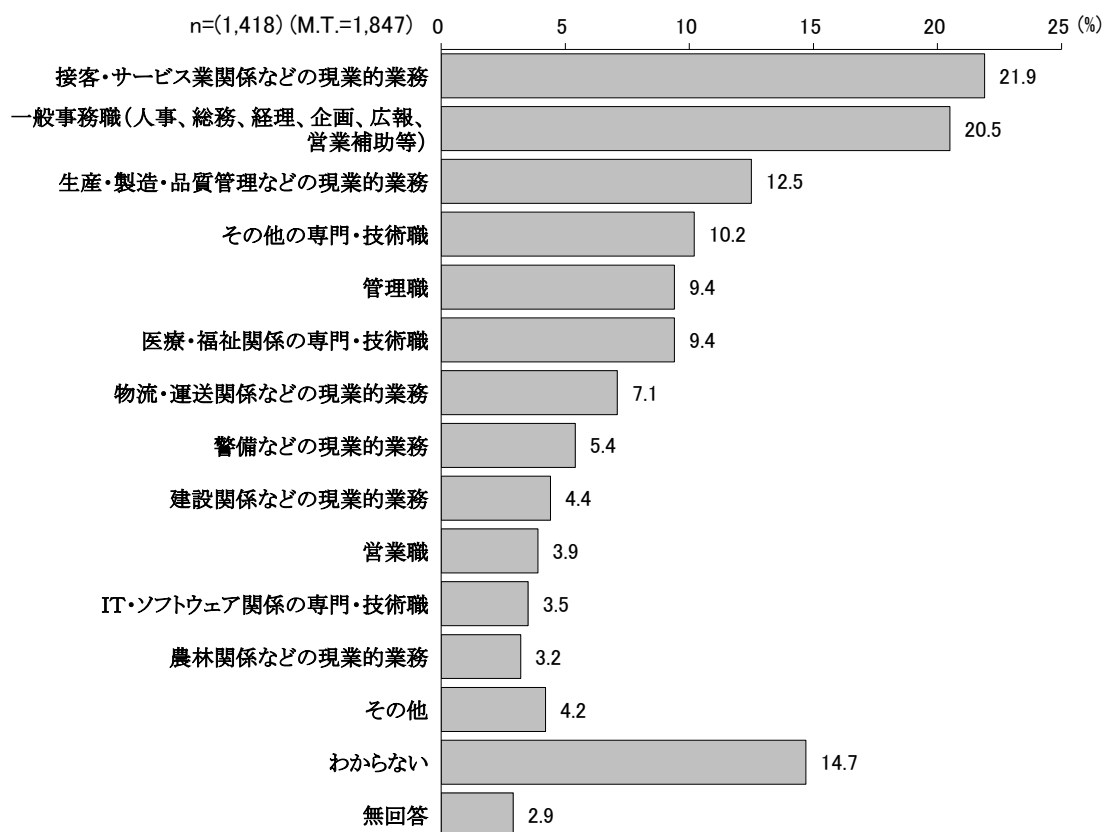
60歳以降に働きたい会社は、「同じ会社で同じ仕事内容で働きたい」(49.9%)が約5割と最も高く、次いで、「どちらでもよい」(23.7%)、「別の会社で違う仕事内容で働きたい」(11.4%)となっている。

（１－３）60歳以降に働きたい職種

◇「接客・サービス業関係などの現業的業務」が21.9%

（問29で「65歳くらいまで」、「70歳くらいまで」、「75歳くらいまで」、「80歳くらいまで」、「働けるうちはいつまでも」のいずれかを答えた方に）

問30 あなたは、60歳以降も働くとしたら、どのような仕事で働きたいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。



60歳以降に働きたい職種は、「接客・サービス業関係などの現業的業務」（21.9%）が2割強と最も高く、次いで、「一般事務職（人事、総務、経理、企画、広報、営業補助等）」（20.5%）、「生産・製造・品質管理などの現業的業務」（12.5%）などとなっている。

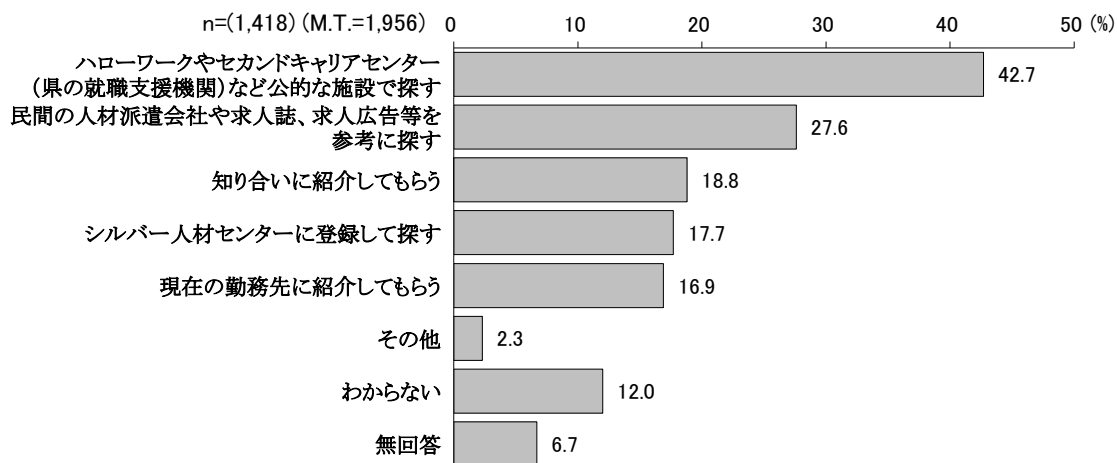
（１－４）60歳以降の職場探しの方法

◇「ハローワークやセカンドキャリアセンター（県の就職支援機関）など公的な施設で探す」が42.7%

（問29で「65歳くらいまで」、「70歳くらいまで」、「75歳くらいまで」、「80歳くらいまで」、「働けるうちはいつまでも」のいずれかを答えた方に）

問31 あなたは、60歳以降新しい職場を探すとしたら、主にどのような方法で探したいですか。あてはまるものをすべて選んでください。

（60歳以上の方は、60歳当時の希望についてお答えください。）



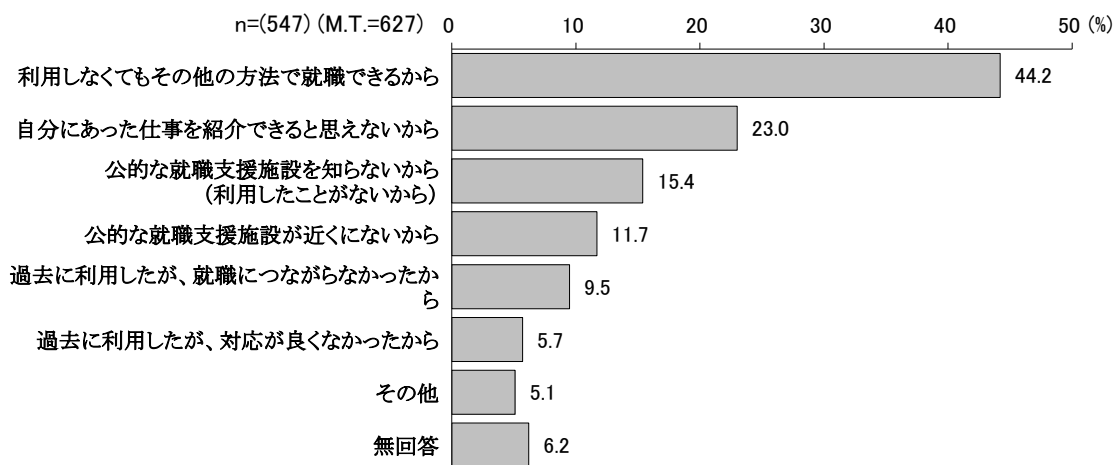
60歳以降の職場探しの方法は、「ハローワークやセカンドキャリアセンター（県の就職支援機関）など公的な施設で探す」（42.7%）が4割強と最も高く、次いで、「民間の人材派遣会社や求人誌、求人広告等を参考に探す」（27.6%）、「知り合いに紹介してもらう」（18.8%）などとなっている。

（１－４－１）公的な就職支援施設を利用しない理由

◇「利用しなくてもその他の方法で就職できるから」が44.2%

（問31で「民間の人材派遣会社や求人誌、求人広告等を参考に探す」、「シルバー人材センターに登録して探す」、「現在の勤務先に紹介してもらう」、「知り合いに紹介してもらう」、「その他」のいずれかを答えた方に）

問31－１ ハローワークやセカンドキャリアセンター等の公的な就職支援施設を利用しない理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

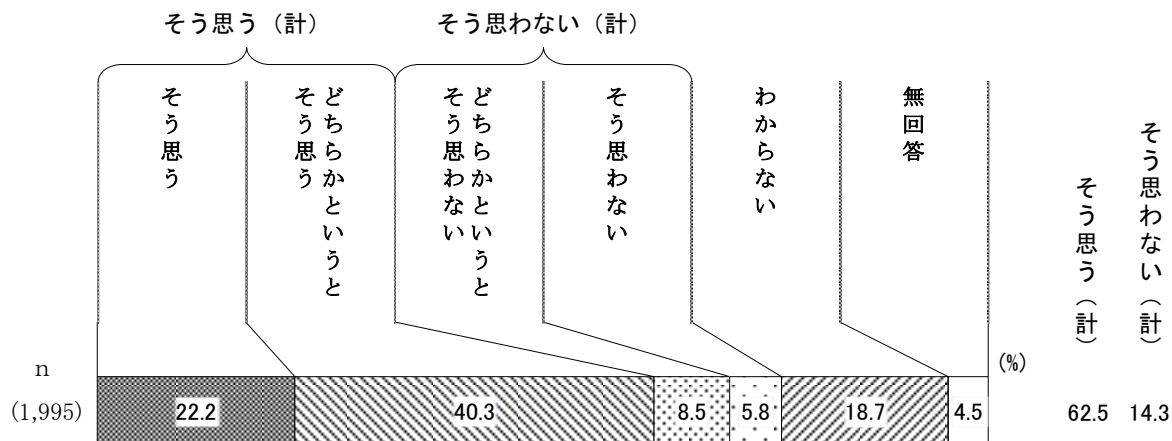


公的な就職支援施設を利用しない理由は、「利用しなくてもその他の方法で就職できるから」(44.2%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「自分にあった仕事を紹介できると思えないから」(23.0%)、「公的な就職支援施設を知らないから（利用したことがないから）」(15.4%) などとなっている。

(2) 働くシニアを応援する気運の高まりやシニアの働く場の広がり

◇『そう思う（計）』が62.5%

問32 あなたは、ここ数年の間に、働くシニアを応援する気運が高まったり、シニアの働く場が広がってきたりしていると思いますか。

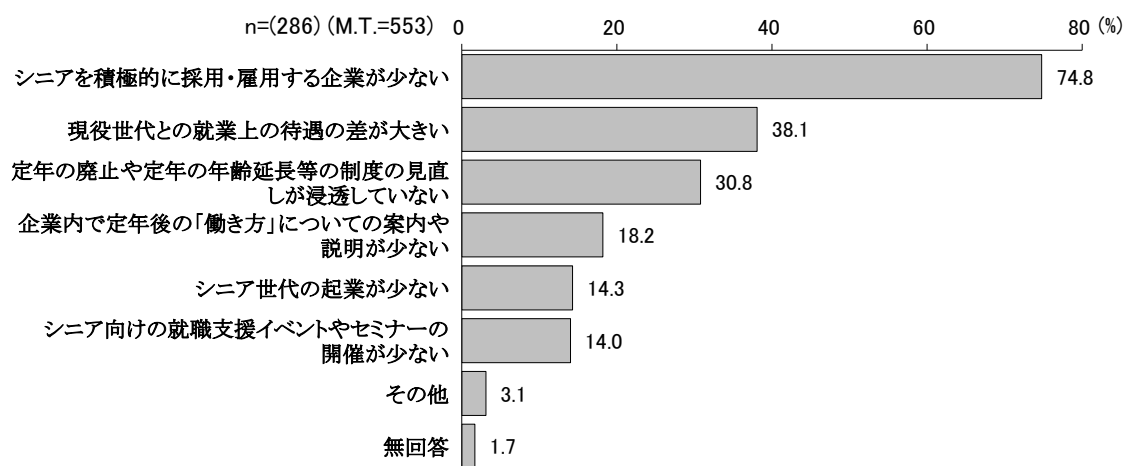


働くシニアを応援する機運が高まったり、シニアの働く場が広がってきたかについては、「どちらかというそう思う」（40.3%）が4割を超えて最も高く、これに「そう思う」（22.2%）を合わせた『そう思う（計）』（62.5%）は6割強となっている。一方で、「どちらかというそう思わない」（8.5%）と「そう思わない」（5.8%）を合わせた『そう思わない（計）』（14.3%）は1割台半ばとなっている。

（２－１）働くシニアを応援する気運や働く場が拡大しない理由

◇「シニアを積極的に採用・雇用する企業が少ない」が74.8%

（問32で「どちらかというと思わない」または「そう思わない」と答えた方に）
問32－１　働くシニアを応援する気運が高まったり、シニアの働く場が広がったりしていない
と思うのはどのような理由からですか。次の中から3つまで選んでください。

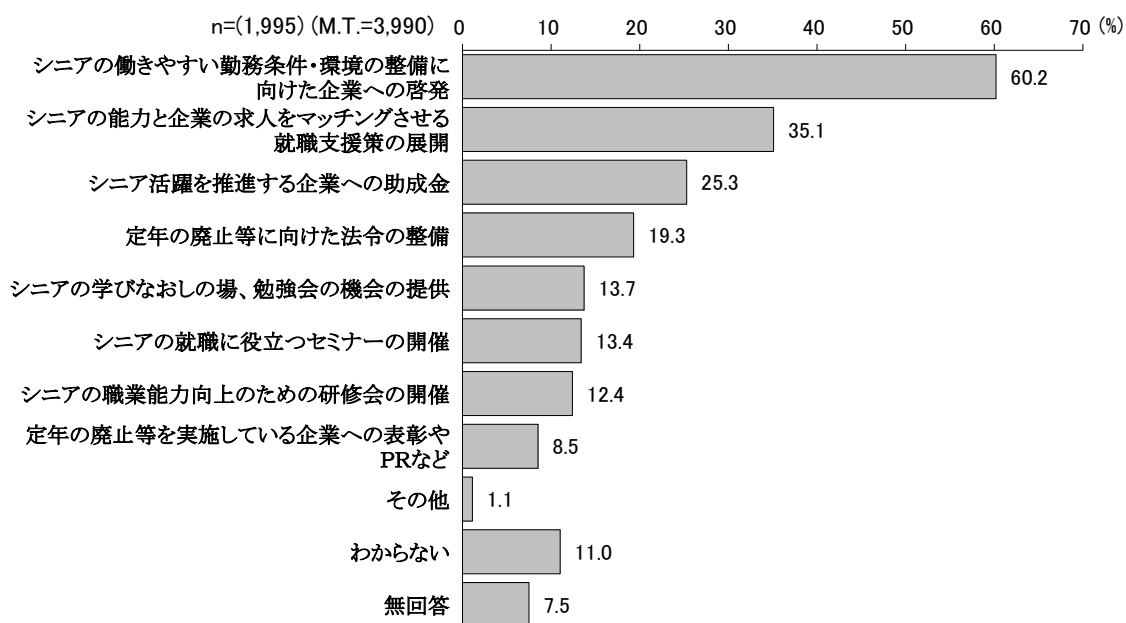


働くシニアを応援する気運や働く場が拡大しない理由は、「シニアを積極的に採用・雇用する企業が
少ない」(74.8%)が7割台半ばと最も高く、次いで、「現役世代との就業上の待遇の差が大きい」(38.1%)、
「定年の廃止や定年の年齢延長等の制度の見直しが浸透していない」(30.8%) などとなっている。

（３）働くシニアの活躍の場を拡大するために必要な取組

◇「シニアの働きやすい勤務条件・環境の整備に向けた企業への啓発」が60.2%

問33 あなたは、働くシニアの活躍の場が拡大するために行政はどのような取組をしていくことが必要と考えますか。次の中から3つまで選んでください。



働くシニアの活躍の場を拡大するために必要な取組は、「シニアの働きやすい勤務条件・環境の整備に向けた企業への啓発」（60.2%）が6割を超え最も高く、次いで、「シニアの能力と企業の求人をマッチングさせる就職支援策の展開」（35.1%）、「シニア活躍を推進する企業への助成金」（25.3%）などとなっている。

(参考資料) 世論調査実施状況

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
1	昭和43年度	8月16日～9月2日	県政全般(県政への関心、暮らし向き、青少年、教育、保健、スポーツ、社会福祉、住宅、環境等)	1,500	個別面接聴取法	84.0%
2	昭和44年度	7月15日～31日	県政全般(自治意識、暮らし向き、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、環境、消費生活等)	1,500	個別面接聴取法	81.3%
3	昭和45年度	9月20日～10月10日	県政全般(自治意識、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、公害、消費生活、農業等)	1,500	個別面接聴取法	86.5%
4		11月9日～24日	広報、具体的な広報の媒体、広聴	1,500	個別面接聴取法	89.1%
5	昭和46年度	9月20日～10月3日	近隣社会、居住環境	1,500	個別面接聴取法	90.7%
6		11月26日～12月9日	大災害に関すること(一般的関心、地震、防火、避難、近隣組織、職場・外出先での対策、地震に対する備えについて)	1,500	個別面接聴取法	86.6%
7	昭和47年度	10月26日～11月4日	県政全般(公害・交通問題、県民の健康と暮らし、教育・文化・スポーツを伸ばす等)	1,500	個別面接聴取法	82.5%
8	昭和48年度	11月14日～26日	県政全般(広報、自然環境と開発、福祉、消費生活、ごみ処理、保健、商工、農林、労働、都市環境、教育等)	1,500	個別面接聴取法	84.7%
9	昭和49年度	8月15日～27日	県政全般(現在の住まい、広報、公害、交通、健康、県民の暮らし、学校教育、自然保護等)	1,500	個別面接聴取法	80.9%
10	昭和50年度	8月上旬～中旬	県政全般(公害、交通安全、災害、警察、医療、福祉、教育、自然保護と開発、水、住宅、ごみ、商工、農林等)	1,500	個別面接聴取法	77.1%
11		3月9日～18日	学校教育、生活環境、自然環境	1,500	個別面接聴取法	83.0%
12	昭和51年度	7月20日～31日	水問題、福祉問題、コミュニティ問題	1,500	個別面接聴取法	83.9%
13	昭和52年度	6月15日～30日	地域社会、地域福祉、文化活動、医療、献血、暴走族、県政への満足度、県民討論会、県政全般	1,500	個別面接聴取法	83.6%
14	昭和53年度	7月14日～26日	文化の問題、婦人の問題、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.1%
15	昭和54年度	7月10日～26日	みどりの環境、地震災害、県政全般	1,500	個別面接聴取法	81.9%
16	昭和55年度	7月25日～8月11日	老人福祉、21世紀のまちづくり、地価及び宅地問題、県政全般	1,500	留置記入依頼法	87.5%
17	昭和56年度	7月25日～8月14日	水問題、障害者福祉、県政全般	1,500	個別面接聴取法	84.1%
18	昭和57年度	7月23日～8月12日	交通安全、行政改革、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	82.5%
19	昭和58年度	7月20日～8月14日	21世紀の県民生活、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.7%
20	昭和59年度	7月20日～8月12日	みどり、快適な環境、文化活動、サービス業、県税、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	80.4%
21	昭和60年度	7月18日～8月11日	高齢化社会、コミュニティ、学校教育、平和、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	78.4%
22	昭和61年度	7月9日～8月14日	国際交流、健康、快適な環境、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.1%
23	昭和62年度	6月1日～30日	住環境、景観、交通網、生涯学習、ボランティア活動、社会意識、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	80.2%
24	昭和63年度	7月1日～31日	県民生活、土地問題、ごみ処理、文化活動、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.7%
25	平成元年度	6月23日～7月23日	高度情報化施策、男女平等意識、青少年健全育成、埼玉コロシウム・埼玉メッセ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
26	平成2年度	7月4日～29日	環境保全、交通安全、県税、お墓、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	78.1%
27	平成3年度	7月5日～8月4日	スポーツ・レクリエーション活動、道路整備、ペット問題、商品包装、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.5%
28	平成4年度	6月26日～7月26日	住宅問題、防災、高度情報化施策、個人情報保護、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.0%

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
29	平成5年度	7月9日～8月4日	新しいくにづくり、人と環境にやさしいリサイクル県づくり、国際化とまちづくり、住みよさ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.2%
30	平成6年度	7月8日～8月10日	消費生活、ボランティア活動・福祉活動への参加について、子どもと家族、県の広報について、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
31	平成7年度	7月1日～31日	21世紀の彩の国さいたまの将来像、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	78.3%
32	平成8年度	7月10日～8月11日	ごみ減量化について、身近な自然について、健康と医療サービスについて、高度情報化施策について、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.3%
33	平成9年度	8月16日～9月15日	県政情報、安全な暮らし(防災、高齢者の交通安全、犯罪)、墓地、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.8%
34	平成10年度	7月10日～8月9日	国民体育大会、青少年問題、公園、高齢者福祉、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.9%
35	平成11年度	7月9日～8月8日	埼玉県の緑、子育て支援、ボランティア活動、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
36	平成12年度	7月8日～8月7日	環境全般・環境学習について、公害問題について、廃棄物問題・リサイクルについて、有害な化学物質について、地球温暖化について、環境保全活動について、今後の県の取り組み、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.7%
37	平成13年度	6月30日～7月30日	保健・医療、文化・芸術、国際交流・国際協力、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.2%
38	平成14年度	7月6日～8月5日	農林業の役割、屋外照明による生活環境への影響、日常生活、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
39	平成15年度	7月15日～8月5日	防犯、水環境、食の安全、日常生活、生活意識、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	67.3%
40	平成16年度	7月13日～8月10日	生活意識、日常生活、森林環境、地球温暖化、子どもの虐待、スポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.4%
41	平成17年度	7月2日～8月1日	生活意識、日常生活、子育て支援、みどりの環境税制、消費生活、まちづくり・住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.9%
42	平成18年度	7月8日～8月14日	生活意識、日常生活、生活範囲とまちづくり、外国人との共生、団塊世代等の人材活用、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	65.3%
43	平成19年度	7月13日～8月6日	生活意識、日常生活、消費生活、子どもの安全対策、県民のスポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.4%
44	平成20年度	7月11日～8月8日	生活意識、日常生活、住みよさ、みどりと川の再生、大学と地域の連携、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.8%
45	平成21年度	7月10日～8月3日	生活意識、日常生活、定住意向、スポーツ振興、水道の未来づくり、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.0%
46	平成22年度	7月9日～8月2日	生活意識、日常生活、消費生活、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.1%
47	平成23年度	7月8日～8月1日	生活意識、日常生活、住みよさ、自転車利用、生涯学習、買い物弱者、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.7%
48	平成24年度	7月6日～29日	生活意識、日常生活、定住意向、健康長寿埼玉、震災前後における省エネ・創エネに関する意識と行動の変化、県教育行政、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.1%
49	平成25年度	7月5日～28日	生活意識、日常生活、個人情報の保護と活用、埼玉県ホームページの利用状況、生涯学習、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.0%
50	平成26年度	7月4日～27日	生活意識、日常生活、住みよさ、埼玉版ウーマノミクスプロジェクト、治水対策、食品ロスの削減、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.8%
51	平成27年度	7月3日～26日	生活意識、日常生活、定住意向、人口減少問題、大地震への備え、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.9%
52	平成28年度	7月8日～31日	生活意識、日常生活、スポーツ振興、認知症、水道の利用、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	72.5%
53	平成29年度	7月7日～31日	生活意識、日常生活、シニアの社会参加、性的少数者(LGBT)、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.3%
54	平成30年度	7月6日～31日	生活意識、日常生活、受動喫煙防止対策、社会貢献活動における寄附、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.7%
55	令和元年度	7月5日～31日	生活意識、日常生活、大地震に備えた取組について、生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等について、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	66.5%

本報告書の調査データを引用された場合は、
掲載資料 1 部を下記の担当課へ送付願います。

令和元年度

埼玉県政世論調査

令和元年11月発行

埼玉県県民生活部広聴広報課

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-15-1



埼玉県マスコット「コバトン&さいたまっち」